

(別表第1)

サービス評価結果表

サービス評価項目

(評価項目の構成)

I.その人らしい暮らしを支える

(1)ケアマネジメント

(2)日々の支援

(3)生活環境づくり

(4)健康を維持するための支援

II.家族との支え合い

III.地域との支え合い

IV.より良い支援を行うための運営体制

ホップ 職員みんなで自己評価!
 ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
 シャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー

【外部評価実施評価機関】※評価機関記入

評価機関名	社会福祉法人 愛媛県社会福祉協議会
所在地	愛媛県松山市持田町三丁目8番15号
訪問調査日	令和 2 年 11 月 20 日

【アンケート協力数】※評価機関記入

家族アンケート	(回答数) 15名	(依頼数) 18名
地域アンケート回答数	3名	

※事業所記入

事業所番号	3870103250
事業所名	アトラス馬木
(ユニット名)	Aユニット
記入者(管理者)	
氏名	河野 めぐみ
自己評価作成日	令和 2 年 9 月 30 日

<p>【事業所理念】</p> <p>個人を尊重しその人らしい生活を支援します。 地域の中で共に暮らしていけるように支援します。</p>	<p>【前回の目標達成計画で取り組んだこと・その結果】</p> <p>1-34 毎月のお便りに新しい職員紹介を写真添付したり、退職した職員に対しては運営推進会議の案内状などに報告をしていく。</p>	<p>【今回、外部評価で確認した事業所の特徴】</p> <p>事業所は閑静な住宅街に立地しており、広い敷地の中には大きな畑もあり、季節の野菜などを栽培している。整形外科医である代表者は利用者のリハビリにも力を入れており、事業所1階には「リハビリ室」があり、利用者は物療機器や歩行器などを活用してリハビリに取り組むほか、スペースをカラオケなどのレクリエーションにも活用することができている。毎日のようにリハビリや体操を生活に取り入れることで、利用者の機能回復にもつながっており、利用者の中には身体機能向上を介護計画の目標に掲げ、利用者ができることを増やしている。法人・事業所として、外国人技能実習生の受け入れや外国籍の職員の雇用にも積極的に、職員確保に努めるほか、人材育成に協力している。外国籍の職員も親を大切にすることを重視し、利用者への感謝の気持ちを込めた支援ができており、職員は言葉の理解などのフォローをしながら、協力し合うことができています。職員は、「利用者を楽しく過ごせるための環境づくりに努めたい」と考えており、利用者への声をかけながら、実現に向けて取り組んでいる。また、法人・事業所として、ケアプラン等の記録様式を改め、現在整備している。代表者は職員を大切にしているほか、管理者と職員の関係性は良く、利用者本位の支援が行われるよう取り組んでいる。看取り支援においても、医師である代表者や看護師を中心に連携体制が取れており、利用者や家族の安心感にもつながっている。</p>
---	---	---

評価結果表

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
I.その人らしい暮らしを支える									
(1)ケアマネジメント									
1	思いや暮らし方の希望、意向の把握	a	利用者一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。	○	入所時に本人のできることや好きな事を把握し、本人の意向を取り入れている。	○	/	○	日々の暮らしの中で、職員は利用者から楽しかったことや食べたい物、やりたいことなど聞いている。外国籍の職員も優しく、利用者との会話や支援の中から意向の把握に努めている。
		b	把握が困難な場合や不確かな場合は、「本人はどうか」という視点で検討している。	○	認知症の進行症状によっては把握困難なケースがあるが、ケアマネと連携を図り「本人はどうか」という視点で検討している。	/	/	/	
		c	職員だけでなく、本人をよく知る人(家族・親戚・友人等)とともに、「本人の思い」について話し合っている。	○	新規入所時に、家族の意向を出るだけ取り入れ、本人の思いや生活歴について家族と面会時、話し合っている。	/	/	/	
		d	本人の暮らし方への思いを整理し、共有化するための記録をしている。	○	ケアプランの支援経過、カンファレンスで家族と本人の声掛けに働きかけている。遠方の家族にはお便りにて情報発信している。	/	/	/	
		e	職員の思い込みや決めつけにより、本人の思いを見落とさないように留意している。	○	チーム会、勉強会で本人の思いについて情報共有を行っている。	/	/	/	
2	これまでの暮らしや現状の把握	a	利用者一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、こだわりや大切にしてきたこと、生活環境、これまでのサービス利用の経過等、本人や本人をよく知る人(家族・親戚・友人等)から聞いている。	○	新規入所時に本人の生活歴、馴染みの暮らしについて把握し、出来るだけ本人の所有物を取り入れているが、一部の方は清潔保持や危険行為防止の課題となっている。	/	/	○	入居時に、職員は利用者や家族のほか、入居前に関わっていた介護サービス事業所などの職員から情報を得ている。聞き取った情報は、センター方式のアセスメントシートなどを活用して、記録している。
		b	利用者一人ひとりの心身の状態や有する力(わかること・できること・できそうなこと等)等の現状の把握に努めている。	◎	出来る事や生活歴を共有し、利用者様に役割を持ってもらう様に支援している。食器拭き、洗濯たたみ、レクリエーション、新聞折など取り入れている。	/	/	/	
		c	本人がどのような場所や場面で安心したり、不安になったり、不安定になったりするかを把握している。	△	日々の生活の中で不安要素や、不穏時のきっかけについて相談、申し送りしている。意志疎通が困難な方は今後の課題となる。	/	/	/	
		d	不安や不安定になっている要因が何かについて、把握に努めている。(身体面・精神面・生活環境・職員のかかわり等)	◎	不安定である時は、かかりつけ医と連携し助言を頂き、必要があれば平和通心療内科とも連携を図っている。	/	/	/	
		e	利用者一人ひとりの一日の過ごし方や24時間の生活の流れ・リズム等、日々の変化や違いについて把握している。	○	1日の過ごし方の生活のリズムを各ユニットで把握し勉強会や、チーム会で話し合っている。センター方式を取り入れることもある。	/	/	/	
3	チームで行うアセスメント(※チームとは、職員のみならず本人・家族・本人をよく知る関係者等を含む)	a	把握した情報をもとに、本人が何を求め必要としているのかを本人の視点で検討している。	◎	入所時のアセスメント、家族の調所をもとに、検討出来ている。	/	/	○	毎月のミーティングや勉強会で把握した情報を職員に周知し、利用者本人の視点で検討している。話し合われた内容は、申し送りノートに記録している。
		b	本人がより良く暮らすために必要な支援とは何かを検討している。	○	勉強会やチーム会で検討し、本人がしたいことに対して実現可能な場合は職員が準備をし、実践している。	/	/	/	
		c	検討した内容に基づき、本人がより良く暮らすための課題を明らかにしている。	○	勉強会やチーム会で課題究明に努めている。	/	/	/	

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
4	チームでつくる本人がより良く暮らすための介護計画	a	本人の思いや意向、暮らし方が反映された内容になっている。	△	意思表示の出来る利用者に対しては反映されているが、それ以外の利用者については職員や家族が本人の思いを汲み取っている。	/	/	/	訪問調査日には、「役割を持ちたい」や「トイレでしっかり立ちたい」など、利用者の意向に沿った目標を取り入れた介護計画書を確認することができた。事業所に介護計画等をお任せする家族も増えているが、事業所では家族等の要望を踏まえて職員も意見を出し合いながら、総合的な視点で介護計画を作成できるような努めている。
		b	本人がより良く暮らすための課題や日々のケアのあり方について、本人、家族等、その他関係者等と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映して作成している。	◎	家族から人前で歌を歌うのが好きだったという情報をもとに、リハビリの時間を活かして本人が人前で歌える歌の把握に努め、他施設の音楽会にて披露される。	○	/	○	
		c	重度の利用者に対しても、その人が慣れ親しんだ暮らし方や日々の過ごし方ができる内容となっている。	○	日々の会話の中で、馴染みのある暮らし方を聞き取り、声掛けで表情を見て、反応を伺っている。	/	/	/	
		d	本人の支え手として家族等や地域の人たちとの協力体制等が盛り込まれた内容になっている。	○	2ヶ月に一回運営推進会議を開催している。家族・地域で出来る事を意見交換で話し合っている。	/	/	/	
5	介護計画に基づいた日々の支援	a	利用者一人ひとりの介護計画の内容を把握・理解し、職員間で共有している。	○	以前は出来ていなかったが、様式を改め、ケアプラン、モニタリング等作成時にはサービスチェック表にて、確認の徹底し職員に促している。	/	/	/	介護計画は個人ファイルに綴じて、職員がサービス内容を確認しやすいようにしている。サービス計画チェック表にも目標が記載されており、職員は毎日確認しながら、日々の支援につなげている。多国籍の職員も記録しやすいように簡素化され、日本人の職員がフォローする形で、具体的な内容を記録することができている。職員の気づきなどは、勉強会の中で検討している。現在、法人・事業所として、ケアプラン・モニタリングの様式を変更していることもあり、利用者全員の記録様式等が統一できていないこともあり、管理者は今後様式を統一した介護計画書等の一式の作成を予定している。
		b	介護計画にそってケアが実践できたか、その結果どうだったかを記録して職員間で状況確認を行うとともに、日々の支援につなげている。	○	H30年10月よりケアプラン・モニタリングの様式を改訂し、職員間で状況確認し日々の支援につなげている。	/	/	/	
		c	利用者一人ひとりの日々の暮らしの様子(言葉・表情・しぐさ・行動・身体状況・エピソード等)や支援した具体的内容を個別に記録している。	△	多国籍の職員でも記録できるよう、記録物は簡素化されている。お変わりがあれば、具体的な内容を記録している。	/	/	△	
		d	利用者一人ひとりについて、職員の気づきや工夫、アイデア等を個別に記録している。	○	ケアの仕方から、設備に関すること等、職員間の会話で出たアイデアは改善提案という形で勉強会で検討し合い反映させて頂いている。	/	/	○	
6	現状に即した介護計画の見直し	a	介護計画の期間に応じて見直しを行っている。	○	3か月に1回はサービス計画について見直しを実施している。	/	/	/	介護計画は、3か月に1回を基本として見直しをしている。サービス計画チェック表で、職員は利用者へのサービスの実施状況を毎日確認し、毎月各利用者の担当職員を中心に総合して評価し、「評価コメント欄」にコメントを残している。また、利用者の状態に変化が生じた場合には、その都度見直ししており、家族に報告や相談を行いながら、新たな計画を作成している。
		b	新たな要望や変化がみられない場合も、月1回程度は現状確認を行っている。	○	チーフ会、勉強会で本人・家族の要望を話し合い、現状の把握に努めている。	/	/	/	
		c	本人の心身状態や暮らしの状態に変化が生じた場合は、随時本人、家族等、その他関係者等と見直しを行い、現状に即した新たな計画を作成している。	○	暮らしについての変化は本人・家族、医療面はかかりつけ医に報告し、見直しを行っている。	/	/	/	
7	チームケアのための会議	a	チームとしてケアを行う上での課題を解決するため、定期的、あるいは緊急案件がある場合にはその都度会議を開催している。	○	入院時、緊急時には今後の方針など関係医療機関と話し合い、チーフ会にて検討している。	/	/	/	毎月、職員会議やミーティングを実施し、職員や利用者の課題解決のため意見交換を行っている。事前に、チーフ会を開催し、話し合う内容をまとめて、会議がスムーズに進行できるよう努めている。入院などの緊急案件がある場合には医療機関と話し合うほか、チーフ会の中でも検討している。参加できなかった職員は、議事録で内容を確認し、確認後には名簿にチェックを入れている。
		b	会議は、お互いの情報や気づき、考え方や気持ちを率直に話し合い、活発な意見交換ができるよう雰囲気や場づくりを工夫している。	○	チーフ会、ミーティングで意見交換を行っている。一部、意見発表が苦手な職員がいる状態。	/	/	/	
		c	会議は、全ての職員を参加対象とし、可能な限り多くの職員が参加できるよう開催日時や場所等、工夫している。	◎	毎月第三週の木曜日に職員会議を開催している。職員の都合によっては翌週に延期し、多くの職員が参加できるよう取り組んでいる。	/	/	/	
		d	参加できない職員がいた場合には、話し合われた内容を正確に伝えるしくみをつくっている。	◎	休憩室に議事録を掲示し、閲覧者は名簿にチェックを入れて頂き、閲覧の有無を見る化している。まだ見ていない職員がいれば、職員同士声をかけ合っている。	/	/	○	
8	確実な申し送り、情報伝達	a	職員間で情報伝達すべき内容と方法について具体的に検討し、共有できるしくみをつくっている。	△	事務所のパソコンにて申し送りの管理を行っている。職員は業務前に確認を行っているが、確認不十分な時がある。	/	/	/	各ユニットにパソコンが設置されており、申し送りなどの記録は各職員が入浴し、データで管理されている。また、重要事項は赤字で入力し、他の職員が見ても分かるように工夫している。
		b	日々の申し送りや情報伝達を行い、重要な情報は全ての職員に伝わるようにしている。(利用者の様子・支援に関する情報・家族とのやり取り・業務連絡等)	○	重要な申し送り事項は文字の色を変え、分かりやすくしている。	◎	/	/	

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
(2) 日々の支援									
9	利用者一人ひとりの思い、意向を大切にしたい支援	a	利用者一人ひとりの「その日したいこと」を把握し、それを叶える努力を行っている。	△	可能な限りお出掛けやリハビリなど、本人が希望したものを取り入れている。一部意思疎通が困難な方は今後の課題となる。	/	/	/	洋服選びや散歩、入浴、飲み物の温度など、職員は日常生活において利用者に自己決定できるよう支援している。リハビリや体操で体を動かすことで、表情筋も和らぐほか、脳の活性化にもなり、利用者の生き生きとした生活に結びついている。
		b	利用者が日々の暮らしの様々な場面で自己決定する機会や場をつくっている。(選んでもらう機会や場をつくる、選ぶのを待っている等)	△	リハビリ器具の使用について、どこから行かうか。また、お飲み物の熱さや、お買い物で、ご希望の日用品を選んで頂いている。	/	/	○	
		c	利用者が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかるかに合わせた支援を行うなど、本人が自分で決めたり、納得しながら暮らせるよう支援している。	○	本人から希望を出される方が多い。ベッドに小物入れを取り付けたり、穴あけなど、本人で出来ない事は職員がお手伝いさせて頂いている。	/	/	/	
		d	職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースや習慣を大切にしたい支援を行っている。(起床・就寝、食事・排泄・入浴等の時間やタイミング・長さ等)	△	リハビリや飲物選び、入浴の順番など、本人に選んで頂けるよう声掛けを取り入れている。意思疎通困難な方は職員が本人の気持ちを汲んで選ばせて頂いている。	/	/	/	
		e	利用者の生き生きとした言動や表情(喜び・楽しみ・うるおい等)を引き出す言葉がけや雰囲気づくりをしている。	○	一部表情が乏しい方に対しては傾聴の姿勢で本人の言動に注目している。	/	/	○	
		f	意思疎通が困難で、本人の思いや意向がつかめない場合でも、表情や全身での反応を注意深くキャッチしながら、本人の意向にそった暮らし方ができるよう支援している。	○	表情の変化に留意し、足の浮腫が原因だとわかると両足の挙上出来る様に職員手作りの足置きを作成し、表情落ちついている。	/	/	/	
10	一人ひとりの誇りやプライバシーを尊重した関わり	a	職員は、「人権」や「尊厳」とは何かを学び、利用者の誇りやプライバシーを大切にしたい言葉かけや態度等について、常に意識して行動している。	○	研修や声かけについての啓発本を閲覧し、本人の尊厳を失わないよう取り入れている。	/	○	○	勉強会やリスクマネジメント研修の中に、プライバシー等のテーマを取り入れて職員に学ぶ機会を作っている。外国籍の職員も、高齢者や家族を大切にしておく国柄が業務にも活かされるなど、丁寧な対応ができています。利用者や職員との会話の中で、理解と言葉の表出が伴わず誤解を受けそうなこともあるが、職員同士フォローし合うことができています。また、居室に入る際に職員は、ノックや声かけを基本として実施している。
		b	職員は、利用者一人ひとりに対して敬意を払い、人前であからさまな介護や誘導の声かけをしないよう配慮しており、目立たずさりげない言葉がけや対応を行っている。	△	一部の職員は出来ているが全職員共通ではない。	/	/	○	
		c	職員は、排泄時や入浴時には、不安や羞恥心、プライバシー等に配慮しながら介助を行っている。	○	夏場は暑さ対策の為、暖簾をつけさせて頂いた。トイレは中が見えないよう、カーテンをつけさせて頂いている。	/	/	/	
		d	職員は、居室は利用者専用の場所であり、プライバシーの場所であることを理解し、居室への出入りなど十分配慮しながら行っている。	○	掃除の時はノックをし本人に説明をし納得されてから入るようにしている。	/	/	○	
		e	職員は、利用者のプライバシーの保護や個人情報漏えい防止等について理解し、遵守している。	○	職員は勉強会でコンプライアンスについて理解を深めている。また、外部に情報を促す時には、必ず同意書を作成し、同意を得ない情報に関しては、漏洩防止している。	/	/	/	
11	ともに過ごし、支え合う関係	a	職員は、利用者を介護される一方の立場におかず、利用者に助けをもらったり教えてもらったり、互いに感謝し合うなどの関係性を築いている。	○	洗濯物干し・畳み、食器拭き、玉ねぎの皮剥きを利用者と一緒に行っている。また、労いの言葉や感謝の言葉を伝えている。	/	/	/	100歳を迎えた利用者を感じ、他の利用者が優しくお世話する姿を見ることができた。ユニットを超えて利用者が集まるカラオケやリハビリをする機会も多く、利用者同士の馴染みの関係づくりができています。不安になる利用者には職員が寄り添い、場所を変えて作業の手伝いをしてもらうなど、さり気なくかわることで利用者同士のトラブルを未然に防いでいる。
		b	職員は、利用者同士がともに助け合い、支え合って暮らしていくことの大切さを理解している。	△	職員だけでしている事の中に、利用者もできる事が含まれてしまっている為、今後の課題となる。	/	/	/	
		c	職員は、利用者同士の関係を把握し、トラブルになったり孤立したりしないよう、利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。(仲の良い利用者同士が過ごせる配慮をする、孤立しがちな利用者が交わえる機会を作る、世話役の利用者にうまく力を発揮してもらう場面をつくる等)。	◎	別ユニットの利用者が来た時、職員の声かけにてお世話好きな利用者同士で談話をされ、馴染みの関係がつかれるよう支援させて頂いている。	/	/	○	
		d	利用者同士のトラブルに対して、必要な場合にはその解消に努め、当事者や他の利用者に不安や支障を生じさせないようにしている。	○	基本職員が架け橋となるよう心がけているが、どちらかの利用者が手を挙げようとした時は、速やかに利用者同士距離をとらせて頂いている。	/	/	/	

項目 No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
12	馴染みの人や場との関係継続の支援	a	これまで支えてくれたり、支えてきた人など、本人を取り巻く人間関係について把握している。	○	入居時のアセスメントで得た情報は個人ファイルに綴っている為、全職員いつでも情報を引き出せるようにしている。その為、概ね把握している。				
		b	利用者一人ひとりがこれまで培ってきた地域との関係や馴染みの場所などについて把握している。	○	地元の秋祭りを大事にされている利用者の家族へ地元祭りの参加をうながしている。外出の際は会話に取り入れている。				
		c	知人や友人等に会いに行ったり、馴染みの場所に出かけていくなど本人がこれまで大切にしてきた人や場所との関係が途切れないよう支援している。	○	面会、外出、外泊は体調悪化がない限り、参加を促して支援している。				
		d	家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪れ、居心地よく過ごせるよう工夫している。	○	家族に合わせ、居室と一緒に談話されたり、リビングで一緒に過ごして頂いている。				
13	日常的な外出支援	a	利用者が、1日中ホームの中で過ごすことがないよう、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう取り組んでいる。(職員側の都合を優先したり、外出する利用者、時間帯、行き先などが固定化していない)(※重度の場合は、戸外に出て過ごすことも含む)	○	要望があれば、職員と一緒にお買物に出かけたり、公園で日光浴ができるよう支援させて頂いている。	△	△	○	季節に応じて、桜などの花見に行ったり、ドライブでいちご狩りなどの外出行事に出かけられるよう支援している。コロナ禍になる前には、利用者と一緒に外出することができていたが、現在は外出を自粛となっている。事業所周辺を散歩したり、畑で収穫したさつま芋を使用して、焼き芋大会を開催するなど、可能な範囲で職員は利用者が気晴らしできるように支援している。また、事業所には、車いすを使用している利用者も多く、重度な利用者を中心に支援することが多い。
		b	地域の人やボランティア、認知症サポーター等の協力も得ながら、外出支援をすすめている。	△	他施設との交流として、グループホームいだいより外出先として受け入れの許可を頂いている。				
		c	重度の利用者も戸外で気持ち良く過ごせるよう取り組んでいる。	○	季節に応じて、日光浴や散歩、畑の芋ほりまで楽しまれた。				
		d	本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら、普段は行けないような場所でも出かけられるように支援している。	◎	食事や景色がそれぞれで楽しめるよう、1回の外出で目的地が2つ以上になるよう計画させていた。				
14	心身機能の維持、向上を図る取り組み	a	職員は認知症や行動・心理症状について正しく理解しており、一人ひとりの利用者の状態の変化や症状を引き起こす要因をひもとき、取り除くケアを行っている。	○	個別の周辺症状を理解してチーフ会、ミーティング等に話し合いの場を持っている。				100歳になる高齢の利用者も自力で食事を摂取したり、衣服の着脱など利用者のできることやできそうなところに着目したりするなど、職員は気長に見守りながら支援している。裁縫が得意だった利用者には雑巾を縫ってもらい、掃除で活用している。リビングには手作りカレンダーが掛けられており、利用者が日付の数字や曜日を探したり、それをきちんと入れたりするなど、それぞれの役割に分かれ、みんなで協力しながら毎日完成させている。また、事業所の1階にはリハビリ室があり、利用者は身体機能の維持のため、リハビリにも取り組んでいる。
		b	認知症の人の身体面の機能低下の特徴(筋力低下・平衡感覚の悪化・排泄機能の低下・体温調整機能の低下・嚥下機能の低下等)を理解し、日常生活を営む中で自然に維持・向上が図れるよう取り組んでいる。	○	毎日出来るだけ、本人のリハビリ計画を作成したもので、リハビリメニューを作成、支援、週1回の専門のリハビリ支援を実施。				
		c	利用者の「できること、できそうなこと」については、手や口を極力出さずに見守ったり一緒に行うようにしている。(場面づくり、環境づくり等)	○	食事等できることは参加してもらえらる様に側面的に支援している。		○	○	
15	役割、楽しみごと、気晴らしの支援	a	利用者一人ひとりの生活歴、習慣、希望、有する力等を踏まえて、何が本人の楽しみごとや役割、出番になるのかを把握している。	○	本人のできることを取り入れ役割、出番がある時は、協力を求めて支援している。				食器拭きや洗濯物たたみなど、自分の仕事のように楽しみに行う利用者もいる。金魚の世話も、利用者の役割の一つとなっている。高齢や重度化に伴い、現在話すことは少なくなったが、利用者の昔話に職員は耳を傾け、喜びを思い出せるよう配慮している。
		b	認知症や障害のレベルが進んでも、張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、日常的に、一人ひとりの楽しみごとや役割、出番をつくる取り組みを行っている。	○	ひとり一人に合った役割を考え、楽しんでもらえるよう取り組んでいる。		○	○	
		c	地域の中で役割や出番、楽しみ、張り合いが持てるよう支援している。	△	秋祭りには参加しているも、その他の地域行事にはこちらから出かけることはできていないので今後の課題				

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
16	身だしなみやおしゃれの支援	a	身だしなみを本人の個性、自己表現の一つととらえ、その人らしい身だしなみやおしゃれについて把握している。	○	その人らしいおしゃれができるように支援している。カットも定期的に行っている。				職員は声かけをして、自分でできる利用者には着替えや身だしなみを整えてもらっている。衣服の乱れなどが気づかない利用者には、職員がさり気なくフォローするなど、利用者の身だしなみにも配慮している。男性利用者の髭剃りも剃り残しには職員が注意を払い、介助してきれいに行っている。重度な状態であっても利用者の好みを大切に、職員は利用者の自分らしさが保てるよう支援している。
		b	利用者一人ひとりの個性、希望、生活歴等に応じて、髪形や服装、持ち物など本人の好みに整えられるように支援している。	○	外出するときは、服装などに気を付けなるべく配慮している。				
		c	自己決定がしにくい利用者には、職員と一緒に考えたりアドバイスする等本人の気持ちにそって支援している。	○	本人への少しの気遣いなど観察し、気づいて代弁出来るように支援している。				
		d	外出や年中行事等、生活の彩りにあわせてその人らしい服装を楽しめるよう支援している。	△	月単位の行事計画を作成し、毎月ミーティングで予定発表し参加を促している。				
		e	整容の乱れ、汚れ等に対し、プライドを大切にさりげなくカバーしている。(髭、着衣、履き物、食べこぼし、口の周囲等)	○	整容に関しては 皆で注意し汚れた場合はさりげなく動き 交換している	○	◎	○	
		f	理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている。	○	理容・美容は本人の希望にあわせ、施設内で実施したり、家族と協力して、実施している。				
		g	重度な状態であっても、髪形や服装等本人らしさが保てる工夫や支援を行っている。	○	季節ごとに服の依頼をしている。本人の好きな服などを依頼している。				
		17	食事を楽しむことのできる支援	a	職員は、食事の一連のプロセスの意味や大切さを理解している。	○	食事の配慮、彩などを考えて配膳している。温かいものは温かい物を提供している。		
b	買い物や献立づくり、食材選び、調理、後片付け等、利用者とともにやっている。	○	配膳や片付けなどは利用者と一緒にしている。			○			
c	利用者とともに買い物、調理、盛り付け、後片付けをする等を行うことで、利用者の力の発揮、自信、達成感につなげている。	○	配膳や片付けなどは利用者と一緒にしている。買い物は行ける場合は一緒に行っている						
d	利用者一人ひとりの好きなものや苦手なもの、アレルギーの有無などについて把握している。	○	本人のアレルギーなど、好きなもの、苦手なものを入所時に家族や本人との話で把握している。						
e	献立づくりの際には、利用者の好みや苦手なもの、アレルギー等を踏まえつつ、季節感を感じさせる旬の食材や、利用者にとって昔ながらの味のものを取り入れている。	○	アレルギーの配慮は、考慮しつつ、季節の食材など季節を感じるものを取り入れ栄養士が献立を作成している。			○			
f	利用者一人ひとりの咀嚼・嚥下等の身体機能や便秘・下痢等の健康状態にあわせて調理方法としつつ、おいしそうな盛り付けの工夫をしている。(安易にミキサー食や刻み食で対応しない、いろどりや器の工夫等)	○	利用者の状態に応じて食事形態について考え盛り付け配膳している。						
g	茶碗や湯飲み、箸等を使い慣れたもの、使いやすいものを使用している。	○	本人専用の茶碗、湯飲み、箸などを使い慣れたものを使っている。						
h	職員も利用者と同じ食卓を囲んで食事を一緒に食べながら一人ひとりの様子を見守り、食事のペースや食べ方の混乱、食べこぼしなどに対するサポートをさりげなく行っている。	○	本人が、食べこぼしなどに対して、サポート出来る様と同じテーブルに職員も共に食事をしている。						
i	重度な状態であっても、調理の音やにおい、会話などを通して利用者が食事が待ち遠しくおいしく味わえるよう、雰囲気づくりや調理に配慮している。	○	昼食前には利用者が全員リビングにいるため 配膳しながら五感を刺激できるようにしている。	○		○			
j	利用者一人ひとりの状態や習慣に応じて食べれる量や栄養バランス、カロリー、水分摂取量が1日を通じて確保できるようにしている。	○	栄養のバランスは栄養士のカロリー計算によってメニューを決定している。水分も摂取出来るように時間も決めている。						
k	食事が少なかったり、水分摂取量の少ない利用者には、食事の形態や飲み物の工夫、回数やタイミング等工夫し、低栄養や脱水にならないよう取り組んでいる。	○	水分摂取表を作成し、1日の目安が分かるように記録し、水分不足、脱水にならない様に配慮している。						
l	職員で献立のバランス、調理方法などについて定期的に話し合い、偏りがないように配慮している。場合によっては、栄養士のアドバイスを受けている。	○	栄養士が、利用者に対して栄養のバランスを考え、メニューを決め、アドバイスできる体制になっている。			○			
m	食中毒などの予防のために調理用具や食材等の衛生管理を日常的に行い、安全で新鮮な食材の使用と管理に努めている。	○	全員で勉強会も行い 食中毒をださないように徹底している。						

項目 No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
18	口腔内の清潔保持	a	職員は、口腔ケアが誤嚥性肺炎の防止につながることを知っており、口腔ケアの必要性、重要性を理解している。	○	誤嚥性肺炎の病気に対しての知識を日常を通して勉強している。残さ物の細菌により、右の肺に流れるなど観察している。	/	/	/	毎食後、利用者に歯みがき等をしてもらい、介助の必要な利用者には支援を行うなど、職員は利用者の口腔内を確認し、状態を把握している。毎月、歯科医による口腔ケア研修で、職員は支援方法を学ぶほか、指導を受けている。利用者の状況に合わせて、うがいのほか、職員はガーゼや歯ブラシなどを活用して介助し、口腔内の清潔保持に努めている。
		b	利用者一人ひとりの口の中の健康状況(虫歯の有無、義歯の状態、舌の状態等)について把握している。	○	本人の訴えはもとより、口腔ケア実施により口腔内の状態を観察し支援している。	/	/	○	
		c	歯科医や歯科衛生士等から、口腔ケアの正しい方法について学び、日常の支援に活かしている。	○	口腔ケア等の研修を促し支援方法を勉強している体制を作っている。月1回口腔ケアの指導してもらっている	/	/	/	
		d	義歯の手入れを適切に行えるよう支援している。	○	適切に行えるように指導している。	/	/	/	
		e	利用者の力を引き出しながら、口の中の汚れや臭いが生じないように、口腔の清潔を日常的に支援している。(歯磨き・入れ歯の手入れ・うがい等の支援、出血や炎症のチェック等)	○	歯磨き粉の使用、うがいの徹底し口腔内の汚れや臭いが生じないように留意して、支援している。	/	/	○	
		f	虫歯、歯ぐきの腫れ、義歯の不具合等の状態をそのままにせず、歯科医に受診するなどの対応を行っている。	○	必要であれば、協力医療機関に往診依頼し実施している。	/	/	/	
19	排泄の自立支援	a	職員は、排泄の自立が生きる意欲や自信の回復、身体機能を高めることにつながることや、おむつ(紙パンツ・パッドを含む)の使用が利用者の心身に与えるダメージについて理解している。	○	利用者に対して、なるべく紙パンツは避け、本人の尿意等の意向を尊重し排泄を促している。	/	/	/	トイレでの排泄の基本を重視して支援している。排泄チェック表で一人ひとりの状況を把握し、職員は時間やタイミングを見て利用者に声をかけ、トイレ誘導をしている。「トイレで排泄したい」という要望を介護計画の目標に取り入れ、支援している利用者もいる。パッド類などの排泄用品に関しては、職員で検討して家族に相談しながら、利用者に合わせて適切な支援につながるよう努めている。
		b	職員は、便秘の原因や及ぼす影響について理解している。	○	利用者の服薬の副作用等の薬情一覧をファイルして効用について理解を深めている。原因についても食事・運動のバランスなども考えている、更には病気等についても周知している。	/	/	/	
		c	本人の排泄の習慣やパターンを把握している。(間隔、量、排尿・排便の兆候等)	◎	排泄記録等を記入し、一人ひとりの排泄状態を知ることができている。	/	/	/	
		d	本人がトイレで用を足すことを基本として、おむつ(紙パンツ・パッドを含む)使用の必要性や適切性について常に見直し、一人ひとりのその時々状態にあった支援を行っている。	○	なるべくトイレで用を足すことに重点をおいて、本人のサインを見逃さない様に留意し声掛けしている。	◎	/	○	
		e	排泄を困難にしている要因や誘因を探り、少しでも改善できる点はないか検討しながら改善に向けた取り組みを行っている。	○	トイレに座って用を足す手段的日常動作について、部分的に支援している。	/	/	/	
		f	排泄の失敗を防ぐため、個々のパターンや兆候に合わせて早めの声かけや誘導を行っている。	◎	利用者それぞれの行動パターンや排泄状態を把握することで職員は早めの声掛け・誘導ができている。	/	/	/	
		g	おむつ(紙パンツ・パッドを含む)を使用する場合は、職員が一方的に選択するのではなく、どのような時間帯にどのようなものを使用するか等について本人や家族と話し合い、本人の好みや自分で使えるものを選択できるよう支援している。	○	日中、夜間の排泄状態を把握したうえで家族様、本人と相談し選択して頂いている。	/	/	/	
		h	利用者一人ひとりの状態に合わせて下着やおむつ(紙パンツ・パッドを含む)を適時使い分けている。	○	利用者の排泄・排尿の量を把握し、下着・パットの種類を検討している。	/	/	/	
		i	飲食物の工夫や運動への働きかけなど、個々の状態に応じて便秘予防や自然排便を促す取り組みを行っている。(薬に頼らない取り組み)	◎	水分補給の時間を作り、脱水、及び便秘予防に努めたメニューの工夫・更にはリハビリなどの運動効果を利用して、出来るだけ薬を使用しない様にしている。	/	/	/	
20	入浴を楽しむことができる支援	a	曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、利用者一人ひとりの希望や習慣にそって入浴できるよう支援している。(時間帯、長さ、回数、温度等)	◎	本人の意向を取り入れ、入浴の基本の曜日は設定しているが、1日の中で入浴・本人の気持ち、体調を考えて入浴を調整している。	◎	/	○	入浴できる曜日は設定しているが、利用者は週3回入浴することができる。利用者から毎日の入浴希望があれば、対応することも可能である。湯温や使い慣れた石けんなど、職員は利用者の習慣を尊重し、入浴が楽しめるよう支援している。各ユニットに個別浴槽があるほか、事業所の1階には機械浴槽もあり、利用者の状態に合わせて使い分け、利用者は安心して入浴することができている。
		b	一人ひとりが、くつろいだ気分が入浴できるよう支援している。	○	自分で入浴できる方は、なるべく本人におまかせし、時折浴場に声掛けし見守りしている。リラクゼーションできる様な環境作りをしている。	/	/	/	
		c	本人の力を活かしながら、安心して入浴できるよう支援している。	○	本人の出来る事、出来ない事を把握しながら常に声掛け等を行うことで安心して入浴出来る様努めている。	/	/	/	
		d	入浴を拒む人に対しては、その原因や理由を理解しており、無理強いせず気持ち良く入浴できるよう工夫している。	○	馴染みの深い職員に声掛けしてもらったり、散歩、リハビリの後に声掛けするなど工夫している。	/	/	/	
		e	入浴前には、その日の健康状態を確認し、入浴の可否を見極めるとともに、入浴後の状態も確認している。	◎	毎朝、バイタルチェックを実施して、健康管理を行い、入浴等の判断を各ナース、チーム以上で判断している。	/	/	/	

項目 No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
21	安眠や休息の支援	a	利用者一人ひとりの睡眠パターンを把握している。	◎	夜間帯の情報を朝の申し送りにて把握、変化がある利用者、昼夜逆転のある方は、協力医療機関と連携している。	/	/	/	事業所では、利用者の一日の生活リズムを大切に、整形外科医である代表者が取り入れているリハビリや体操で体を動かしたり、昼寝できる時間を設けてメリハリのある生活を確保したりするなど、利用者が自然な眠りにつながるよう支援している。代表者は、眠剤などの薬はできるだけ使用したくないと考えており、服用している利用者には生活リズムを改善しながら、減薬できるよう努めている。
		b	夜眠れない利用者についてはその原因を探り、その人本来のリズムを取り戻せるよう1日の生活リズムを整える工夫や取り組みを行っている。	◎	夜間入眠できる様に、日中にリハビリ、散歩を実施、会話、レクリエーションを実施、メリハリをつけている。	/	/	/	
		c	睡眠導入剤や安定剤等の薬剤に安易に頼るのではなく、利用者の数日間の活動や日中の過ごし方、出来事、支援内容などを十分に検討し、医師とも相談しながら総合的な支援を行っている。	◎	夜間の状態を協力医療機関に報告し導入剤の内服、服薬の変更時、協力医療機関に報告・相談している。	/	/	/	
		d	休息や昼寝等、心身を休める場面が個別に取れるよう取り組んでいる。	◎	本人の意向により、メリハリをつけ昼寝の時間、居室での本人の時間も大切にして、自由な時間も取り入れている。	/	/	/	
22	電話や手紙の支援	a	家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	◎	携帯電話は基本家族の責任であること伝え、意向は取り入れている。	/	/	/	/
		b	本人が手紙が書けない、電話はかけられないと決めつけず、促したり、必要な手助けをする等の支援を行っている。	◎	本人に、年賀状、はがき書いたりするために購入したり、本人に寂しさをなくす様に促している。	/	/	/	
		c	気兼ねなく電話できるよう配慮している。	◎	本人及び、家族には、気兼ねなく電話出来、話しをしてもらう様に否はしない様に留意している。	/	/	/	
		d	届いた手紙や葉書をそのままにせず音信がとれるように工夫している。	◎	手紙などは、本人が読める方は、お渡しするも、本人と一緒に読む様に職員に声掛けしている。	/	/	/	
		e	本人が電話をかけることについて家族等に理解、協力をしてもらうとともに、家族等からも電話や手紙をくれるようお願いしている。	◎	家族の管理が出来る方のみ連絡を取れる様にしている。	/	/	/	
23	お金の所持や使うことの支援	a	職員は本人がお金を所持すること、使うことの意味や大きさを理解している。	○	認知があるため妄想に発展する利用者様には、なるべく職員管理にしている。落ち着かない利用者には声掛けしている。	/	/	/	/
		b	必要物品や好みの買い物に出かけ、お金の所持や使う機会を日常的につくっている。	◎	職員と一緒に買い物に行くなど本人の必要な用品について金額が高い物以外は共に買い物支援を実施している。	/	/	/	
		c	利用者が気兼ねなく安心して買い物ができるよう、日頃から買い物先の理解や協力を得る働きかけを行っている。	○	買いたいものがある場合は一緒に行き可能な限り支援している。ほぼ家族が買って来る事が多い。	/	/	/	
		d	「希望がないから」「混乱するから」「失くすから」などと一方的に決めてしまうのではなく、家族と相談しながら一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	○	家族と相談しながら支援しているがほとんどの利用者が自分で持っている方はいない。	/	/	/	
		e	お金の所持方法や使い方について、本人や家族と話し合っている。	○	家族と相談しながら支援している。	/	/	/	
		f	利用者が金銭の管理ができない場合には、その管理方法や家族への報告の方法などルールを明確にしておき、本人・家族等の同意を得ている。(預り金規程、出納帳の確認等)。	◎	金銭管理規定に基づき管理している。月1回領収書と明細を家族に渡し、サインをもらっている。	/	/	/	
24	多様なニーズに応える取り組み		本人や家族の状況、その時々々のニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	○	本人との話しや、訴え、意向によって職員間で話し合い利用者の意向、家族の意向を取り入れている。	○	○	利用者から、「家族を呼んでほしい」「家に帰りたい」などの要望が出された場合には、家族に協力を得ながら実現できるように努めている。専門医の同行受診や洋服の購入など、職員は家族からの要望にも、柔軟に対応している。	

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと	
(3)生活環境づくり										
25	気軽に入れる 玄関まわり等の配慮		利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、気軽に出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている。	◎	玄関はいつも開放しており地域の方や家族が気軽に来もらえるようにしている。	◎	◎	◎	事業所前は広い駐車場があり、玄関先は手すりのついたスロープが設置されている。季節の花の鉢植えや観葉植物を置き、玄関は解放され、気軽に来訪してもらえるような雰囲気づくりをしている。	
26	居心地の良い 共用空間づくり	a	共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、家庭的な雰囲気を有しており、調度や設備、物品や装飾も家庭的で、住まいとしての心地良さがある。(天井や壁に子供向けの飾りつけをしていたり、必要なものしか置いていない殺風景な共用空間等、家庭的な雰囲気をそぐような設えになっていないか等。)	○	利用者と共に作成した、作品や、空間を工夫して、ユニットのカラーを出して飾りつけを実施している。	○	○	○	共有スペースの窓際にソファを置き、利用者は自然光を浴びながら、外の景色を眺めて過ごすことができる。車いすや歩行器が通りやすいよう、テーブルの配置に工夫しているほか、カウンターキッチンからはリビングで過ごす利用者の様子を見渡すことができる。事業所内には加湿器を置き、換気にも配慮している。雑誌や金魚鉢、利用者と一緒に作成した作品を掲示するなど、各ユニットの特徴を出しながら、居心地の良い空間づくりがされている。また、事業所の1階には、「リハビリ室」があり、利用者はリハビリに取り組みほか、カラオケなどを楽しむことができている。	
		b	利用者にとって不快な音や光、臭いがないように配慮し、掃除も行き届いている。	○	毎日の清掃により、衛生管理を徹底している。トイレ汚染等も速やかに掃除・消毒を利用者・家族が快適に過ごせるようにしている。					○
		c	心地よさや能動的な言動を引き出すために、五感に働きかける様々な刺激(生活感や季節感を感じるもの)を生活空間の中に採り入れ、居心地よく過ごせるよう工夫している。	○	料理を各ユニットで調理し、臭いの五感に働きかけ、今日の料理の紹介、味付けなど話したりする。					○
		d	気の合う利用者同士で思い思いに過ごせたり、人の気配を感じながらも独りになれる居場所の工夫をしている。	◎	各ユニットで外出したり、利用者同士での関係を深めるために共にリハビリしたり、話したり、笑ったりして頂いている。					
		e	トイレや浴室の内部が共用空間から直接見えないう工夫している。	○	ドアやカーテンを開める様に徹底している。					
27	居心地良く過ごせる 居室の配慮		本人や家族等と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	○	家族や本人の希望があれば使い慣れたものを持ってきてもらっている。	○		○	居室の入口には、利用者の干支や名前が貼られ、飾りが掛けられている利用者もいる。居室には、ベッドや洗面台、エアコン、タンスなどが備え付けられているほか、寝具も事業所で用意した物を使用することもできる。テレビやラジオを置いているほか、利用者は洗顔後に化粧水をつけたり、カレンダーに予定を書き込んだり、毎日細かく日誌をつけるなど、使い慣れた物を持ち込みながら、自分らしい居室を再現できている。	
28	一人ひとりの力が 活かせる環境づくり	a	建物内部は利用者一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように配慮や工夫をしている。	○	移動経路には、物を置かない様に工夫している。手すりの設置など移動がスムーズにできるように配慮している。			○	トイレを分かりやすく表示するとともに、「使用中」を示す札も用意されている。体操時に利用者等がぶつからないようテーブルの配置を工夫しているほか、動線に配慮して事業所内は整理整頓されている。冬場には、利用者の足が冷えるため、足置き台の作成を予定している。	
		b	不安や混乱、失敗を招くような環境や物品について検討し、利用者の認識間違いや判断ミスを最小にする工夫をしている。	○	居室・トイレなど迷わない様にわかりやすく名前をかけたリして間違いを最小にしている。					
		c	利用者の活動意欲を触発する馴染みの物品が、いつでも手に取れるように生活空間の中にさりげなく置かれている。(ぼうき、裁縫道具、大工道具、園芸用品、趣味の品、新聞・雑誌、ポット、急須・湯飲み・お茶の道具等)	◎	利用者の居室に本人の馴染み物品を置くように配慮している。危険な物などは家族と相談しながら支援している。					
29	鍵をかけない ケアの取り組み	a	代表者及び全ての職員が、居室や日中にユニット(棟)の出入り口、玄関に鍵をかけることの弊害を理解している。(鍵をかけられ出られない状態で暮らしていることの異常性、利用者にもたらす心理的不安や閉塞感・あきらめ・気力の喪失、家族や地域の人にもたらす印象のデメリット等)	○	日中は玄関・門もオープンにしている。いつでも気軽に来もらえるようにしている。	◎	◎	◎	職員は鍵をかけることの弊害を理解しており、日中には玄関は施錠していない。2階の階段の入口には、利用者の転落防止などの安全面に配慮し、柵が取り付けられているが鍵はついていない。利用者は、自由に庭や畑に出ることができている。	
		b	鍵をかけない自由な暮らしについて家族の理解を図っている。安全を優先するために施錠を望む家族に対しては、自由の大切さと安全確保について話合っている。	○	現在鍵錠を望む家族はいない					
		c	利用者の自由な暮らしを支え、利用者や家族等に心理的圧迫をもたらさないよう、日中は玄関に鍵をかけなくてもすむよう工夫している(外出の察知、外出傾向の把握、近所の理解・協力の促進等)。	○	日中は玄関・門もオープンにしている。外に行きたい方に対しては職員と一緒に歩くなど工夫をしている。					

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
(4) 健康を維持するための支援									
30	日々の健康状態や病状の把握	a	職員は、利用者一人ひとりの病歴や現病、留意事項等について把握している。	◎	入所時にサマリー作成、アセスメントシート作成し職員に徹底している。				
		b	職員は、利用者一人ひとりの身体状態の変化や異常のサインを早期に発見できるように注意しており、その変化やサインを記録に残している。	○	毎日のバイタル測定や身体状況の変化がある時は申し送りや記録で残し、異常時は速やかに対応するようにしている。				
		c	気になることがあれば看護職やかかりつけ医等についても気軽に相談できる関係を築き、重度化の防止や適切な入院につなげる等の努力をしている。	△	気になることは看護師や協力医療機関の医師と連携を取り、重度化を防ぐようにしている。				
31	かかりつけ医等の受診支援	a	利用者一人ひとりのこれまでの受療状況を把握し、本人・家族が希望する医療機関や医師に受診できるよう支援している。	◎	家族の希望にてそのままかかりつけ医を受診している方もおられる。		◎		
		b	本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	◎	医療機関と連携を取り、定期検診や相談、受診などを行い、必要があれば専門医に紹介をお願いしている。希望のかかりつけ医がいる場合は、現状がわかるように情報を提供し、受診できるように支援している。				
		c	通院の仕方や受診結果の報告、結果に関する情報の伝達や共有のあり方等について、必要に応じて本人や家族等の合意を得られる話し合いを行っている。	○	医師と連携をとりながら、受診結果の報告、必要に応じ家族に相談しながら行っている。				
32	入退院時の医療機関との連携、協働	a	入院の際、特にストレスや負担を軽減できる内容を含む本人に関する情報提供を行っている。	○	入院された利用者において、定期的に面会し、医療機関と連携をとっている。				
		b	安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。	○	医療機関と連携を取り、早期退院ができるように情報交換し、支援できている。				
		c	利用者の入院時、または入院した場合に備えて日頃から病院関係者との関係づくりを行っている。	○	入院時は医療機関との連携を密にし情報交換し、良い関係ができるようにしている。				
33	看護職との連携、協働	a	介護職は、日常の関わりの中で得た情報や気づきを職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談している。看護職の配置や訪問看護ステーション等との契約がない場合は、かかりつけ医や協力医療機関等に相談している。	◎	利用者に状態の変化が見られた時は協力医療機関に報告し相談をしている。				
		b	看護職もしくは訪問看護師、協力医療機関等に、24時間いつでも気軽に相談できる体制がある。	◎	緊急時等もすぐに対応できるような体制ができている。職員に看護師もいるため 早期の対応ができている。				
		c	利用者の日頃の健康管理や状態変化に応じた支援が適切にできるような体制を整えている。また、それにより早期発見・治療につなげている。	◎	日々のバイタルチェックや週1回の体重測定など健康管理をしながら日頃の状態の把握に努めることで異常の早期発見につなげている。勉強会で緊急時の対応なども定期的に行っている。				
34	服薬支援	a	職員は、利用者が使用する薬の目的や副作用、用法や用量について理解している。	△	服薬ファイルを作成し、二重チェック・飲み忘れ、誤薬を防ぐように心がけている。職員一人一人が理解できるようにしている。多国籍の職員が多いため 今後どのようにしたら全員が把握できるか検討が必要				
		b	利用者一人ひとりが医師の指示どおりに服薬できるよう支援し、飲み忘れや誤薬を防ぐ取り組みを行っている。	○	配薬・確認は別々の職員がすることで誤薬の防止につなげている。				
		c	服薬は本人の心身の安定につながっているのか、また、副作用(周辺症状の誘発、表情や活動の抑制、食欲の低下、便秘や下痢等)がないかの確認を日常的に行っている。	○	薬の効能・副作用は医療機関との連携により 職員間で状態の把握をし 異常を早期に発見している。				
		d	漫然と服薬支援を行うのではなく、本人の状態の経過や変化などを記録し、家族や医師、看護職等に情報提供している。	○	状態の変化時、協力医療機関の医師と連携をし経過等を報告し、情報共有できている。				

項目 No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
35	重度化や終末期への支援	a	重度化した場合や終末期のあり方について、入居時、または状態変化の段階ごとに本人・家族等と話し合いを行い、その意向を確認しながら方針を共有している。	◎	重度化した指針を入所時に説明、同意を得てサインを頂いている。段階によって医師との相談・同意を得て、実施している。	/	/	/	事業所では、「利用者に対する健康管理について」「看取りに関する指針」を定め、入居時に職員は利用者や家族に説明し、同意を得ている。事業所では、利用者や家族の要望に応じて、看取り支援を行っている。母体が医療法人であるため、事業所での看取りにも積極的である。事業所には、看護師も常駐しており、利用者や家族には安心感がある。利用者の重度化が進む中において、事業所での看取りの希望は多く、関係者と方針を共有しながら、管理者は可能な範囲で看取り対応をしていきたいと考えている。
		b	重度化、終末期のあり方について、本人・家族等だけでなく、職員、かかりつけ医・協力医療機関等関係者で話し合い、方針を共有している。	◎	重度化・終末期のあり方について家族・協力医療機関の医師と連携を取り方針を共有している。	○		○	
		c	管理者は、終末期の対応について、その時々の職員の思いや力量を把握し、現状ではどこまでの支援ができるかの見極めを行っている。	△	終末期の対応について職員の勉強会を実施し、不安軽減やスキル向上に努めている。状態に応じて話し合いながら支援している。	/	/	/	
		d	本人や家族等に事業所の「できること・できないこと」や対応方針について十分な説明を行い、理解を得ている。	○	出来る事・出来ない事はしっかりと説明し、家族に理解を頂いている。	/	/	/	
		e	重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、家族やかかりつけ医など医療関係者と連携を図りながらチームで支援していく体制を整えている。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。	◎	主治医や職員・看護師・家族・本人を含め、連携を取り体制を整えている。	/	/	/	
		f	家族等への心理的支援を行っている。(心情の理解、家族間の事情の考慮、精神面での支え等)	○	家族への説明を十分に行い、理解をしてもらっている。遠方の家族さんにも不安にならないように適宜連携をとれるように支援している。	/	/	/	
36	感染症予防と対応	a	職員は、感染症(ノロウイルス、インフルエンザ、白癩、疥癬、肝炎、MRSA等)や具体的な予防策、早期発見、早期対応策等について定期的に学んでいる。	◎	感染症について定期的に勉強会をして予防・対策をしている。	/	/	/	
		b	感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、万が一、感染症が発生した場合に速やかに手順にそった対応ができるよう日頃から訓練を行うなどして体制を整えている。	◎	マニュアルを作成しており定期的な勉強会をしている。新人職員には都度説明して全員が対応できるようにしている。	/	/	/	
		c	保健所や行政、医療機関、関連雑誌、インターネット等を通じて感染症に対する予防や対策、地域の感染症発生状況等の最新情報を入手し、取り入れている。	◎	運営推進会議等にて地域の発生状況なども説明して頂いている。医療機関等からも情報をいただいている。	/	/	/	
		d	地域の感染症発生状況の情報収集に努め、感染症の流行に随時対応している。	◎	運営推進会議等にて地域の発生状況なども説明して頂いている。	/	/	/	
		e	職員は手洗いやうがいなど徹底して行っており、利用者や来訪者等についても清潔が保持できるよう支援している。	◎	利用者はもちろん 職員も手洗いやうがいの徹底をしている。来訪者にも玄関に手指の消毒をお願いし、対応している。	/	/	/	

項目 No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
II. 家族との支え合い									
37	本人とともに支え合う 家族との関係づくりと支援	a	職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽をともにし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。	○	毎月お便りを送ったり、遠方の方にはお手紙を添えて近況報告をしている。面会に来られた時には状態の説明をしている。	/	/	/	年2回、餅つきや芋炊きの行事には、家族も一緒に参加している。いちご狩りなどの外出行事にも、一緒参加してもらい出かけることもある。現在はコロナ禍のため、家族が参加した行事は中止となっている。遠方の家族には、職員からの電話でのやり取りのほか、事業所便りを送付し、利用者の様子を伝えている。利用者の要望で、自ら手紙を書き、請求書等の送付時に同封することもしており、家族から喜ばれている。新型コロナウイルス感染症対策のため、事業所では面会制限も設けていることもあり、パソコンなどを活用したりリモートでの面会を行う利用者もいる。面会や運営推進会議の時を活用し、職員は家族から気がかりなことや要望を聞くよう努めており、直接、管理者に電話相談している家族もいる。事業所の事柄については、運営推進会議での報告するほか、事業所便りに記載して家族等にも周知している。また、前回の調査から、事業所便りに新人職員の紹介の掲載するよう改善されている。
		b	家族が気軽に訪れ、居心地よく過ごせるような雰囲気づくりや対応を行っている。(来やすい雰囲気、関係再構築の支援、湯茶の自由利用、居室への宿泊のしやすさ等)	○	いつでも気軽に来てもらえるように玄関も開放している。ゆっくり過ごしてもらるように声掛けしている。	/	/	/	
		c	家族がホームでの活動に参加できるように、場面や機会を作っている。(食事づくり、散歩、外出、行事等)	△	仕事をしている家族が多くなり現状は難しい。今後どのようにしたらよいか検討が必要	◎	/	○	
		d	来訪する機会が少ない家族や疎遠になってしまっている家族も含め、家族の来訪時や定期的な報告などにより、利用者の暮らしぶりや日常の様子を具体的に伝えている。(「たより」の発行・送付、メール、行事等の録画、写真の送付等)	○	毎月お便りを送ったり、遠方の方にはお手紙を添えたり定期的な報告をしている。	/	○	/	
		e	事業所側の一方的な情報提供ではなく、家族が知りたいことや不安に感じていること等の具体的な内容を把握して報告を行っている。	○	家族の不安や意向は都度聞き報告をするようにしている。	/	/	/	
		f	これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係を築いていけるように支援している。(認知症への理解、本人への理解、適切な接し方・対応等についての説明や働きかけ、関係の再構築への支援等)	○	今後起こり得る認知症の悪化や状態を説明しながら適切に関わり続けてもらえるよう理解してもらっている。	/	/	/	
		g	事業所の運営上の事柄や出来事について都度報告し、理解や協力を得るようにしている。(行事、設備改修、機器の導入、職員の異動・退職等)	○	人事との連携を図り、職員の確保人材の紹介など取り入れている。	/	○	○	
		h	家族同士の交流が図られるように、様々な機会を提供している。(家族会、行事、旅行等への働きかけ)	△	家族会はあるが仕事をしている方が多いので現状は難しい	/	/	/	
		i	利用者一人ひとり起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている。	○	今後起こり得るリスクについて面会時やケアプラン等で説明をしている。	/	/	/	
		j	家族が、気がかりなことや、意見、希望を職員に気軽に伝えたり相談したりできるように、来訪時の声かけや定期的な連絡等を積極的にやっている。	○	家族の面会時には出来るだけ連絡・報告をするようにしている。相談がある場合にも気軽に対応できる体制にしている。	/	/	○	
38	契約に関する説明と納得	a	契約の締結、解約、内容の変更等の際は、具体的な説明を行い、理解、納得を得ている。	◎	契約時に十分説明をして理解・納得を得ると共に何かあればいつでも相談できる様に心がけている。	/	/	/	
		b	退居については、契約に基づくとともにその決定過程を明確にし、利用者や家族等に具体的な説明を行った上で、納得のいく退居先に移れるように支援している。退居事例がない場合は、その体制がある。	○	退去の希望がある場合には十分な説明をし、希望先にスムーズに移れるように支援している。	/	/	/	
		c	契約時及び料金改定時には、料金の内訳を文書で示し、料金の設定理由を具体的に説明し、同意を得ている。(食費、光熱水費、その他の実費、敷金設定の場合の償却、返済方法等)	○	料金改定時には説明し、同意を得て対応している。	/	/	/	

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
Ⅲ. 地域との支え合い									
39	地域とのつきあいやネットワークづくり ※文言の説明 地域：事業所が所在する市町の日常生活圏域、自治会エリア	a	地域の人に対して、事業所の設立段階から機会をつくり、事業所の目的や役割などを説明し、理解を図っている。	○	運営推進会議や行事に参加してもらったりして事業所を知ってもらい理解を図っている。	/	○	/	町内会には入会していないが、回覧板を回してもらい地域の情報を得ることもある。回覧板は、閲覧後に利用者と一緒に次の世帯へ届けている。事業所として、近隣の公園の清掃活動に積極的に参加したり、保育園との交流をしたりしている。地域のお祭りでは、職員が神輿の担いだり、パザールの出店したりするなどの活躍もしている。コロナ禍の以前には、事業所周辺の散歩時に地域住民に挨拶をすることはあったが、住宅街ということもあり、日中は仕事に出かけ不在の家も多い。また、近隣に住む外国人が、クリスマスにはサンタクロースに扮してやって来るなど、日頃から地域との交流を大切にしている。
		b	事業所は、孤立することなく、利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、地域の人たちに対して日頃から関係を深める働きかけを行っている。(日常的なあいさつ、町内会・自治会への参加、地域の活動や行事への参加等)	○	地域行事に参加したりして関係を築いている。	/	○	○	
		c	利用者を見守ったり、支援してくれる地域の人たちが増えている。	○	運営推進会議等で少しずつ顔なじみの関係が増えている	/	/	/	
		d	地域の人気が気軽に立ち寄り遊びに来たりしている。	△	用事のある時は来てもらえるがまだまだ気軽に寄ってもらえることは少ない。	/	/	/	
		e	隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらうなど、日常的なおつきあいをしている。	△	散歩時等は挨拶したりするがまだまだ日常的な付き合いが出来ていないのが現状	/	/	/	
		f	近隣の住民やボランティア等が、利用者の生活の拡がりや充実を図ることを支援してくれるよう働きかけを行っている。(日常的な活動の支援、遠出、行事等の支援)	○	地域行事に参加することで少しずつ広がりが増えている	/	/	/	
		g	利用者一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	△	施設内での資源(マンパワー)だけでなく他の資源の活用も検討し努力している。	/	/	/	
		h	地域の人たちや周辺地域の諸施設からも協力を得ることができるよう、日頃から理解を拡げる働きかけや関係を深める取り組みを行っている(公民館、商店・スーパー・コンビニ、飲食店、理美容店、福祉施設、交番、消防、文化・教育施設等)。	○	地域行事や運営推進会議等で関係を築いている。	/	/	/	
40	運営推進会議を活かした取組み	a	運営推進会議には、毎回利用者や家族、地域の人等の参加がある。	○	地域の方や利用者・家族に参加してもらい行っている。	○	/	○	運営推進会議には、利用者や家族、民生委員、町内会長、地域住民、近隣の介護サービス事業所、市担当者などの参加を得て開催している。会議では、参加者から意見や要望が出され、事業所の考え方をしっかり返答している。会議で外部評価の自己評価の取組みなどが報告できていないため、今後の課題として取り上げるなど、報告することを期待したい。今年の4月以降の会議は、コロナ禍のため書面での開催となっている。
		b	運営推進会議では、利用者やサービスの実績、評価への取り組み状況(自己評価・外部評価の内容、目標達成計画の内容と取り組み状況等)について報告している。	△	外部評価の結果が届いたときには説明をしていくようにする。	/	/	×	
		c	運営推進会議では、事業所からの一方的な報告に終わらず、会議で出された意見や提案等を日々の取り組みやサービス向上に活かし、その状況や結果等について報告している。	○	地域の方や参加者からの助言はしっかりと聞き今後につなげていけるようにしている。	/	◎	○	
		d	テーマに合わせて参加メンバーを増やしたり、メンバーが出席しやすい日程や時間帯について配慮・工夫をしている。	◎	地域の方の意見を聞き 午前中にしている。今後テーマに合わせてメンバーの参加も検討したい	/	○	/	
		e	運営推進会議の議事録を公表している。	○	誰でも見やすい所に置いている。	/	/	/	

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
IV.より良い支援を行うための運営体制									
41	理念の共有と実践	a	地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、代表者、管理者、職員は、その理念について共通認識を持ち、日々の実践が理念に基づいたものになるよう日常的に取り組んでいる。	△	事業所の理念は出来ているが、理念についての共通認識は持っていない状態。一部の職員のみ認識している状況であるため今後の課題となる。	/	/	/	
		b	利用者、家族、地域の人たちにも、理念をわかりやすく伝えている。	○	各ユニットの事務所前で掲示しており、面会時や入居時に伝えられるようにしている。	○	×	/	
42	職員を育てる取り組み ※文言の説明 代表者：基本的には運営している法人の代表者であり、理事長や代表取締役が該当するが、法人の規模によって、理事長や代表取締役をその法人の地域密着型サービス部門の代表者として扱うのは合理的ではないと判断される場合、当該部門の責任者などを代表者として差し支えない。したがって、指定申請書に記載する代表者と異なることはありうる。	a	代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、計画的に法人内外の研修を受けられるよう取り組んでいる。	◎	個々に適した勉強会への参加や講習会への呼びかけを行っている。研修報告は全員がよめるようにしている。	/	/	/	医師である代表者は、月2回事業所に往診に訪れ、職員と顔を合わせる機会がある。忘年会や旅行、バーベキュー、女子会を協力してくれるなど、職員は、法人・事業所として福利厚生が充実していると感じている。代表者は、職員のストレス軽減に努め、働きやすい環境づくりをしている。
		b	管理者は、OJT(職場での実務を通して行う教育・訓練・学習)を計画的に行い、職員が働きながらスキルアップできるよう取り組んでいる。	△	OJTを計画的に実施できる様に検討している。	/	/	/	
		c	代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	◎	能力向上を目指し研修を受けたり、資格が取れるように便宜を図っている。常勤・パートの人材確保により、勤務状態を確保している。福利厚生も充実しており、職員がやりがいをもって働いている。	/	/	/	
		d	代表者は管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互研修などの活動を通して職員の意識を向上させていく取り組みをしている。(事業者団体や都道府県単位、市町単位の連絡会などへの加入・参加)	○	同業者との意見交換を図っている。以前から所属ボランティアグループの同士との交流ある。	/	/	/	
		e	代表者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。	○	管理者のストレス軽減のために常に相談体制であり、職員の「ため」には、社内旅行など実施し働きやすく気遣っている。	○	○	○	
43	虐待防止の徹底	a	代表者及び全ての職員は、高齢者虐待防止法について学び、虐待や不適切なケアに当たるのは具体的にどのような行為なのかを理解している。	○	高齢者虐待防止のマニュアルがあると共に、具体的な虐待の種類を勉強している。	/	/	/	事業所内で勉強会を実施するほか、外部研修に参加するなど、虐待防止や不適切な対応をしないよう、職員の意識向上に努めている。世間で高齢者等の虐待の報道があった場合には、代表者から役員への集まりがあり、内容を周知するとともに、虐待防止の徹底について話し合いをしている。職員は、他の職員等の不適切な行為を発見した場合の対応方法や手順についても理解している。
		b	管理者は、職員とともに日々のケアについて振り返ったり話し合ったりする機会や場をつくっている。	○	チーフ会、ミーティングを実施している。各話し合う利用者を挙げている。	/	/	/	
		c	代表者及び全ての職員は、虐待や不適切なケアが見逃されることがないように注意を払い、これらの行為を発見した場合の対応方法や手順について知っている。	○	常に声掛けなどミーティング統一し、常に声掛けし話している。	/	/	/	
		d	代表者、管理者は職員の疲労やストレスが利用者へのケアに影響していないか日常的に注意を払い、点検している。	○	対応困難事例等は、常に話しを検討し方針方向性を決めていくようにしている。	/	/	/	
44	身体拘束をしないケアの取り組み	a	代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」や「緊急やむを得ない場合」とは何かについて正しく理解している。	△	理解している職員は一部の職員のみ状態。身体拘束対策検討会議を定期的に開催している。	/	/	/	
		b	どのようなことが身体拘束に当たるのか、利用者や現場の状況に照らし合わせて点検し、話し合う機会をつくっている。	○	身体拘束対策検討会議を開催しており、勉強会で周知している。	/	/	/	
		c	家族等から拘束や施設への要望があっても、その弊害について説明し、事業所が身体拘束を行わないケアの取り組みや工夫の具体的な内容を示し、話し合いを重ねながら理解を図っている。	△	現段階では、家族からの施設への要望はないが、2人だけ身体拘束の説明と同意は得ている。	/	/	/	

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
45	権利擁護に関する制度の活用	a	管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学び、それぞれの制度の違いや利点などを理解している。	◎	社会福祉士として成年後見人制度の研修を受け、愛媛県社会福祉士会ばあとなあ所屬し受任している。	/	/	/	
		b	利用者や家族の現状を踏まえて、それぞれの制度の違いや利点なども含め、パンフレット等で情報提供したり、相談にのる等の支援を行っている。	◎	成年後見人研修により、身上監護と財産管理を基本として、制度を勉強している。	/	/	/	
		c	支援が必要な利用者が制度を利用できるよう、地域包括支援センターや専門機関(社会福祉協議会、後見センター、司法書士等)との連携体制を築いている。	○	福祉利用援助サービスについての内容について勉強している。	/	/	/	
46	急変や事故発生時の備え・事故防止の取り組み	a	怪我、骨折、発作、のど詰まり、意識不明等利用者の急変や事故発生時に備えて対応マニュアルを作成し、周知している。	○	事故対応マニュアルがあり、過失がある場合は、損害保険対応可能である。	/	/	/	
		b	全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	○	定期的に応急手当等、事業所の職員が集まって研修をしている。	/	/	/	
		c	事故が発生した場合の事故報告書はもとより、事故の一手手前の事例についてもヒヤリハットにまとめ、職員間で検討するなど再発防止に努めている。	△	事故対策委員会を立ち上げている。ヒヤリハットを検討する体制を整えミーティングに挙げている。	/	/	/	
		d	利用者一人ひとりの状態から考えられるリスクや危険について検討し、事故防止に取り組んでいる。	○	利用者リスクを話し合うチーム会を開催し検討している。	/	/	/	
47	苦情への迅速な対応と改善の取り組み	a	苦情対応のマニュアルを作成し、職員はそれを理解し、適宜対応方法について検討している。	○	苦情対応マニュアルがあり、苦情報告等の書類作成している。	/	/	/	
		b	利用者や家族、地域等から苦情が寄せられた場合には、速やかに手順に沿って対応している。また、必要と思われる場合には、市町にも相談・報告等している。	○	苦情が寄せられた時は、マニュアルに沿って対応している。苦情対応委員の立ち上げの検討をしている。	/	/	/	
		c	苦情に対しての対策案を検討して速やかに回答するとともに、サービス改善の経過や結果を伝え、納得を得ながら前向きな話し合いと関係づくりを行っている。	○	苦情の事実確認を行うと共に話し合う機会を持つ様に努力している。	/	/	/	
48	運営に関する意見の反映	a	利用者が意見や要望、苦情を伝えられる機会をつくっている。(法人・事業所の相談窓口、運営推進会議、個別に訊く機会等)	○	入所時にも家族に対し苦情窓口を説明し、利用者にも報告している。	/	/	○	日常生活の中で、職員は利用者意見に伝えてもらえるよう、会話の機会を多く持っている。家族からは、面会や運営推進会議、電話連絡時を活用して意見を聞くよう努めている。管理者は現場に出ており、職員の気持ちがよく理解できている。管理者は、職員から現場やミーティング時に意見を聞き、利用者本位のサービスが提供できるよう検討している。
		b	家族等が意見や要望、苦情を伝えられる機会をつくっている。(法人・事業所の相談窓口、運営推進会議、家族会、個別に訊く機会等)	○	法人全体で苦情マニュアルを説明し、利用者にも報告している。	◎	/	○	
		c	契約当初だけではなく、利用者・家族等が苦情や相談ができる公的な窓口の情報提供を適宜行っている。	○	入所時に必ず苦情マニュアルがある事説明し、話しやすい雰囲気で見ている。	/	/	/	
		d	代表者は、自ら現場に足を運ぶなどして職員の意見や要望・提案等を直接聞く機会をつくっている。	◎	月に1回は法人に往診に来て下さり全体を見て下さる。	/	/	/	
		e	管理者は、職員一人ひとりの意見や提案等を聴く機会を持ち、ともに利用者本位の支援をしていくための運営について検討している。	○	ミーティングなどで、何かないか話したり、常に声掛けして話を傾聴している。	/	/	○	

項目 No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
49	サービス評価の取り組み	a	代表者、管理者、職員は、サービス評価の意義や目的を理解し、年1回以上全員で自己評価に取り組んでいる。	◎	外部評価を実施し、ミーティングで話し合い、伝達方法で報告している。				外部評価のサービス評価結果について、運営推進会議の中で報告しているが、外部からの事業所のモニタリングまでには至っていない。自己評価については、事業所の取り組みの振り返りにも活用できることから、可能な限り多くの職員で取り組むことを望みたい。また、今後は目標達成計画を踏まえ、目標の取組み状況を運営推進会議の中で報告するなど、会議の参加者や家族にも理解を得られるような取組みを期待したい。
		b	評価を通して事業所の現状や課題を明らかにするとともに、意識統一や学習の機会として活かしている。	◎	評価について1つ1つ出来る事を職員皆で協力し実施している。				
		c	評価(自己・外部・家族・地域)の結果を踏まえて実現可能な目標達成計画を作成し、その達成に向けて事業所全体で取り組んでいる。	○	1つ1つ目標達成計画を、ミーティングで話し合い出来る事を実施している。				
		d	評価結果と目標達成計画を市町、地域包括支援センター、運営推進会議メンバー、家族等に報告し、今後の取り組みのモニターをしてもらっている。	○	評価結果を運営推進会議で家族さんに見て頂いている。	○	○	△	
		e	事業所内や運営推進会議等にて、目標達成計画に掲げた取り組みの成果を確認している。	○	目標達成計画後に会議等で確認を実施している。				
50	災害への備え	a	様々な災害の発生を想定した具体的な対応マニュアルを作成し、周知している。(火災、地震、津波、風水害、原子力災害等)	○	施設内の防火管理者により、各マニュアルを作成している。				様々な災害を想定した避難訓練を実施している。運営推進会議の開催に合わせて避難訓練を実施する工夫をしており、家族や近隣住民、町内会長、民生委員などにも、訓練への参加協力が得られている。また、事業所では災害時の対応マニュアルを作成している。
		b	作成したマニュアルに基づき、利用者が、安全かつ確実に避難できるよう、さまざまな時間帯を想定した訓練を計画して行っている。	○	避難訓練は日中・夜間想定を交互に行っている。				
		d	消火設備や避難経路、保管している非常用食料・備品・物品類の点検等を定期的に行っている。	○	4か月に1回の総点検によって確認作業を実施している。スプリンクラーのタンク内清掃は施設職員が行っている。				
		e	地域住民や消防署、近隣の他事業所等と日頃から連携を図り、合同の訓練や話し合う機会をつくるなど協力・支援体制を確保している。	◎	運営推進会議にも避難訓練を取り入れ、近隣の方々や家族、市役所の方にも消防署立会いのもと、消火訓練に参加して頂いている。	○	○	○	
		f	災害時を想定した地域のネットワークづくりに参加したり、共同訓練を行うなど、地域の災害対策に取り組んでいる。(県・市町、自治会、消防、警察、医療機関、福祉施設、他事業所等)	◎	地域の震災想定避難訓練に利用者含め参加させて頂いた。馬木では近隣の聾学校を避難拠点としたネットワークが出来ている。				
51	地域のケア拠点としての機能	a	事業所は、日々積み上げている認知症ケアの実践力を活かして地域に向けて情報発信したり、啓発活動等に取り組んでいる。(広報活動、介護教室等の開催、認知症サポーター養成研修や地域の研修・集まり等での講師や実践報告等)	△	地域に向けて情報発信できる機会が2ヶ月に1度の運営推進会議のみの為、機会を増やす取り組みが今後の課題となる。				事業所として特に相談窓口は設けていないが、近隣の認知症の方の家族に相談場所を紹介したり、地域包括支援センターへ相談をつなげたりしている。母体法人の医院にも事業所のパンフレットを配布し、相談支援につながるよう努めている。また、事業所では、地域行事やボランティア活動に参加したり、外国人技能実習生を受け入れたりするなど、地域貢献や人材育成にも協力している。
		b	地域の高齢者や認知症の人、その家族等への相談支援を行っている。	◎	地域の方への相談はなかなか出来ないが、必要な場合は対応はできる体制は作っている。		△	○	
		c	地域の人たちが集う場所として事業所を解放、活用している。(サロン・カフェイベント等交流の場、趣味活動の場、地域の集まりの場等)	○	月1回たご焼き屋さん来訪で近所の方々の憩いの場となっている。週1回パンの販売も来て頂いており、近隣の方へ呼びかけている。				
		d	介護人材やボランティアの養成など地域の人材育成や研修事業等の実習の受け入れに協力している。	◎	月に1度、たいさんじ歯科による口腔ケア講習を開催している。救命講習も施設内で行い、別事業所の職員の実習の受け入れも行っている。				
		e	市町や地域包括支援センター、他の事業所、医療・福祉・教育等各関係機関との連携を密にし、地域活動を協働しながら行っている。(地域イベント、地域啓発、ボランティア活動等)	△	定期的にセミナーの案内を頂いているが、参加率が低い為、課題となる。			○	

(別表第1)

サービス評価結果表

サービス評価項目

(評価項目の構成)

I.その人らしい暮らしを支える

(1)ケアマネジメント

(2)日々の支援

(3)生活環境づくり

(4)健康を維持するための支援

II.家族との支え合い

III.地域との支え合い

IV.より良い支援を行うための運営体制

ホップ 職員みんなで自己評価!
 ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
 シャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー

【外部評価実施評価機関】※評価機関記入

評価機関名	社会福祉法人 愛媛県社会福祉協議会
所在地	愛媛県松山市持田町三丁目8番15号
訪問調査日	令和 2 年 11 月 20 日

【アンケート協力数】※評価機関記入

家族アンケート	(回答数) 15名	(依頼数) 18名
地域アンケート回答数	3名	

※事業所記入

事業所番号	3870103250
事業所名	アトラス馬木
(ユニット名)	Bユニット
記入者(管理者)	
氏名	園田 冬彦
自己評価作成日	令和 2 年 9 月 30 日

<p>【事業所理念】</p> <p>個人を尊重しその人らしい生活を支援します。 地域の中で共に暮らしていけるように支援します。</p>	<p>【前回の目標達成計画で取り組んだこと・その結果】</p> <p>1-34 毎月のお便りに新しい職員紹介を写真添付したり、退職した職員に対しては運営推進会議の案内状などに報告をしていく。</p>	<p>【今回、外部評価で確認した事業所の特徴】</p> <p>事業所は閑静な住宅街に立地しており、広い敷地の中には大きな畑もあり、季節の野菜などを栽培している。整形外科医である代表者は利用者のリハビリにも力を入れており、事業所1階には「リハビリ室」があり、利用者は物療機器や歩行器などを活用してリハビリに取り組むほか、スペースをカラオケなどのレクリエーションにも活用することができている。毎日のようにリハビリや体操を生活に取り入れることで、利用者の機能回復にもつながっており、利用者の中には身体機能向上を介護計画の目標に掲げ、利用者ができることを増やしている。法人・事業所として、外国人技能実習生の受け入れや外国籍の職員の雇用にも積極的に、職員確保に努めるほか、人材育成に協力している。外国籍の職員も親を大切にすることを感謝の気持ちを含めた支援ができており、職員は言葉の理解などのフォローをしながら、協力し合うことができている。職員は、「利用者を楽しく過ごせるための環境づくりに努めたい」と考えており、利用者へ声をかけながら、実現に向けて取り組んでいる。また、法人・事業所として、ケアプラン等の記録様式を改め、現在整備している。代表者は職員を大切にしているほか、管理者と職員の関係性は良く、利用者本位の支援が行われるよう取り組んでいる。看取り支援においても、医師である代表者や看護師を中心に連携体制が取れており、利用者や家族の安心感にもつながっている。</p>
---	---	--

評価結果表

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
I.その人らしい暮らしを支える									
(1)ケアマネジメント									
1	思いや暮らし方の希望、意向の把握	<p>a 利用者一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。</p> <p>b 把握が困難な場合や不確かな場合は、「本人はどうか」という視点で検討している。</p> <p>c 職員だけでなく、本人をよく知る人(家族・親戚・友人等)とともに、「本人の思い」について話し合っている。</p> <p>d 本人の暮らし方への思いを整理し、共有化するための記録をしている。</p> <p>e 職員の思い込みや決めつけにより、本人の思いを見落とさないように留意している。</p>	<p>○ 入所時に本人のできることや好きな事を把握し、本人の意向を取り入れている。</p> <p>○ 認知症の進行症状によっては把握困難なケースがあるが、ケアマネと連携を図り「本人はどうか」という視点で検討出来ている。</p> <p>○ 新規入所時に、家族の意向を出来るだけ取り入れ、本人の思いや生活歴について家族と面会時、話し合っている。</p> <p>○ ケアプランの支援経過、カンファレンスで家族と本人の声掛けに働きかけている。遠方の家族にはお便りにて情報発信している。</p> <p>○ チーフ会、勉強会で本人の思いについて情報共有を行っている。</p>	○	○	○	○	○	日々の暮らしの中で、職員は利用者から楽しかったことや食べたい物、やりたいことなど聞いている。外国籍の職員も優しく、利用者との会話や支援の中から意向の把握に努めている。
2	これまでの暮らしや現状の把握	<p>a 利用者一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、こだわりや大切にしてきたこと、生活環境、これまでのサービス利用の経過等、本人や本人をよく知る人(家族・親戚・友人等)から聞いている。</p> <p>b 利用者一人ひとりの心身の状態や有する力(わかること・できること・できそうなこと等)等の現状の把握に努めている。</p> <p>c 本人がどのような場所や場面で安心したり、不安になったり、不安定になったりするかを把握している。</p> <p>d 不安や不安定になっている要因が何かについて、把握に努めている。(身体面・精神面・生活環境・職員のかかわり等)</p> <p>e 利用者一人ひとりの一日の過ごし方や24時間の生活の流れ・リズム等、日々の変化や違いについて把握している。</p>	<p>○ 新規入所時に本人の生活歴、馴染みの暮らしについて把握し、出来るだけ本人の所有物を取り入れているが、一部の方は清潔保持や危険行為防止の課題となっている。</p> <p>◎ 出来る事や生活歴を共有し、利用者様に役割を持ってもらう様に支援している。食器拭き、洗濯たたみ、レクリエーション、新聞折など取り入れている。</p> <p>△ 日々の生活の中で不安要素や、不穏時のきっかけについて相談、申し送りしている。意志疎通が困難な方は今後の課題となる。</p> <p>◎ 不安定である時は、かかりつけ医と連携し助言を頂き、必要があれば平和通心療内科とも連携を図っている。</p> <p>○ 1日の過ごし方の生活のリズムを各ユニットで把握し勉強会や、チーフ会で話し合っている。センター方式を取り入れることもある。</p>	○	◎	△	◎	○	入居時に、職員は利用者や家族のほか、入居前に関わっていた介護サービス事業所などの職員から情報を得ている。聞き取った情報は、センター方式のアセスメントシートなどを活用して、記録している。
3	チームで行うアセスメント(※チームとは、職員のみならず本人・家族・本人をよく知る関係者等を含む)	<p>a 把握した情報をもとに、本人が何を求め必要としているのかを本人の視点で検討している。</p> <p>b 本人がより良く暮らすために必要な支援とは何かを検討している。</p> <p>c 検討した内容に基づき、本人がより良く暮らすための課題を明らかにしている。</p>	<p>◎ 入所時のアセスメント、家族の調所をもとに、検討出来ている。</p> <p>○ 勉強会やチーフ会で検討し、本人がしたいことに対して実現可能な場合は職員が準備をし、実践している。</p> <p>○ 勉強会やチーフ会で課題究明に努めている。</p>	◎	○	○	○	○	毎月のミーティングや勉強会で把握した情報を職員に周知し、利用者本人の視点で検討している。話し合われた内容は、申し送りノートに記録している。

項目 No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
4	チームでつくる本人がより良く暮らすための介護計画	a	本人の思いや意向、暮らし方が反映された内容になっている。	△	意思表示の出来る利用者に対しては反映されているが、それ以外の利用者については職員や家族が本人の思いを汲み取っている。	/	/	/	訪問調査日には、「役割を持ちたい」や「トイレでしっかり立ちたい」など、利用者の意向に沿った目標を取り入れた介護計画書を確認することができた。事業所に介護計画等をお任せする家族も増えているが、事業所では家族等の要望を踏まえて職員も意見を出し合いながら、総合的な視点で介護計画を作成できるような努めている。
		b	本人がより良く暮らすための課題や日々のケアのあり方について、本人、家族等、その他関係者等と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映して作成している。	◎	家族から人前で歌を歌うのが好きだったという情報をもとに、リハビリの時間を活かして本人が人前で歌える歌の把握に努め、他施設の音楽会にて披露される。	○	/	○	
		c	重度の利用者に対しても、その人が慣れ親しんだ暮らし方や日々の過ごし方ができる内容となっている。	○	日々の会話の中で、馴染みのある暮らし方を聞き取り、声掛けで表情を見て、反応を伺っている。	/	/	/	
		d	本人の支え手として家族等や地域の人たちとの協力体制等が盛り込まれた内容になっている。	○	2ヶ月に一回運営推進会議を開催している。家族・地域で出来る事を意見交換で話し合っている。	/	/	/	
5	介護計画に基づいた日々の支援	a	利用者一人ひとりの介護計画の内容を把握・理解し、職員間で共有している。	○	以前は出来ていなかったが、様式を改め、ケアプラン、モニタリング等作成時にはサービスチェック表にて、確認の徹底し職員に促している。	/	/	/	介護計画は個人ファイルに綴じて、職員がサービス内容を確認しやすいようにしている。サービス計画チェック表にも目標が記載されており、職員は毎日確認しながら、日々の支援につなげている。多国籍の職員も記録しやすいように簡素化され、日本人の職員がフォローする形で、具体的な内容を記録することができている。職員の気づきなどは、勉強会の中で検討している。現在、法人・事業所として、ケアプラン・モニタリングの様式を変更していることもあり、利用者全員の記録様式等が統一できていないこともあり、管理者は今後様式を統一した介護計画書等の一式の作成を予定している。
		b	介護計画にそってケアが実践できたか、その結果どうだったかを記録して職員間で状況確認を行うとともに、日々の支援につなげている。	○	H30年10月よりケアプラン・モニタリングの様式を改訂し、職員間で状況確認し日々の支援につなげている。	/	/	/	
		c	利用者一人ひとりの日々の暮らしの様子(言葉・表情・しぐさ・行動・身体状況・エピソード等)や支援した具体的内容を個別に記録している。	△	多国籍の職員でも記録できるよう、記録物は簡素化されている。お変わりがあれば、具体的な内容を記録している。	/	/	△	
		d	利用者一人ひとりについて、職員の気づきや工夫、アイデア等を個別に記録している。	○	ケアの仕方から、設備に関すること等、職員間の会話で出たアイデアは改善提案という形で勉強会で検討し合い反映させて頂いている。	/	/	○	
6	現状に即した介護計画の見直し	a	介護計画の期間に応じて見直しを行っている。	○	3か月に1回はサービス計画について見直しを実施している。	/	/	/	介護計画は、3か月に1回を基本として見直しをしている。サービス計画チェック表で、職員は利用者へのサービスの実施状況を毎日確認し、毎月各利用者の担当職員を中心に総合して評価し、「評価コメント欄」にコメントを残している。また、利用者の状態に変化が生じた場合には、その都度見直ししており、家族に報告や相談を行いながら、新たな計画を作成している。
		b	新たな要望や変化がみられない場合も、月1回程度は現状確認を行っている。	○	チーフ会、勉強会で本人・家族の要望を話し合い、現状の把握に努めている。	/	/	/	
		c	本人の心身状態や暮らしの状態に変化が生じた場合は、随時本人、家族等、その他関係者等と見直しを行い、現状に即した新たな計画を作成している。	○	暮らしについての変化は本人・家族、医療面はかかりつけ医に報告し、見直しを行っている。	/	/	/	
7	チームケアのための会議	a	チームとしてケアを行う上での課題を解決するため、定期的、あるいは緊急案件がある場合にはその都度会議を開催している。	○	入院時、緊急時には今後の方針など関係医療機関と話し合い、チーフ会にて検討している。	/	/	/	毎月、職員会議やミーティングを実施し、職員や利用者の課題解決のため意見交換を行っている。事前に、チーフ会を開催し、話し合う内容をまとめて、会議がスムーズに進行できるよう努めている。入院などの緊急案件がある場合には医療機関と話し合うほか、チーフ会の中でも検討している。参加できなかった職員は、議事録で内容を確認し、確認後には名簿にチェックを入れている。
		b	会議は、お互いの情報や気づき、考え方や気持ちを率直に話し合い、活発な意見交換ができるよう雰囲気や場づくりを工夫している。	○	チーフ会、ミーティングで意見交換を行っている。一部、意見発表が苦手な職員がいる状態。	/	/	/	
		c	会議は、全ての職員を参加対象とし、可能な限り多くの職員が参加できるよう開催日時や場所等、工夫している。	◎	毎月第三週の木曜日に職員会議を開催している。職員の都合によっては翌週に延期し、多くの職員が参加できるよう取り組んでいる。	/	/	/	
		d	参加できない職員がいた場合には、話し合われた内容を正確に伝えるしくみをつくっている。	◎	休憩室に議事録を掲示し、閲覧者は名簿にチェックを入れて頂き、閲覧の有無を見る化している。まだ見ていない職員がいれば、職員同士声をかけ合っている。	/	/	○	
8	確実な申し送り、情報伝達	a	職員間で情報伝達すべき内容と方法について具体的に検討し、共有できるしくみをつくっている。	△	事務所のパソコンにて申し送りの管理を行っている。職員は業務前に確認を行っているが、確認不十分な時がある。	/	/	/	各ユニットにパソコンが設置されており、申し送りなどの記録は各職員が入浴し、データで管理されている。また、重要事項は赤字で入力し、他の職員が見ても分かるように工夫している。
		b	日々の申し送りや情報伝達を行い、重要な情報は全ての職員に伝わるようにしている。(利用者の様子・支援に関する情報・家族とのやり取り・業務連絡等)	○	重要な申し送り事項は文字の色を変え、分かりやすくしている。	◎	/	/	

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
(2) 日々の支援									
9	利用者一人ひとりの思い、意向を大切にしたい支援	a	利用者一人ひとりの「その日したいこと」を把握し、それを叶える努力を行っている。	△	可能な限りお出掛けやリハビリなど、本人が希望したものを取り入れている。一部意思疎通が困難な方は今後の課題となる。	/	/	/	洋服選びや散歩、入浴、飲み物の温度など、職員は日常生活において利用者に自己決定できるよう支援している。リハビリや体操で体を動かすことで、表情筋も和らぐほか、脳の活性化にもなり、利用者の生き生きとした生活に結びついている。
		b	利用者が日々の暮らしの様々な場面で自己決定する機会や場をつくっている。(選んでもらう機会や場をつくる、選ぶのを待っている等)	△	リハビリ器具の使用について、どこから行かうか。また、お飲み物の熱さや、お買い物で、ご希望の日用品を選んで頂いている。	/	/	○	
		c	利用者が思いや希望を表現するように働きかけたり、わかるかに合わせた支援を行うなど、本人が自分で決めたり、納得しながら暮らせるよう支援している。	○	本人から希望を出される方が多い。ベッドに小物入れを取り付けたり、穴あけなど、本人で出来ない事は職員がお手伝いさせて頂いている。	/	/	/	
		d	職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースや習慣を大切にしたい支援を行っている。(起床・就寝、食事・排泄・入浴等の時間やタイミング・長さ等)	△	リハビリや飲物選び、入浴の順番など、本人に選んで頂けるよう声掛けを取り入れている。意思疎通困難な方は職員が本人の気持ちを汲んで選ばせて頂いている。	/	/	/	
		e	利用者の生き生きとした言動や表情(喜び・楽しみ・うるおい等)を引き出す言葉がけや雰囲気づくりをしている。	○	一部表情が乏しい方に対しては傾聴の姿勢で本人の言動に注目している。	/	/	○	
		f	意思疎通が困難で、本人の思いや意向がつかめない場合でも、表情や全身での反応を注意深くキャッチしながら、本人の意向にそった暮らし方ができるよう支援している。	○	表情の変化に留意し、足の浮腫が原因だとわかると両足の挙上出来る様に職員手作りの足置きを作成し、表情落ちついている。	/	/	/	
10	一人ひとりの誇りやプライバシーを尊重した関わり	a	職員は、「人権」や「尊厳」とは何かを学び、利用者の誇りやプライバシーを大切にしたい言葉かけや態度等について、常に意識して行動している。	○	研修や声かけについての啓発本を閲覧し、本人の尊厳を失わないよう取り入れている。	/	○	○	勉強会やリスクマネジメント研修の中に、プライバシー等のテーマを取り入れて職員に学ぶ機会を作っている。外国籍の職員も、高齢者や家族を大切にするお国柄が業務にも活かされるなど、丁寧な対応ができています。利用者や職員との会話の中で、理解と言葉の表出が伴わず誤解を受けそうなこともあるが、職員同士フォローし合うことができています。また、居室に入る際に職員は、ノックや声かけを基本として実施している。
		b	職員は、利用者一人ひとりに対して敬意を払い、人前であからさまな介護や誘導の声かけをしないよう配慮しており、目立たずさりげない言葉がけや対応を行っている。	△	一部の職員は出来ているが全職員共通ではない。	/	/	○	
		c	職員は、排泄時や入浴時には、不安や羞恥心、プライバシー等に配慮しながら介助を行っている。	○	夏場は暑さ対策の為、暖簾をつけさせて頂いた。トイレは中が見えないよう、カーテンをつけさせて頂いている。	/	/	/	
		d	職員は、居室は利用者専用の場所であり、プライバシーの場所であることを理解し、居室への出入りなど十分配慮しながら行っている。	○	掃除の時はノックをし本人に説明をし納得されてから入るようにしている。	/	/	○	
		e	職員は、利用者のプライバシーの保護や個人情報漏えい防止等について理解し、遵守している。	○	職員は勉強会でコンプライアンスについて理解を深めている。また、外部に情報を促す時には、必ず同意書を作成し、同意を得ない情報に関しては、漏洩防止している。	/	/	/	
11	ともに過ごし、支え合う関係	a	職員は、利用者を介護される一方の立場におかず、利用者に助けを求めたり教えてもらったり、互いに感謝し合うなどの関係性を築いている。	○	洗濯物干し・畳み、食器拭き、玉ねぎの皮剥きを利用者と一緒にしている。また、労いの言葉や感謝の言葉を伝えている。	/	/	/	100歳を迎えた利用者を感じ、他の利用者が優しくお世話する姿を見ることができた。ユニットを超えて利用者が集まるカラオケやリハビリをする機会も多く、利用者同士の馴染みの関係づくりができています。不安になる利用者には職員が寄り添い、場所を変えて作業の手伝いをしてもらいなど、さり気なくかわることで利用者同士のトラブルを未然に防いでいる。
		b	職員は、利用者同士がともに助け合い、支え合って暮らしていくことの大切さを理解している。	△	職員だけでしている事の中に、利用者もできる事が含まれてしまっている為、今後の課題となる。	/	/	/	
		c	職員は、利用者同士の関係を把握し、トラブルになったり孤立したりしないよう、利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。(仲の良い利用者同士が過ごせる配慮をする、孤立しがちな利用者が交わる機会を作る、世話役の利用者にうまく力を発揮してもらおう場面をつくる等)。	◎	別ユニットの利用者が来た時、職員の声かけにてお世話好きな利用者同士で談話をされ、馴染みの関係がつかれるよう支援させて頂いている。	/	/	○	
		d	利用者同士のトラブルに対して、必要な場合にはその解消に努め、当事者や他の利用者に不安や支障を生じさせないようにしている。	○	基本職員が架け橋となるよう心がけているが、どちらかの利用者が手を挙げようとした時は、速やかに利用者同士距離をとらせて頂いている。	/	/	/	

項目 No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
12	馴染みの人や場との関係継続の支援	a	これまで支えてくれたり、支えてきた人など、本人を取り巻く人間関係について把握している。	○	入居時のアセスメントで得た情報は個人ファイルに綴っている為、全職員いつでも情報を引き出せるようにしている。その為、概ね把握している。				
		b	利用者一人ひとりがこれまで培ってきた地域との関係や馴染みの場所などについて把握している。	○	地元の秋祭りを大事にされている利用者の家族へ地元祭りの参加をうながしている。外出の際は会話に取り入れている。				
		c	知人や友人等に会いに行ったり、馴染みの場所に出かけていくなど本人がこれまで大切にしてきた人や場所との関係が途切れないよう支援している。	○	面会、外出、外泊は体調悪化がない限り、参加を促して支援している。				
		d	家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪れ、居心地よく過ごせるよう工夫している。	○	家族に合わせ、居室と一緒に談話されたり、リビングで一緒に過ごして頂いている。				
13	日常的な外出支援	a	利用者が、1日中ホームの中で過ごすことがないよう、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう取り組んでいる。(職員側の都合を優先したり、外出する利用者、時間帯、行き先などが固定化していない)(※重度の場合は、戸外に出て過ごすことも含む)	○	要望があれば、職員と一緒にお買物に出かけたり、公園で日光浴ができるよう支援させて頂いている。	△	△	○	季節に応じて、桜などの花見に行ったり、ドライブでいちご狩りなどの外出行事に出かけられるよう支援している。コロナ禍になる前には、利用者と一緒に外出することができていたが、現在は外出を自粛となっている。事業所周辺を散歩したり、畑で収穫したさつまい芋を使用して、焼き芋大会を開催するなど、可能な範囲で職員は利用者が気晴らしできるように支援している。また、事業所には、車いすを使用している利用者も多く、重度な利用者を中心に支援することが多い。
		b	地域の人やボランティア、認知症サポーター等の協力も得ながら、外出支援をすすめている。	△	他施設との交流として、グループホームいだいより外出先として受け入れの許可を頂いている。				
		c	重度の利用者も戸外で気持ち良く過ごせるよう取り組んでいる。	○	季節に応じて、日光浴や散歩、畑の芋ほりまで楽しまれた。				
		d	本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら、普段は行けないような場所でも出かけられるように支援している。	◎	食事や景色がそれぞれで楽しめるよう、1回の外出で目的地が2つ以上になるよう計画させていた。				
14	心身機能の維持、向上を図る取り組み	a	職員は認知症や行動・心理症状について正しく理解しており、一人ひとりの利用者の状態の変化や症状を引き起こす要因をひもとき、取り除くケアを行っている。	○	個別の周辺症状を理解してチーフ会、ミーティング等に話し合いの場を持っている。				100歳になる高齢の利用者も自力で食事を摂取したり、衣服の着脱など利用者のできることやできそうなところに着目したりするなど、職員は気長に見守りながら支援している。裁縫が得意だった利用者には雑巾を縫ってもらい、掃除で活用している。リビングには手作りカレンダーが掛けられており、利用者が日付の数字や曜日を探したり、それをきちんと入れたりするなど、それぞれの役割に分かれ、みんなで協力しながら毎日完成させている。また、事業所の1階にはリハビリ室があり、利用者は身体機能の維持のため、リハビリにも取り組んでいる。
		b	認知症の人の身体面の機能低下の特徴(筋力低下・平衡感覚の悪化・排泄機能の低下・体温調整機能の低下・嚥下機能の低下等)を理解し、日常生活を営む中で自然に維持・向上が図れるよう取り組んでいる。	○	毎日出来るだけ、本人のリハビリ計画を作成したもので、リハビリメニューを作成、支援、週1回の専門のリハビリ支援を実施。				
		c	利用者の「できること、できそうなこと」については、手や口を極力出さずに見守ったり一緒に行うようにしている。(場面づくり、環境づくり等)	○	食事等できることは参加してもらえらる様に側面的に支援している。	○		○	
15	役割、楽しみごと、気晴らしの支援	a	利用者一人ひとりの生活歴、習慣、希望、有する力等を踏まえて、何が本人の楽しみごとや役割、出番になるのかを把握している。	○	本人のできることを取り入れ役割、出番がある時は、協力を求めて支援している。				食器拭きや洗濯物たたみなど、自分の仕事のように楽しみに行う利用者もいる。金魚の世話も、利用者の役割の一つとなっている。高齢や重度化に伴い、現在話すことは少なくなったが、利用者の昔話に職員は耳を傾け、喜びを思い出せるよう配慮している。
		b	認知症や障害のレベルが進んでも、張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、日常的に、一人ひとりの楽しみごとや役割、出番をつくる取り組みを行っている。	○	ひとり一人に合った役割を考え、楽しんでもらえるよう取り組んでいる。	○	○	○	
		c	地域の中で役割や出番、楽しみ、張り合いが持てるよう支援している。	△	秋祭りには参加しているも、その他の地域行事にはこちらから出かけることはできていないので今後の課題				

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
16	身だしなみやおしゃれの支援	a	身だしなみを本人の個性、自己表現の一つととらえ、その人らしい身だしなみやおしゃれについて把握している。	○	その人らしいおしゃれができるように支援している。カットも定期的に行っている。				職員は声かけをして、自分でできる利用者には着替えや身だしなみを整えてもらっている。衣服の乱れなどが気づかない利用者には、職員がさり気なくフォローするなど、利用者の身だしなみにも配慮している。男性利用者の髭剃りも剃り残しには職員が注意を払い、介助してきれいにしていく。重度な状態であっても利用者の好みを大切に、職員は利用者の自分らしさが保てるよう支援している。
		b	利用者一人ひとりの個性、希望、生活歴等に応じて、髪形や服装、持ち物など本人の好みに整えられるように支援している。	○	外出するときは、服装などに気を付けなるべく配慮している。				
		c	自己決定がしにくい利用者には、職員と一緒に考えたりアドバイスする等本人の気持ちにそって支援している。	○	本人への少しの気遣いなど観察し、気づいて代弁出来るように支援している。				
		d	外出や年中行事等、生活の彩りにあわせてその人らしい服装を楽しめるよう支援している。	△	月単位の行事計画を作成し、毎月ミーティングで予定発表し参加を促している。				
		e	整容の乱れ、汚れ等に対し、プライドを大切にさりげなくカバーしている。(髭、着衣、履き物、食べこぼし、口の周囲等)	○	整容に関しては 皆で注意し汚れた場合はさりげなく動き 交換している	○	◎	○	
		f	理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている。	○	理容・美容は本人の希望にあわせ、施設内で実施したり、家族と協力して、実施している。				
		g	重度な状態であっても、髪形や服装等本人らしさが保てる工夫や支援を行っている。	○	季節ごとに服の依頼をしている。本人の好きな服などを依頼している。				
		17	食事を楽しむことのできる支援	a	職員は、食事の一連のプロセスの意味や大切さを理解している。	○	食事の配慮、彩などを考えて配膳している。温かいものは温かい物を提供している。		
b	買い物や献立づくり、食材選び、調理、後片付け等、利用者とともにやっている。	○	配膳や片付けなどは利用者と一緒にしている。			○			
c	利用者とともに買い物、調理、盛り付け、後片付けをする等を行うことで、利用者の力の発揮、自信、達成感につなげている。	○	配膳や片付けなどは利用者と一緒にしている。買い物は行ける場合は一緒に行っている						
d	利用者一人ひとりの好きなものや苦手なもの、アレルギーの有無などについて把握している。	○	本人のアレルギーなど、好きなもの、苦手なものを入所時に家族や本人との話で把握している。						
e	献立づくりの際には、利用者の好みや苦手なもの、アレルギー等を踏まえつつ、季節感を感じさせる旬の食材や、利用者にとって昔ながらの味のものを取り入れている。	○	アレルギーの配慮は、考慮しつつ、季節の食材など季節を感じるものを取り入れ栄養士が献立を作成している。			○			
f	利用者一人ひとりの咀嚼・嚥下等の身体機能や便秘・下痢等の健康状態にあわせて調理方法としつつ、おいしそうな盛り付けの工夫をしている。(安易にミキサー食や刻み食で対応しない、いろどりや器の工夫等)	○	利用者の状態に応じて食事形態について考え盛り付け配膳している。						
g	茶碗や湯飲み、箸等を使い慣れたもの、使いやすいものを使用している。	○	本人専用の茶碗、湯飲み、箸などを使い慣れたものを使っている。						
h	職員も利用者と同じ食卓を囲んで食事を一緒に食べながら一人ひとりの様子を見守り、食事のペースや食べ方の混乱、食べこぼしなどに対するサポートをさりげなく行っている。	○	本人が、食べこぼしなどに対して、サポート出来る様と同じテーブルに職員も共に食事をしている。						
i	重度な状態であっても、調理の音やにおい、会話などを通して利用者が食事が待ち遠しくおいしく味わえるよう、雰囲気づくりや調理に配慮している。	○	昼食前には利用者が全員リビングに居るため 配膳しながら五感を刺激できるようにしている。	○		○			
j	利用者一人ひとりの状態や習慣に応じて食べれる量や栄養バランス、カロリー、水分摂取量が1日を通じて確保できるようにしている。	○	栄養のバランスは栄養士のカロリー計算によってメニューを決定している。水分も摂取出来るように時間も決めている。						
k	食事が少なかったり、水分摂取量の少ない利用者には、食事の形態や飲み物の工夫、回数やタイミング等工夫し、低栄養や脱水にならないよう取り組んでいる。	○	水分摂取表を作成し、1日の目安が分かるように記録し、水分不足、脱水にならない様に配慮している。						
l	職員で献立のバランス、調理方法などについて定期的に話し合い、偏りがないように配慮している。場合によっては、栄養士のアドバイスを受けている。	○	栄養士が、利用者に対して栄養のバランスを考え、メニューを決め、アドバイスできる体制になっている。			○			
m	食中毒などの予防のために調理用具や食材等の衛生管理を日常的に行い、安全で新鮮な食材の使用と管理に努めている。	○	全員で勉強会も行い 食中毒をださないように徹底している。						

項目 No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
18	口腔内の清潔保持	a	職員は、口腔ケアが誤嚥性肺炎の防止につながることを知っており、口腔ケアの必要性、重要性を理解している。	○	誤嚥性肺炎の病気に対しての知識を日常を通して勉強している。残さ物の細菌により、右の肺に流れるなど観察している。				毎食後、利用者に歯みがき等をしてもらい、介助の必要な利用者には支援を行うなど、職員は利用者の口腔内を確認し、状態を把握している。毎月、歯科医による口腔ケア研修で、職員は支援方法を学ぶほか、指導を受けている。利用者の状況に合わせて、うがいのほか、職員はガーゼや歯ブラシなどを活用して介助し、口腔内の清潔保持に努めている。
		b	利用者一人ひとりの口の中の健康状況(虫歯の有無、義歯の状態、舌の状態等)について把握している。	○	本人の訴えはもとより、口腔ケア実施により口腔内の状態を観察し支援している。			○	
		c	歯科医や歯科衛生士等から、口腔ケアの正しい方法について学び、日常の支援に活かしている。	○	口腔ケア等の研修を促し支援方法を勉強している体制を作っている。月1回口腔ケアの指導してもらっている				
		d	義歯の手入れを適切に行えるよう支援している。	○	適切に行えるように指導している。				
		e	利用者の力を引き出しながら、口の中の汚れや臭いが生じないように、口腔の清潔を日常的に支援している。(歯磨き・入れ歯の手入れ・うがい等の支援、出血や炎症のチェック等)	○	歯磨き粉の使用、うがいの徹底し口腔内の汚れや臭いが生じないように留意して、支援している。			○	
		f	虫歯、歯ぐきの腫れ、義歯の不具合等の状態をそのままにせず、歯科医に受診するなどの対応を行っている。	○	必要であれば、協力医療機関に往診依頼し実施している。				
19	排泄の自立支援	a	職員は、排泄の自立が生きる意欲や自信の回復、身体機能を高めることにつながることや、おむつ(紙パンツ・パッドを含む)の使用が利用者の心身に与えるダメージについて理解している。	○	利用者に対して、なるべく紙パンツは避け、本人の尿意等の意向を尊重し排泄を促している。				トイレでの排泄の基本を重視して支援している。排泄チェック表で一人ひとりの状況を把握し、職員は時間やタイミングを見て利用者に声をかけ、トイレ誘導をしている。「トイレで排泄したい」という要望を介護計画の目標に取り入れ、支援している利用者もいる。パッド類などの排泄用品に関しては、職員で検討して家族に相談しながら、利用者に合わせて適切な支援につながるよう努めている。
		b	職員は、便秘の原因や及ぼす影響について理解している。	○	利用者の服薬の副作用等の薬情一覧をファイルして効用について理解を深めている。原因についても食事・運動のバランスなども考えている、更には病気等についても周知している。				
		c	本人の排泄の習慣やパターンを把握している。(間隔、量、排尿・排便の兆候等)	◎	排泄記録等を記入し、一人ひとりの排泄状態を知ることができている。				
		d	本人がトイレで用を足すことを基本として、おむつ(紙パンツ・パッドを含む)使用の必要性や適切性について常に見直し、一人ひとりのその時々状態にあった支援を行っている。	○	なるべくトイレで用を足すことに重点をおいて、本人のサインを見逃さない様に留意し声掛けしている。	◎		○	
		e	排泄を困難にしている要因や誘因を探り、少しでも改善できる点はないか検討しながら改善に向けた取り組みを行っている。	○	トイレに座って用を足す手段的日常動作について、部分的に支援している。				
		f	排泄の失敗を防ぐため、個々のパターンや兆候に合わせて早めの声かけや誘導を行っている。	◎	利用者それぞれの行動パターンや排泄状態を把握することで職員は早めの声掛け・誘導ができている。				
		g	おむつ(紙パンツ・パッドを含む)を使用する場合は、職員が一方的に選択するのではなく、どのような時間帯にどのようなものを使用するか等について本人や家族と話し合い、本人の好みや自分で使えるものを選択できるよう支援している。	○	日中、夜間の排泄状態を把握したうえで家族様、本人と相談し選択して頂いている。				
		h	利用者一人ひとりの状態に合わせて下着やおむつ(紙パンツ・パッドを含む)を適時使い分けている。	○	利用者の排泄・排尿の量を把握し、下着・パットの種類を検討している。				
		i	飲食物の工夫や運動への働きかけなど、個々の状態に応じて便秘予防や自然排便を促す取り組みを行っている。(薬に頼らない取り組み)	◎	水分補給の時間を作り、脱水、及び便秘予防に努めたメニューの工夫・更にはリハビリなどの運動効果を利用して、出来るだけ薬を使用しない様にしている。				
20	入浴を楽しむことができる支援	a	曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、利用者一人ひとりの希望や習慣にそって入浴できるよう支援している。(時間帯、長さ、回数、温度等)	◎	本人の意向を取り入れ、入浴の基本の曜日は設定しているが、1日の中で入浴・本人の気持ち、体調を考えて入浴を調整している。	◎		○	入浴できる曜日は設定しているが、利用者は週3回入浴することができる。利用者から毎日の入浴希望があれば、対応することも可能である。湯温や使い慣れた石けんなど、職員は利用者の習慣を尊重し、入浴が楽しめるよう支援している。各ユニットに個別浴槽があるほか、事業所の1階には機械浴槽もあり、利用者の状態に合わせて使い分け、利用者は安心して入浴することができている。
		b	一人ひとりが、くつろいだ気分が入浴できるよう支援している。	○	自分で入浴できる方は、なるべく本人におまかせし、時折浴場に声掛けし見守りしている。リラクゼーションできる様な環境作りをしている。				
		c	本人の力を活かしながら、安心して入浴できるよう支援している。	○	本人の出来る事、出来ない事を把握しながら常に声掛け等を行うことで安心して入浴出来る様努めている。				
		d	入浴を拒む人に対しては、その原因や理由を理解しており、無理強いせず気持ちよく入浴できるよう工夫している。	○	馴染みの深い職員に声掛けしてもらったり、散歩、リハビリの後に声掛けするなど工夫している。				
		e	入浴前には、その日の健康状態を確認し、入浴の可否を見極めるとともに、入浴後の状態も確認している。	◎	毎朝、バイタルチェックを実施して、健康管理を行い、入浴等の判断を各ナース、チーフ以上で判断している。				

項目 No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
21	安眠や休息の支援	a	利用者一人ひとりの睡眠パターンを把握している。	◎	夜間帯の情報を朝の申し送りにて把握、変化がある利用者、昼夜逆転のある方は、協力医療機関と連携している。	/	/	/	事業所では、利用者の一日の生活リズムを大切に、整形外科医である代表者が取り入れているリハビリや体操で体を動かしたり、昼寝できる時間を設けてメリハリのある生活を確保したりするなど、利用者が自然な眠りにつながるよう支援している。代表者は、眠剤などの薬はできるだけ使用したくないと考えており、服用している利用者には生活リズムを改善しながら、減薬できるよう努めている。
		b	夜眠れない利用者についてはその原因を探り、その人本来のリズムを取り戻せるよう1日の生活リズムを整える工夫や取り組みを行っている。	◎	夜間入眠できる様に、日中にリハビリ、散歩を実施、会話、レクリエーションを実施、メリハリをつけている。	/	/	/	
		c	睡眠導入剤や安定剤等の薬剤に安易に頼るのではなく、利用者の数日間の活動や日中の過ごし方、出来事、支援内容などを十分に検討し、医師とも相談しながら総合的な支援を行っている。	◎	夜間の状態を協力医療機関に報告し導入剤の内服、服薬の変更時、協力医療機関に報告・相談している。	/	/	/	
		d	休息や昼寝等、心身を休める場面が個別に取れるよう取り組んでいる。	◎	本人の意向により、メリハリをつけ昼寝の時間、居室での本人の時間も大切にして、自由な時間も取り入れている。	/	/	/	
22	電話や手紙の支援	a	家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	◎	携帯電話は基本家族の責任であること伝え、意向は取り入れている。	/	/	/	/
		b	本人が手紙が書けない、電話はかけられないと決めつけず、促したり、必要な手助けをする等の支援を行っている。	◎	本人に、年賀状、はがき書いたりするために購入したり、本人に寂しさをなくす様に促している。	/	/	/	
		c	気兼ねなく電話できるよう配慮している。	◎	本人及び、家族には、気兼ねなく電話出来、話しをしてもらう様に否はしない様に留意している。	/	/	/	
		d	届いた手紙や葉書をそのままにせず音信がとれるように工夫している。	◎	手紙などは、本人が読める方は、お渡しするも、本人と一緒に読む様に職員に声掛けしている。	/	/	/	
		e	本人が電話をかけることについて家族等に理解、協力をしてもらうとともに、家族等からも電話や手紙をくれるようお願いしている。	◎	家族の管理が出来る方のみ連絡を取れる様にしている。	/	/	/	
23	お金の所持や使うことの支援	a	職員は本人がお金を所持すること、使うことの意味や大きさを理解している。	○	認知があるため妄想に発展する利用者様には、なるべく職員管理にしている。落ち着かない利用者には声掛けしている。	/	/	/	/
		b	必要物品や好みの買い物に出かけ、お金の所持や使う機会を日常的につくっている。	◎	職員と一緒に買い物に行くなど本人の必要な用品について金額が高い物以外は共に買い物支援を実施している。	/	/	/	
		c	利用者が気兼ねなく安心して買い物ができるよう、日頃から買い物先の理解や協力を得る働きかけを行っている。	○	買いたいものがある場合は一緒に行き可能な限り支援している。ほぼ家族が買って来る事が多い。	/	/	/	
		d	「希望がないから」「混乱するから」「失くすから」などと一方的に決めてしまうのではなく、家族と相談しながら一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	○	家族と相談しながら支援しているがほとんどの利用者が自分で持っている方はいない。	/	/	/	
		e	お金の所持方法や使い方について、本人や家族と話し合っている。	○	家族と相談しながら支援している。	/	/	/	
		f	利用者が金銭の管理ができない場合には、その管理方法や家族への報告の方法などルールを明確にしており、本人・家族等の同意を得ている。(預り金規程、出納帳の確認等)。	◎	金銭管理規定に基づき管理している。月1回領収書と明細を家族に渡し、サインをもらっている。	/	/	/	
24	多様なニーズに応える取り組み		本人や家族の状況、その時々々のニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	○	本人との話しや、訴え、意向によって職員間で話し合い利用者の意向、家族の意向を取り入れている。	○	○	利用者から、「家族を呼んでほしい」「家に帰りたい」などの要望が出された場合には、家族に協力を得ながら実現できるように努めている。専門医の同行受診や洋服の購入など、職員は家族からの要望にも、柔軟に対応している。	

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと	
(3)生活環境づくり										
25	気軽に入れる 玄関まわり等の配慮		利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、気軽に出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている。	◎	玄関はいつも開放しており地域の方や家族が気軽に来もらえるようにしている。	◎	◎	◎	事業所前は広い駐車場があり、玄関先は手すりのついたスロープが設置されている。季節の花の鉢植えや観葉植物を置き、玄関は解放され、気軽に来訪してもらえるような雰囲気づくりをしている。	
26	居心地の良い 共用空間づくり	a	共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、家庭的な雰囲気を有しており、調度や設備、物品や装飾も家庭的で、住まいとしての心地良さがある。(天井や壁に子供向けの飾りつけをしていたり、必要なものしか置いていない殺風景な共用空間等、家庭的な雰囲気をそぐような設えになっていないか等。)	○	利用者と共に作成した、作品や、空間を工夫して、ユニットのカラーを出して飾りつけを実施している。	○	○	○	共有スペースの窓際にソファを置き、利用者は自然光を浴びながら、外の景色を眺めて過ごすことができる。車いすや歩行器が通りやすいよう、テーブルの配置に工夫しているほか、カウンターキッチンからはリビングで過ごす利用者の様子を見渡すことができる。事業所内には加湿器を置き、換気にも配慮している。雑誌や金魚鉢、利用者と一緒に作成した作品を掲示するなど、各ユニットの特徴を出しながら、居心地の良い空間づくりがされている。また、事業所の1階には、「リハビリ室」があり、利用者はリハビリに取り組みほか、カラオケなどを楽しむことができている。	
		b	利用者にとって不快な音や光、臭いがないように配慮し、掃除も行き届いている。	○	毎日の清掃により、衛生管理を徹底している。トイレ汚染等も速やかに掃除・消毒を利用者・家族が快適に過ごせるようにしている。					○
		c	心地よさや能動的な言動を引き出すために、五感に働きかける様々な刺激(生活感や季節感を感じるもの)を生活空間の中に採り入れ、居心地よく過ごせるよう工夫している。	○	料理を各ユニットで調理し、臭いの五感に働きかけ、今日の料理の紹介、味付けなど話したりする。					○
		d	気の合う利用者同士で思い思いに過ごせたり、人の気配を感じながらも独りになれる居場所の工夫をしている。	◎	各ユニットで外出したり、利用者同士での関係を深めるために共にリハビリしたり、話したり、笑ったりして頂いている。					
		e	トイレや浴室の内部が共用空間から直接見えないよう工夫している。	○	ドアやカーテンを開める様に徹底している。					
27	居心地良く過ごせる 居室の配慮		本人や家族等と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	○	家族や本人の希望があれば使い慣れたものを持ってきてもらっている。	○		○	居室の入口には、利用者の干支や名前が貼られ、飾りが掛けられている利用者もいる。居室には、ベッドや洗面台、エアコン、タンスなどが備え付けられているほか、寝具も事業所で用意した物を使用することもできる。テレビやラジオを置いているほか、利用者は洗顔後に化粧水をつけたり、カレンダーに予定を書き込んだり、毎日細かく日誌をつけるなど、使い慣れた物を持ち込みながら、自分らしい居室を再現できている。	
28	一人ひとりの力が 活かせる環境づくり	a	建物内部は利用者一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように配慮や工夫をしている。	○	移動経路には、物を置かない様に工夫している。手すりの設置など移動がスムーズにできるように配慮している。			○	トイレを分かりやすく表示するとともに、「使用中」を示す札も用意されている。体操時に利用者等がぶつからないようテーブルの配置を工夫しているほか、動線に配慮して事業所内は整理整頓されている。冬場には、利用者の足が冷えるため、足置き台の作成を予定している。	
		b	不安や混乱、失敗を招くような環境や物品について検討し、利用者の認識間違いや判断ミスを最小にする工夫をしている。	○	居室・トイレなど迷わない様にわかりやすく名前をかけたたりして間違いを最小にしている。					
		c	利用者の活動意欲を触発する馴染みの物品が、いつでも手に取れるように生活空間の中にさりげなく置かれている。(ぼうし、裁縫道具、大工道具、園芸用品、趣味の品、新聞・雑誌、ポット、急須・湯飲み・お茶の道具等)	◎	利用者の居室に本人の馴染み物品を置くように配慮している。危険な物などは家族と相談しながら支援している。					
29	鍵をかけない ケアの取り組み	a	代表者及び全ての職員が、居室や日中にユニット(棟)の出入り口、玄関に鍵をかけることの弊害を理解している。(鍵をかけられ出られない状態で暮らしていることの異常性、利用者にもたらす心理的不安や閉塞感・あきらめ・気力の喪失、家族や地域の人にもたらす印象のデメリット等)	○	日中は玄関・門もオープンにしている。いつでも気軽に来もらえるようにしている。	◎	◎	◎	職員は鍵をかけることの弊害を理解しており、日中には玄関は施錠していない。2階の階段の入口には、利用者の転落防止などの安全面に配慮し、柵が取り付けられているが鍵はついていない。利用者は、自由に庭や畑に出ることができている。	
		b	鍵をかけない自由な暮らしについて家族の理解を図っている。安全を優先するために施錠を望む家族に対しては、自由の大切さと安全確保について話合っている。	○	現在鍵錠を望む家族はいない					
		c	利用者の自由な暮らしを支え、利用者や家族等に心理的圧迫をもたらさないよう、日中は玄関に鍵をかけなくてもすむよう工夫している(外出の察知、外出傾向の把握、近所の理解・協力の促進等)。	○	日中は玄関・門もオープンにしている。外に行きたい方に対しては職員と一緒に歩くなど工夫をしている。					

項目 No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
(4) 健康を維持するための支援									
30	日々の健康状態や病状の把握	a	職員は、利用者一人ひとりの病歴や現病、留意事項等について把握している。	◎	入所時にサマリー作成、アセスメントシート作成し職員に徹底している。				
		b	職員は、利用者一人ひとりの身体状態の変化や異常のサインを早期に発見できるように注意しており、その変化やサインを記録に残している。	○	毎日のバイタル測定や身体状況の変化がある時は申し送りや記録で残し、異常時は速やかに対応するようにしている。				
		c	気になることがあれば看護職やかかりつけ医等についても気軽に相談できる関係を築き、重度化の防止や適切な入院につなげる等の努力をしている。	△	気になることは看護師や協力医療機関の医師と連携を取り、重度化を防ぐようにしている。				
31	かかりつけ医等の受診支援	a	利用者一人ひとりのこれまでの受療状況を把握し、本人・家族が希望する医療機関や医師を受診できるよう支援している。	◎	家族の希望にてそのままかかりつけ医を受診している方もおられる。		◎		
		b	本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	◎	医療機関と連携を取り、定期検診や相談、受診などを行い、必要があれば専門医に紹介をお願いしている。希望のかかりつけ医がいる場合は、現状がわかるように情報を提供し、受診できるように支援している。				
		c	通院の仕方や受診結果の報告、結果に関する情報の伝達や共有のあり方等について、必要に応じて本人や家族等の合意を得られる話し合いを行っている。	○	医師と連携をとりながら、受診結果の報告、必要に応じ家族に相談しながら行っている。				
32	入退院時の医療機関との連携、協働	a	入院の際、特にストレスや負担を軽減できる内容を含む本人に関する情報提供を行っている。	○	入院された利用者において、定期的に面会し、医療機関と連携をとっている。				
		b	安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。	○	医療機関と連携を取り、早期退院ができるように情報交換し、支援できている。				
		c	利用者の入院時、または入院した場合に備えて日頃から病院関係者との関係づくりを行っている。	○	入院時は医療機関との連携を密にし情報交換し、良い関係ができるようにしている。				
33	看護職との連携、協働	a	介護職は、日常の関わりの中で得た情報や気づきを職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談している。看護職の配置や訪問看護ステーション等との契約がない場合は、かかりつけ医や協力医療機関等に相談している。	◎	利用者に状態の変化が見られた時は協力医療機関に報告し相談をしている。				
		b	看護職もしくは訪問看護師、協力医療機関等に、24時間いつでも気軽に相談できる体制がある。	◎	緊急時等もすぐに対応できるような体制ができている。職員に看護師もいるため 早期の対応ができている。				
		c	利用者の日頃の健康管理や状態変化に応じた支援が適切にできるような体制を整えている。また、それにより早期発見・治療につなげている。	◎	日々のバイタルチェックや週1回の体重測定など健康管理をしながら日頃の状態の把握に努めることで異常の早期発見につなげている。勉強会で緊急時の対応なども定期的に行っている。				
34	服薬支援	a	職員は、利用者が使用する薬の目的や副作用、用法や用量について理解している。	△	服薬ファイルを作成し、二重チェック・飲み忘れ、誤薬を防ぐように心がけている。職員一人一人が理解できるようにしている。多国籍の職員が多いため 今後どのようにしたら全員が把握できるか検討が必要				
		b	利用者一人ひとりが医師の指示どおりに服薬できるよう支援し、飲み忘れや誤薬を防ぐ取り組みを行っている。	○	配薬・確認は別々の職員がすることで誤薬の防止につなげている。				
		c	服薬は本人の心身の安定につながっているのか、また、副作用(周辺症状の誘発、表情や活動の抑制、食欲の低下、便秘や下痢等)がないかの確認を日常的に行っている。	○	薬の効能・副作用は医療機関との連携により 職員間で状態の把握をし 異常を早期に発見している。				
		d	漫然と服薬支援を行うのではなく、本人の状態の経過や変化などを記録し、家族や医師、看護職等に情報提供している。	○	状態の変化時、協力医療機関の医師と連携をし経過等を報告し、情報共有できている。				

項目 No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
35	重度化や終末期への支援	a	重度化した場合や終末期のあり方について、入居時、または状態変化の段階ごとに本人・家族等と話し合いを行い、その意向を確認しながら方針を共有している。	◎	重度化した指針を入所時に説明、同意を得てサインを頂いている。段階によって医師との相談・同意を得て、実施している。	/	/	/	事業所では、「利用者に対する健康管理について」「看取りに関する指針」を定め、入居時に職員は利用者や家族に説明し、同意を得ている。事業所では、利用者や家族の要望に応じて、看取り支援を行っている。母体が医療法人であるため、事業所での看取りにも積極的である。事業所には、看護師も常駐しており、利用者や家族には安心感がある。利用者の重度化が進む中において、事業所での看取りの希望は多く、関係者と方針を共有しながら、管理者は可能な範囲で看取り対応をしていきたいと考えている。
		b	重度化、終末期のあり方について、本人・家族等だけでなく、職員、かかりつけ医・協力医療機関等関係者で話し合い、方針を共有している。	◎	重度化・終末期のあり方について家族・協力医療機関の医師と連携を取り方針を共有している。	○		○	
		c	管理者は、終末期の対応について、その時々の職員の思いや力量を把握し、現状ではどこまでの支援ができるかの見極めを行っている。	△	終末期の対応について職員の勉強会を実施し、不安軽減やスキル向上に努めている。状態に応じて話し合いながら支援している。	/	/	/	
		d	本人や家族等に事業所の「できること・できないこと」や対応方針について十分な説明を行い、理解を得ている。	○	出来る事・出来ない事はしっかりと説明し、家族に理解を頂いている。	/	/	/	
		e	重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、家族やかかりつけ医など医療関係者と連携を図りながらチームで支援していく体制を整えている。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。	◎	主治医や職員・看護師・家族・本人を含め、連携を取り体制を整えている。	/	/	/	
		f	家族等への心理的支援を行っている。(心情の理解、家族間の事情の考慮、精神面での支え等)	○	家族への説明を十分に行い、理解をもらっている。遠方の家族さんにも不安にならないように適宜連携をとれるように支援している。	/	/	/	
36	感染症予防と対応	a	職員は、感染症(ノロウイルス、インフルエンザ、白癩、疥癬、肝炎、MRSA等)や具体的な予防策、早期発見、早期対応策等について定期的に学んでいる。	◎	感染症について定期的に勉強会をして予防・対策をしている。	/	/	/	
		b	感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、万が一、感染症が発生した場合に速やかに手順にそった対応ができるよう日頃から訓練を行うなどして体制を整えている。	◎	マニュアルを作成しており定期的な勉強会をしている。新人職員には都度説明して全員が対応できるようにしている。	/	/	/	
		c	保健所や行政、医療機関、関連雑誌、インターネット等を通じて感染症に対する予防や対策、地域の感染症発生状況等の最新情報を入手し、取り入れている。	◎	運営推進会議等にて地域の発生状況なども説明して頂いている。医療機関等からも情報をいただいている。	/	/	/	
		d	地域の感染症発生状況の情報収集に努め、感染症の流行に随時対応している。	◎	運営推進会議等にて地域の発生状況なども説明して頂いている。	/	/	/	
		e	職員は手洗いやうがいなど徹底して行っており、利用者や来訪者等についても清潔が保持できるよう支援している。	◎	利用者はもちろん 職員も手洗いやうがいの徹底をしている。来訪者にも玄関に手指の消毒をお願いし、対応している。	/	/	/	

項目 No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
II. 家族との支え合い									
37	本人とともに支え合う 家族との関係づくりと支援	a	職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽をともにし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。	○	毎月お便りを送ったり、遠方の方にはお手紙を添えて近況報告をしている。面会に来られた時には状態の説明をしている。	/	/	/	年2回、餅つきや芋炊きの行事には、家族も一緒に参加している。いちご狩りなどの外出行事にも、一緒参加してもらい出かけることもある。現在はコロナ禍のため、家族が参加した行事は中止となっている。遠方の家族には、職員からの電話でのやり取りのほか、事業所便りを送付し、利用者の様子を伝えている。利用者の要望で、自ら手紙を書き、請求書等の送付時に同封することもしており、家族から喜ばれている。新型コロナウイルス感染症対策のため、事業所では面会制限も設けていることもあり、パソコンなどを活用したりリモートでの面会を行う利用者もいる。面会や運営推進会議の時を活用し、職員は家族から気がかりなことや要望を聞くよう努めており、直接、管理者に電話相談している家族もいる。事業所の事柄については、運営推進会議での報告するほか、事業所便りに記載して家族等にも周知している。また、前回の調査から、事業所便りに新人職員の紹介の掲載するよう改善されている。
		b	家族が気軽に訪れ、居心地よく過ごせるような雰囲気づくりや対応を行っている。(来やすい雰囲気、関係再構築の支援、湯茶の自由利用、居室への宿泊のしやすさ等)	○	いつでも気軽に来てもらえるように玄関も開放している。ゆっくり過ごしてもらるように声掛けしている。	/	/	/	
		c	家族がホームでの活動に参加できるように、場面や機会を作っている。(食事づくり、散歩、外出、行事等)	△	仕事をしている家族が多くなり現状は難しい。今後どのようにしたらよいか検討が必要	◎	/	○	
		d	来訪する機会が少ない家族や疎遠になってしまっている家族も含め、家族の来訪時や定期的な報告などにより、利用者の暮らしぶりや日常の様子を具体的に伝えている。(「たより」の発行・送付、メール、行事等の録画、写真の送付等)	○	毎月お便りを送ったり、遠方の方にはお手紙を添えたり定期的な報告をしている。	/	○	/	
		e	事業所側の一方的な情報提供ではなく、家族が知りたいことや不安に感じていること等の具体的な内容を把握して報告を行っている。	○	家族の不安や意向は都度聞き報告をするようにしている。	/	/	/	
		f	これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係を築いていけるように支援している。(認知症への理解、本人への理解、適切な接し方・対応等についての説明や働きかけ、関係の再構築への支援等)	○	今後起こり得る認知症の悪化や状態を説明しながら適切に関わり続けてもらえるよう理解してもらっている。	/	/	/	
		g	事業所の運営上の事柄や出来事について都度報告し、理解や協力を得るようにしている。(行事、設備改修、機器の導入、職員の異動・退職等)	○	人事との連携を図り、職員の確保人材の紹介など取り入れている。	/	○	○	
		h	家族同士の交流が図られるように、様々な機会を提供している。(家族会、行事、旅行等への働きかけ)	△	家族会はあるが仕事をしている方が多いので現状は難しい	/	/	/	
		i	利用者一人ひとり起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている。	○	今後起こり得るリスクについて面会時やケアプラン等で説明をしている。	/	/	/	
		j	家族が、気がかりなことや、意見、希望を職員に気軽に伝えたり相談したりできるように、来訪時の声かけや定期的な連絡等を積極的にやっている。	○	家族の面会時には出来るだけ連絡・報告をするようにしている。相談がある場合にも気軽に対応できる体制にしている。	/	/	○	
38	契約に関する説明と納得	a	契約の締結、解約、内容の変更等の際は、具体的な説明を行い、理解、納得を得ている。	◎	契約時に十分説明をして理解・納得を得ると共に何かあればいつでも相談できる様に心がけている。	/	/	/	
		b	退居については、契約に基づくとともにその決定過程を明確にし、利用者や家族等に具体的な説明を行った上で、納得のいく退居先に移れるように支援している。退居事例がない場合は、その体制がある。	○	退去の希望がある場合には十分な説明をし、希望先にスムーズに移れるように支援している。	/	/	/	
		c	契約時及び料金改定時には、料金の内訳を文書で示し、料金の設定理由を具体的に説明し、同意を得ている。(食費、光熱水費、その他の実費、敷金設定の場合の償却、返済方法等)	○	料金改定時には説明し、同意を得て対応している。	/	/	/	

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
Ⅲ. 地域との支え合い									
39	地域とのつきあいやネットワークづくり ※文言の説明 地域：事業所が所在する市町の日常生活圏域、自治会エリア	a	地域の人に対して、事業所の設立段階から機会をつくり、事業所の目的や役割などを説明し、理解を図っている。	○	運営推進会議や行事に参加してもらったりして事業所を知ってもらい理解を図っている。	/	○	/	町内会には入会していないが、回覧板を回してもらい地域の情報を得ることもある。回覧板は、閲覧後に利用者と一緒に次の世帯へ届けている。事業所として、近隣の公園の清掃活動に積極的に参加したり、保育園との交流をしたりしている。地域のお祭りでは、職員が神輿の担いだったり、パザールの出店したりするなどの活躍もしている。コロナ禍の以前には、事業所周辺の散歩時に地域住民に挨拶をすることはあったが、住宅街ということもあり、日中は仕事に出かけ不在の家も多い。また、近隣に住む外国人が、クリスマスにはサンタクロースに扮してやって来るなど、日頃から地域との交流を大切にしている。
		b	事業所は、孤立することなく、利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、地域の人たちに対して日頃から関係を深める働きかけを行っている。(日常的なあいさつ、町内会・自治会への参加、地域の活動や行事への参加等)	○	地域行事に参加したりして関係を築いている。	/	○	○	
		c	利用者を見守ったり、支援してくれる地域の人たちが増えている。	○	運営推進会議等で少しずつ顔なじみの関係が増えている	/	/	/	
		d	地域の人気が気軽に立ち寄り遊びに来たりしている。	△	用事のある時は来てもらえるがまだまだ気軽に寄ってもらえることは少ない。	/	/	/	
		e	隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらうなど、日常的なおつきあいをしている。	△	散歩時等は挨拶したりするがまだまだ日常的な付き合いが出来ていないのが現状	/	/	/	
		f	近隣の住民やボランティア等が、利用者の生活の拡がりや充実を図ることを支援してくれるよう働きかけを行っている。(日常的な活動の支援、遠出、行事等の支援)	○	地域行事に参加することで少しずつ広がりが増えている	/	/	/	
		g	利用者一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	△	施設内での資源(マンパワー)だけでなく他の資源の活用も検討し努力している。	/	/	/	
		h	地域の人たちや周辺地域の諸施設からも協力を得ることができるよう、日頃から理解を拡げる働きかけや関係を深める取り組みを行っている(公民館、商店・スーパー・コンビニ、飲食店、理美容店、福祉施設、交番、消防、文化・教育施設等)。	○	地域行事や運営推進会議等で関係を築いている。	/	/	/	
40	運営推進会議を活かした取組み	a	運営推進会議には、毎回利用者や家族、地域の人等の参加がある。	○	地域の方や利用者・家族に参加してもらい行っている。	○	/	○	運営推進会議には、利用者や家族、民生委員、町内会長、地域住民、近隣の介護サービス事業所、市担当者などの参加を得て開催している。会議では、参加者から意見や要望が出され、事業所の考え方をしっかり返答している。会議で外部評価の自己評価の取組みなどが報告できていないため、今後の課題として取り上げるなど、報告することを期待したい。今年の4月以降の会議は、コロナ禍のため書面での開催となっている。
		b	運営推進会議では、利用者やサービスの実績、評価への取り組み状況(自己評価・外部評価の内容、目標達成計画の内容と取り組み状況等)について報告している。	△	外部評価の結果が届いたときには説明をしていくようにする。	/	/	×	
		c	運営推進会議では、事業所からの一方的な報告に終わらず、会議で出された意見や提案等を日々の取り組みやサービス向上に活かし、その状況や結果等について報告している。	○	地域の方や参加者からの助言はしっかりと聞き今後につなげていけるようにしている。	/	◎	○	
		d	テーマに合わせて参加メンバーを増やしたり、メンバーが出席しやすい日程や時間帯について配慮・工夫をしている。	◎	地域の方の意見を聞き 午前中にしている。今後テーマに合わせてメンバーの参加も検討したい	/	○	/	
		e	運営推進会議の議事録を公表している。	○	誰でも見やすい所に置いている。	/	/	/	

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
IV.より良い支援を行うための運営体制									
41	理念の共有と実践	a	地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、代表者、管理者、職員は、その理念について共通認識を持ち、日々の実践が理念に基づいたものになるよう日常的に取り組んでいる。	△	事業所の理念は出来ているが、理念についての共通認識は持っていない状態。一部の職員のみ認識している状況であるため今後の課題となる。	/	/	/	
		b	利用者、家族、地域の人たちにも、理念をわかりやすく伝えている。	○	各ユニットの事務所前で掲示しており、面会時や入居時に伝えられるようにしている。	○	×	/	
42	職員を育てる取り組み ※文言の説明 代表者:基本的には運営している法人の代表者であり、理事長や代表取締役が該当するが、法人の規模によって、理事長や代表取締役をその法人の地域密着型サービス部門の代表者として扱うのは合理的ではないと判断される場合、当該部門の責任者などを代表者として差し支えない。したがって、指定申請書に記載する代表者と異なることはありうる。	a	代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、計画的に法人内外の研修を受けられるよう取り組んでいる。	◎	個々に適した勉強会への参加や講習会への呼びかけを行っている。研修報告は全員がよめるようにしている。	/	/	/	医師である代表者は、月2回事業所に往診に訪れ、職員と顔を合わせる機会がある。忘年会や旅行、バーベキュー、女子会を協力してくれるなど、職員は、法人・事業所として福利厚生が充実していると感じている。代表者は、職員のストレス軽減に努め、働きやすい環境づくりをしている。
		b	管理者は、OJT(職場での実務を通して行う教育・訓練・学習)を計画的に行い、職員が働きながらスキルアップできるよう取り組んでいる。	△	OJTを計画的に実施できる様に検討している。	/	/	/	
		c	代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	◎	能力向上を目指し研修を受けたり、資格が取れるように便宜を図っている。常勤・パートの人材確保により、勤務状態を確保している。福利厚生も充実しており、職員がやりがいをもって働いている。	/	/	/	
		d	代表者は管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互研修などの活動を通して職員の意識を向上させていく取り組みをしている。(事業者団体や都道府県単位、市町単位の連絡会などへの加入・参加)	○	同業者との意見交換を図っている。以前から所属ボランティアグループの同士との交流ある。	/	/	/	
		e	代表者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。	○	管理者のストレス軽減のために常に相談体制であり、職員の「ため」には、社内旅行など実施し働きやすく気遣っている。	○	○	○	
43	虐待防止の徹底	a	代表者及び全ての職員は、高齢者虐待防止法について学び、虐待や不適切なケアに当たるのは具体的にどのような行為なのかを理解している。	○	高齢者虐待防止のマニュアルがあると共に、具体的な虐待の種類を勉強している。	/	/	/	事業所内で勉強会を実施するほか、外部研修に参加するなど、虐待防止や不適切な対応をしないよう、職員の意識向上に努めている。世間で高齢者等の虐待の報道があった場合には、代表者から役員の徴集があり、内容を周知するとともに、虐待防止の徹底について話し合いをしている。職員は、他の職員等の不適切な行為を発見した場合の対応方法や手順についても理解している。
		b	管理者は、職員とともに日々のケアについて振り返ったり話し合ったりする機会や場をつくっている。	○	チーフ会、ミーティングを実施している。各話し合う利用者を挙げている。	/	/	/	
		c	代表者及び全ての職員は、虐待や不適切なケアが見逃ごされることがないように注意を払い、これらの行為を発見した場合の対応方法や手順について知っている。	○	常に声掛けなどミーティング統一し、常に声掛けし話している。	/	/	/	
		d	代表者、管理者は職員の疲労やストレスが利用者へのケアに影響していないか日常的に注意を払い、点検している。	○	対応困難事例等は、常に話しを検討し方針方向性を決めていくようにしている。	/	/	/	
44	身体拘束をしないケアの取り組み	a	代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」や「緊急やむを得ない場合」とは何かについて正しく理解している。	△	理解している職員は一部の職員のみ状態。身体拘束対策検討会議を定期的に開催している。	/	/	/	
		b	どのようなことが身体拘束に当たるのか、利用者や現場の状況に照らし合わせて点検し、話し合う機会をつくっている。	○	身体拘束対策検討会議を開催しており、勉強会で周知している。	/	/	/	
		c	家族等から拘束や施設への要望があっても、その弊害について説明し、事業所が身体拘束を行わないケアの取り組みや工夫の具体的な内容を示し、話し合いを重ねながら理解を図っている。	△	現段階では、家族からの施設への要望はないが、2人だけ身体拘束の説明と同意は得ている。	/	/	/	

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
45	権利擁護に関する制度の活用	a	管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学び、それぞれの制度の違いや利点などを理解している。	◎	社会福祉士として成年後見人制度の研修を受け、愛媛県社会福祉士会ばあとなあ所属し受任している。	/	/	/	
		b	利用者や家族の現状を踏まえて、それぞれの制度の違いや利点なども含め、パンフレット等で情報提供したり、相談にのる等の支援を行っている。	◎	成年後見人研修により、身上監護と財産管理を基本として、制度を勉強している。	/	/	/	
		c	支援が必要な利用者が制度を利用できるよう、地域包括支援センターや専門機関(社会福祉協議会、後見センター、司法書士等)との連携体制を築いている。	○	福祉利用援助サービスについての内容について勉強している。	/	/	/	
46	急変や事故発生時の備え・事故防止の取り組み	a	怪我、骨折、発作、のど詰まり、意識不明等利用者の急変や事故発生時に備えて対応マニュアルを作成し、周知している。	○	事故対応マニュアルがあり、過失がある場合は、損害保険対応可能である。	/	/	/	
		b	全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	○	定期的に応急手当等、事業所の職員が集まって研修をしている。	/	/	/	
		c	事故が発生した場合の事故報告書はもとより、事故の一手手前の事例についてもヒヤリハットにまとめ、職員間で検討するなど再発防止に努めている。	△	事故対策委員会を立ち上げている。ヒヤリハットを検討する体制を整えミーティングに挙げている。	/	/	/	
		d	利用者一人ひとりの状態から考えられるリスクや危険について検討し、事故防止に取り組んでいる。	○	利用者リスクを話し合うチーム会を開催し検討している。	/	/	/	
47	苦情への迅速な対応と改善の取り組み	a	苦情対応のマニュアルを作成し、職員はそれを理解し、適宜対応方法について検討している。	○	苦情対応マニュアルがあり、苦情報告等の書類作成している。	/	/	/	
		b	利用者や家族、地域等から苦情が寄せられた場合には、速やかに手順に沿って対応している。また、必要と思われる場合には、市町にも相談・報告等している。	○	苦情が寄せられた時は、マニュアルに沿って対応している。苦情対応委員の立ち上げの検討をしている。	/	/	/	
		c	苦情に対しての対策案を検討して速やかに回答するとともに、サービス改善の経過や結果を伝え、納得を得ながら前向きな話し合いと関係づくりを行っている。	○	苦情の事実確認を行うと共に話し合う機会を持つ様に努力している。	/	/	/	
48	運営に関する意見の反映	a	利用者が意見や要望、苦情を伝えられる機会をつくっている。(法人・事業所の相談窓口、運営推進会議、個別に訊く機会等)	○	入所時にも家族に対し苦情窓口を説明し、利用者にも報告している。	/	/	○	日常生活の中で、職員は利用者意見に伝えてもらえるよう、会話の機会を多く持っている。家族からは、面会や運営推進会議、電話連絡時を活用して意見を聞くよう努めている。管理者は現場に出ており、職員の気持ちがよく理解できている。管理者は、職員から現場やミーティング時に意見を聞き、利用者本位のサービスが提供できるよう検討している。
		b	家族等が意見や要望、苦情を伝えられる機会をつくっている。(法人・事業所の相談窓口、運営推進会議、家族会、個別に訊く機会等)	○	法人全体で苦情マニュアルを説明し、利用者にも報告している。	◎	/	○	
		c	契約当初だけではなく、利用者・家族等が苦情や相談ができる公的な窓口の情報提供を適宜行っている。	○	入所時に必ず苦情マニュアルがある事説明し、話しやすい雰囲気で見ている。	/	/	/	
		d	代表者は、自ら現場に足を運ぶなどして職員の意見や要望・提案等を直接聞く機会をつくっている。	◎	月に1回は法人に往診に来て下さり全体を見て下さる。	/	/	/	
		e	管理者は、職員一人ひとりの意見や提案等を聴く機会を持ち、ともに利用者本位の支援をしていくための運営について検討している。	○	ミーティングなどで、何かないか話したり、常に声掛けして話を傾聴している。	/	/	○	

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
49	サービス評価の取り組み	a	代表者、管理者、職員は、サービス評価の意義や目的を理解し、年1回以上全員で自己評価に取り組んでいる。	◎	外部評価を実施し、ミーティングで話し合い、伝達方法で報告している。				外部評価のサービス評価結果について、運営推進会議の中で報告しているが、外部からの事業所のモニタリングまでには至っていない。自己評価については、事業所の取り組みの振り返りにも活用できることから、可能な限り多くの職員で取り組むことを望みたい。また、今後は目標達成計画を踏まえ、目標の取組み状況を運営推進会議の中で報告するなど、会議の参加者や家族にも理解を得られるような取組みを期待したい。
		b	評価を通して事業所の現状や課題を明らかにするとともに、意識統一や学習の機会として活かしている。	◎	評価について1つ1つ出来る事を職員皆で協力し実施している。				
		c	評価(自己・外部・家族・地域)の結果を踏まえて実現可能な目標達成計画を作成し、その達成に向けて事業所全体で取り組んでいる。	○	1つ1つ目標達成計画を、ミーティングで話し合い出来る事を実施している。				
		d	評価結果と目標達成計画を市町、地域包括支援センター、運営推進会議メンバー、家族等に報告し、今後の取り組みのモニターをしてもらっている。	○	評価結果を運営推進会議で家族さんに見て頂いている。	○	○	△	
		e	事業所内や運営推進会議等にて、目標達成計画に掲げた取り組みの成果を確認している。	○	目標達成計画後に会議等で確認を実施している。				
50	災害への備え	a	様々な災害の発生を想定した具体的な対応マニュアルを作成し、周知している。(火災、地震、津波、風水害、原子力災害等)	○	施設内の防火管理者により、各マニュアルを作成している。				様々な災害を想定した避難訓練を実施している。運営推進会議の開催に合わせて避難訓練を実施する工夫をしており、家族や近隣住民、町内会長、民生委員などにも、訓練への参加協力が得られている。また、事業所では災害時の対応マニュアルを作成している。
		b	作成したマニュアルに基づき、利用者が、安全かつ確実に避難できるよう、さまざまな時間帯を想定した訓練を計画して行っている。	○	避難訓練は日中・夜間想定を交互に行っている。				
		d	消火設備や避難経路、保管している非常用食料・備品・物品類の点検等を定期的に行っている。	○	4か月に1回の総点検によって確認作業を実施している。スプリンクラーのタンク内清掃は施設職員が行っている。				
		e	地域住民や消防署、近隣の他事業所等と日頃から連携を図り、合同の訓練や話し合う機会をつくるなど協力・支援体制を確保している。	◎	運営推進会議にも避難訓練を取り入れ、近隣の方々や家族、市役所の方にも消防署立会いのもと、消火訓練に参加して頂いている。	○	○	○	
		f	災害時を想定した地域のネットワークづくりに参加したり、共同訓練を行うなど、地域の災害対策に取り組んでいる。(県・市町、自治会、消防、警察、医療機関、福祉施設、他事業所等)	◎	地域の震災想定避難訓練に利用者含め参加させて頂いた。馬木では近隣の聾学校を避難拠点としたネットワークが出来ている。				
51	地域のケア拠点としての機能	a	事業所は、日々積み上げている認知症ケアの実践力を活かして地域に向けて情報発信したり、啓発活動等に取り組んでいる。(広報活動、介護教室等の開催、認知症サポーター養成研修や地域の研修・集まり等での講師や実践報告等)	△	地域に向けて情報発信できる機会が2ヶ月に1度の運営推進会議のみの為、機会を増やす取り組みが今後の課題となる。				事業所として特に相談窓口は設けていないが、近隣の認知症の方の家族に相談場所を紹介したり、地域包括支援センターへ相談をつなげたりしている。母体法人の医院にも事業所のパンフレットを配布し、相談支援につながるよう努めている。また、事業所では、地域行事やボランティア活動に参加したり、外国人技能実習生を受け入れたりするなど、地域貢献や人材育成にも協力している。
		b	地域の高齢者や認知症の人、その家族等への相談支援を行っている。	◎	地域の方への相談はなかなか出来ないが、必要な場合は対応はできる体制は作っている。		△	○	
		c	地域の人たちが集う場所として事業所を解放、活用している。(サロン・カフェ・イベント等交流の場、趣味活動の場、地域の集まりの場等)	○	月1回たご焼き屋さん来訪で近所の方々の憩いの場となっている。週1回パンの販売も来て頂いており、近隣の方へ呼びかけている。				
		d	介護人材やボランティアの養成など地域の人材育成や研修事業等の実習の受け入れに協力している。	◎	月に1度、たいさんじ歯科による口腔ケア講習を開催している。救命講習も施設内で行い、別事業所の職員の実習の受け入れも行っている。				
		e	市町や地域包括支援センター、他の事業所、医療・福祉・教育等各関係機関との連携を密にし、地域活動を協働しながら行っている。(地域イベント、地域啓発、ボランティア活動等)	△	定期的にセミナーの案内を頂いているが、参加率が低い為、課題となる。			○	

(別表第1)

サービス評価結果表

サービス評価項目

(評価項目の構成)

I.その人らしい暮らしを支える

(1)ケアマネジメント

(2)日々の支援

(3)生活環境づくり

(4)健康を維持するための支援

II.家族との支え合い

III.地域との支え合い

IV.より良い支援を行うための運営体制

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー

【外部評価実施評価機関】※評価機関記入

評価機関名	社会福祉法人 愛媛県社会福祉協議会
所在地	愛媛県松山市持田町三丁目8番15号
訪問調査日	令和 2 年 11 月 20 日

【アンケート協力数】※評価機関記入

家族アンケート	(回答数) 15名	(依頼数) 18名
地域アンケート回答数	3名	

※事業所記入

事業所番号	3870103250
事業所名	アトラス馬木
(ユニット名)	Cユニット
記入者(管理者)	
氏名	新田 耕治
自己評価作成日	令和 2 年 9 月 30 日

<p>【事業所理念】</p> <p>個人を尊重しその人らしい生活を支援します。 地域の中で共に暮らしていけるように支援します。</p>	<p>【前回の目標達成計画で取り組んだこと・その結果】</p> <p>1-34 毎月のお便りに新しい職員紹介を写真添付したり、退職した職員に対しては運営推進会議の案内状などに報告をしていく。</p>	<p>【今回、外部評価で確認した事業所の特徴】</p> <p>事業所は閑静な住宅街に立地しており、広い敷地の中には大きな畑もあり、季節の野菜などを栽培している。整形外科医である代表者は利用者のリハビリにも力を入れており、事業所1階には「リハビリ室」があり、利用者は物療機器や歩行器などを活用してリハビリに取り組むほか、スペースをカラオケなどのレクリエーションにも活用することができている。毎日のようにリハビリや体操を生活に取り入れることで、利用者の機能回復にもつながっており、利用者の中には身体機能向上を介護計画の目標に掲げ、利用者ができることを増やしている。法人・事業所として、外国人技能実習生の受け入れや外国籍の職員の雇用にも積極的で、職員確保に努めるほか、人材育成に協力している。外国籍の職員も親を大切にしている習慣から、利用者への感謝の気持ちを込めた支援ができており、職員は言葉の理解などのフォローをしながら、協力し合うことができている。職員は、「利用者を楽しく過ごせるための環境づくりに努めたい」と考えており、利用者への声をかけながら、実現に向けて取り組んでいる。また、法人・事業所として、ケアプラン等の記録様式を改め、現在整備している。代表者は職員を大切にしているほか、管理者と職員の関係性は良く、利用者本位の支援が行われるよう取り組んでいる。看取り支援においても、医師である代表者や看護師を中心に連携体制が取れており、利用者や家族の安心感にもつながっている。</p>
---	---	--

評価結果表

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
I.その人らしい暮らしを支える									
(1)ケアマネジメント									
1	思いや暮らし方の希望、意向の把握	a	利用者一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。	○	入所時に本人のできることや好きな事を把握し、本人の意向を取り入れている。	○	/	○	日々の暮らしの中で、職員は利用者から楽しかったことや食べたい物、やりたいことなど聞いている。外国籍の職員も優しく、利用者との会話や支援の中から意向の把握に努めている。
		b	把握が困難な場合や不確かな場合は、「本人はどうか」という視点で検討している。	○	認知症の進行症状によっては把握困難なケースがあるが、ケアマネと連携を図り「本人はどうか」という視点で検討している。	/	/	/	
		c	職員だけでなく、本人をよく知る人(家族・親戚・友人等)とともに、「本人の思い」について話し合っている。	○	新規入所時に、家族の意向を出るだけ取り入れ、本人の思いや生活歴について家族と面会時、話し合っている。	/	/	/	
		d	本人の暮らし方への思いを整理し、共有化するための記録をしている。	○	ケアプランの支援経過、カンファレンスで家族と本人の声掛けに働きかけている。遠方の家族にはお便りにて情報発信している。	/	/	/	
		e	職員の思い込みや決めつけにより、本人の思いを見落とさないように留意している。	○	チーム会、勉強会で本人の思いについて情報共有を行っている。	/	/	/	
2	これまでの暮らしや現状の把握	a	利用者一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、こだわりや大切にしてきたこと、生活環境、これまでのサービス利用の経過等、本人や本人をよく知る人(家族・親戚・友人等)から聞いている。	○	新規入所時に本人の生活歴、馴染みの暮らしについて把握し、出来るだけ本人の所有物を取り入れているが、一部の方は清潔保持や危険行為防止の課題となっている。	/	/	○	入居時に、職員は利用者や家族のほか、入居前に関わっていた介護サービス事業所などの職員から情報を得ている。聞き取った情報は、センター方式のアセスメントシートなどを活用して、記録している。
		b	利用者一人ひとりの心身の状態や有する力(わかること・できること・できそうなこと等)等の現状の把握に努めている。	◎	出来る事や生活歴を共有し、利用者様に役割を持ってもらう様に支援している。食器拭き、洗濯たたみ、レクリエーション、新聞折など取り入れている。	/	/	/	
		c	本人がどのような場所や場面で安心したり、不安になったり、不安定になったりするかを把握している。	△	日々の生活の中で不安要素や、不穏時のきっかけについて相談、申し送りしている。意志疎通が困難な方は今後の課題となる。	/	/	/	
		d	不安や不安定になっている要因が何かについて、把握に努めている。(身体面・精神面・生活環境・職員のかかわり等)	◎	不安定である時は、かかりつけ医と連携し助言を頂き、必要があれば平和通心療内科とも連携を図っている。	/	/	/	
		e	利用者一人ひとりの一日の過ごし方や24時間の生活の流れ・リズム等、日々の変化や違いについて把握している。	○	1日の過ごし方の生活のリズムを各ユニットで把握し勉強会や、チーム会で話し合っている。センター方式を取り入れることもある。	/	/	/	
3	チームで行うアセスメント(※チームとは、職員のみならず本人・家族・本人をよく知る関係者等を含む)	a	把握した情報をもとに、本人が何を求め必要としているのかを本人の視点で検討している。	◎	入所時のアセスメント、家族の調所をもとに、検討出来ている。	/	/	○	毎月のミーティングや勉強会で把握した情報を職員に周知し、利用者本人の視点で検討している。話し合われた内容は、申し送りノートに記録している。
		b	本人がより良く暮らすために必要な支援とは何かを検討している。	○	勉強会やチーム会で検討し、本人がしたいことに対して実現可能な場合は職員が準備をし、実践している。	/	/	/	
		c	検討した内容に基づき、本人がより良く暮らすための課題を明らかにしている。	○	勉強会やチーム会で課題究明に努めている。	/	/	/	

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
4	チームでつくる本人がより良く暮らすための介護計画	a	本人の思いや意向、暮らし方が反映された内容になっている。	△	意思表示の出来る利用者に対しては反映されているが、それ以外の利用者については職員や家族が本人の思いを汲み取っている。	/	/	/	訪問調査日には、「役割を持ちたい」や「トイレでしっかり立ちたい」など、利用者の意向に沿った目標を取り入れた介護計画書を確認することができた。事業所に介護計画等をお任せする家族も増えているが、事業所では家族等の要望を踏まえて職員も意見を出し合いながら、総合的な視点で介護計画を作成できるような努めている。
		b	本人がより良く暮らすための課題や日々のケアのあり方について、本人、家族等、その他関係者等と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映して作成している。	◎	家族から人前で歌を歌うのが好きだったという情報をもとに、リハビリの時間を活かして本人が人前で歌える歌の把握に努め、他施設の音楽会にて披露される。	○	/	○	
		c	重度の利用者に対しても、その人が慣れ親しんだ暮らし方や日々の過ごし方ができる内容となっている。	○	日々の会話の中で、馴染みのある暮らし方を聞き取り、声掛けで表情を見て、反応を伺っている。	/	/	/	
		d	本人の支え手として家族等や地域の人たちとの協力体制等が盛り込まれた内容になっている。	○	2ヶ月に一回運営推進会議を開催している。家族・地域で出来る事を意見交換で話し合っている。	/	/	/	
5	介護計画に基づいた日々の支援	a	利用者一人ひとりの介護計画の内容を把握・理解し、職員間で共有している。	○	以前は出来ていなかったが、様式を改め、ケアプラン、モニタリング等作成時にはサービスチェック表にて、確認の徹底し職員に促している。	/	/	/	介護計画は個人ファイルに綴じて、職員がサービス内容を確認しやすいようにしている。サービス計画チェック表にも目標が記載されており、職員は毎日確認しながら、日々の支援につなげている。多国籍の職員も記録しやすいように簡素化され、日本人の職員がフォローする形で、具体的な内容を記録することができている。職員の気づきなどは、勉強会の中で検討している。現在、法人・事業所として、ケアプラン・モニタリングの様式を変更していることもあり、利用者全員の記録様式等が統一できていないこともあり、管理者は今後様式を統一した介護計画書等の一式の作成を予定している。
		b	介護計画にそってケアが実践できたか、その結果どうだったかを記録して職員間で状況確認を行うとともに、日々の支援につなげている。	○	H30年10月よりケアプラン・モニタリングの様式を改訂し、職員間で状況確認し日々の支援につなげている。	/	/	/	
		c	利用者一人ひとりの日々の暮らしの様子(言葉・表情・しぐさ・行動・身体状況・エピソード等)や支援した具体的内容を個別に記録している。	△	多国籍の職員でも記録できるよう、記録物は簡素化されている。お変わりがあれば、具体的な内容を記録している。	/	/	△	
		d	利用者一人ひとりについて、職員の気づきや工夫、アイデア等を個別に記録している。	○	ケアの仕方から、設備に関すること等、職員間の会話で出たアイデアは改善提案という形で勉強会で検討し合い反映させて頂いている。	/	/	○	
6	現状に即した介護計画の見直し	a	介護計画の期間に応じて見直しを行っている。	○	3か月に1回はサービス計画について見直しを実施している。	/	/	/	介護計画は、3か月に1回を基本として見直しをしている。サービス計画チェック表で、職員は利用者へのサービスの実施状況を毎日確認し、毎月各利用者の担当職員を中心に総合して評価し、「評価コメント欄」にコメントを残している。また、利用者の状態に変化が生じた場合には、その都度見直ししており、家族に報告や相談を行いながら、新たな計画を作成している。
		b	新たな要望や変化がみられない場合も、月1回程度は現状確認を行っている。	○	チーフ会、勉強会で本人・家族の要望を話し合い、現状の把握に努めている。	/	/	/	
		c	本人の心身状態や暮らしの状態に変化が生じた場合は、随時本人、家族等、その他関係者等と見直しを行い、現状に即した新たな計画を作成している。	○	暮らしについての変化は本人・家族、医療面はかかりつけ医に報告し、見直しを行っている。	/	/	/	
7	チームケアのための会議	a	チームとしてケアを行う上での課題を解決するため、定期的、あるいは緊急案件がある場合にはその都度会議を開催している。	○	入院時、緊急時には今後の方針など関係医療機関と話し合い、チーフ会にて検討している。	/	/	/	毎月、職員会議やミーティングを実施し、職員や利用者の課題解決のため意見交換を行っている。事前に、チーフ会を開催し、話し合う内容をまとめて、会議がスムーズに進行できるよう努めている。入院などの緊急案件がある場合には医療機関と話し合うほか、チーフ会の中でも検討している。参加できなかった職員は、議事録で内容を確認し、確認後には名簿にチェックを入れている。
		b	会議は、お互いの情報や気づき、考え方や気持ちを率直に話し合い、活発な意見交換ができるよう雰囲気や場づくりを工夫している。	○	チーフ会、ミーティングで意見交換を行っている。一部、意見発表が苦手な職員がいる状態。	/	/	/	
		c	会議は、全ての職員を参加対象とし、可能な限り多くの職員が参加できるよう開催日時や場所等、工夫している。	◎	毎月第三週の木曜日に職員会議を開催している。職員の都合によっては翌週に延期し、多くの職員が参加できるよう取り組んでいる。	/	/	/	
		d	参加できない職員がいた場合には、話し合われた内容を正確に伝えるしくみをつくっている。	◎	休憩室に議事録を掲示し、閲覧者は名簿にチェックを入れて頂き、閲覧の有無を見る化している。まだ見ていない職員がいれば、職員同士声をかけ合っている。	/	/	○	
8	確実な申し送り、情報伝達	a	職員間で情報伝達すべき内容と方法について具体的に検討し、共有できるしくみをつくっている。	△	事務所のパソコンにて申し送りの管理を行っている。職員は業務前に確認を行っているが、確認不十分な時がある。	/	/	/	各ユニットにパソコンが設置されており、申し送りなどの記録は各職員が入浴し、データで管理されている。また、重要事項は赤字で入力し、他の職員が見ても分かるように工夫している。
		b	日々の申し送りや情報伝達を行い、重要な情報は全ての職員に伝わるようにしている。(利用者の様子・支援に関する情報・家族とのやり取り・業務連絡等)	○	重要な申し送り事項は文字の色を変え、分かりやすくしている。	◎	/	/	

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
(2) 日々の支援									
9	利用者一人ひとりの思い、意向を大切にしたい支援	a	利用者一人ひとりの「その日したいこと」を把握し、それを叶える努力を行っている。	△	可能な限りお出掛けやリハビリなど、本人が希望したものを取り入れている。一部意思疎通が困難な方は今後の課題となる。				洋服選びや散歩、入浴、飲み物の温度など、職員は日常生活において利用者に自己決定できるよう支援している。リハビリや体操で体を動かすことで、表情筋も和らぐほか、脳の活性化にもなり、利用者の生き生きとした生活に結びついている。
		b	利用者が日々の暮らしの様々な場面で自己決定する機会や場をつくっている。(選んでもらう機会や場をつくる、選ぶのを待っている等)	△	リハビリ器具の使用について、どこから行かうか。また、お飲み物の熱さや、お買い物で、ご希望の日用品を選んで頂いている。			○	
		c	利用者が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかるかに合わせた支援を行うなど、本人が自分で決めたり、納得しながら暮らせるよう支援している。	○	本人から希望を出される方が多い。ベッドに小物入れを取り付けたり、穴あけなど、本人で出来ない事は職員がお手伝いさせて頂いている。				
		d	職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースや習慣を大切にしたい支援を行っている。(起床・就寝、食事・排泄・入浴等の時間やタイミング・長さ等)	△	リハビリや飲物選び、入浴の順番など、本人に選んで頂けるよう声掛けを取り入れている。意思疎通困難な方は職員が本人の気持ちを汲んで選ばせて頂いている。				
		e	利用者の生き生きとした言動や表情(喜び・楽しみ・うるおい等)を引き出す言葉がけや雰囲気づくりをしている。	○	一部表情が乏しい方に対しては傾聴の姿勢で本人の言動に注目している。			○	
		f	意思疎通が困難で、本人の思いや意向がつかめない場合でも、表情や全身での反応を注意深くキャッチしながら、本人の意向にそった暮らし方ができるよう支援している。	○	表情の変化に留意し、足の浮腫が原因だとわかると両足の挙上出来る様に職員手作りの足置きを作成し、表情落ちついている。				
10	一人ひとりの誇りやプライバシーを尊重した関わり	a	職員は、「人権」や「尊厳」とは何かを学び、利用者の誇りやプライバシーを大切にしたい言葉かけや態度等について、常に意識して行動している。	○	研修や声かけについての啓発本を閲覧し、本人の尊厳を失わないよう取り入れている。		○	○	勉強会やリスクマネジメント研修の中に、プライバシー等のテーマを取り入れて職員に学ぶ機会を作っている。外国籍の職員も、高齢者や家族を大切にしておく国柄が業務にも活かされるなど、丁寧な対応ができています。利用者や職員との会話の中で、理解と言葉の表出が伴わず誤解を受けそうなこともあるが、職員同士フォローし合うことができています。また、居室に入る際に職員は、ノックや声かけを基本として実施している。
		b	職員は、利用者一人ひとりに対して敬意を払い、人前であからさまな介護や誘導の声かけをしないよう配慮しており、目立たずさりげない言葉がけや対応を行っている。	△	一部の職員は出来ているが全職員共通ではない。			○	
		c	職員は、排泄時や入浴時には、不安や羞恥心、プライバシー等に配慮しながら介助を行っている。	○	夏場は暑さ対策の為、暖簾をつけさせて頂いた。トイレは中が見えないよう、カーテンをつけさせて頂いている。				
		d	職員は、居室は利用者専用の場所であり、プライバシーの場所であることを理解し、居室への出入りなど十分配慮しながら行っている。	○	掃除の時はノックをし本人に説明をし納得されてから入るようにしている。			○	
		e	職員は、利用者のプライバシーの保護や個人情報漏えい防止等について理解し、遵守している。	○	職員は勉強会でコンプライアンスについて理解を深めている。また、外部に情報を促す時には、必ず同意書を作成し、同意を得ない情報に関しては、漏洩防止している。				
11	ともに過ごし、支え合う関係	a	職員は、利用者を介護される一方の立場におかず、利用者に助けてもらったり教えてもらったり、互いに感謝し合うなどの関係性を築いている。	○	洗濯物干し・畳み、食器拭き、玉ねぎの皮剥きを利用者と一緒にしている。また、労いの言葉や感謝の言葉を伝えている。				100歳を迎えた利用者を感じ、他の利用者が優しくお世話する姿を見ることができた。ユニットを超えて利用者が集まるカラオケやリハビリをする機会も多く、利用者同士の馴染みの関係づくりができています。不安になる利用者には職員が寄り添い、場所を変えて作業の手伝いをしてもらうなど、さり気なくかわることで利用者同士のトラブルを未然に防いでいる。
		b	職員は、利用者同士がともに助け合い、支え合って暮らしていくことの大切さを理解している。	△	職員だけでしている事の中に、利用者もできる事が含まれてしまっている為、今後の課題となる。				
		c	職員は、利用者同士の関係を把握し、トラブルになったり孤立したりしないよう、利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。(仲の良い利用者同士が過ごせる配慮をする、孤立しがちな利用者が交わえる機会を作る、世話役の利用者にうまく力を発揮してもらう場面をつくる等)。	◎	別ユニットの利用者が来た時、職員の声かけにてお世話好きな利用者同士で談話をされ、馴染みの関係がつかれるよう支援させて頂いている。			○	
		d	利用者同士のトラブルに対して、必要な場合にはその解消に努め、当事者や他の利用者に不安や支障を生じさせないようにしている。	○	基本職員が架け橋となるよう心がけているが、どちらかの利用者が手を挙げようとした時は、速やかに利用者同士距離をとらせて頂いている。				

項目 No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
12	馴染みの人や場との関係継続の支援	a	これまで支えてくれたり、支えてきた人など、本人を取り巻く人間関係について把握している。	○	入居時のアセスメントで得た情報は個人ファイルに綴っている為、全職員いつでも情報を引き出せるようにしている。その為、概ね把握している。				
		b	利用者一人ひとりがこれまで培ってきた地域との関係や馴染みの場所などについて把握している。	○	地元の秋祭りを大事にされている利用者の家族へ地元祭りの参加をうながしている。外出の際は会話に取り入れている。				
		c	知人や友人等に会いに行ったり、馴染みの場所に出かけていくなど本人がこれまで大切にしていた人や場所との関係が途切れないよう支援している。	○	面会、外出、外泊は体調悪化がない限り、参加を促して支援している。				
		d	家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪れ、居心地よく過ごせるよう工夫している。	○	家族に合わせ、居室と一緒に談話されたり、リビングで一緒に過ごして頂いている。				
13	日常的な外出支援	a	利用者が、1日中ホームの中で過ごすことがないよう、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう取り組んでいる。(職員側の都合を優先したり、外出する利用者、時間帯、行き先などが固定化していない)(※重度の場合は、戸外に出て過ごすことも含む)	○	要望があれば、職員と一緒に買い物に出かけたり、公園で日光浴ができるよう支援させて頂いている。	△	△	○	季節に応じて、桜などの花見に行ったり、ドライブでいちご狩りなどの外出行事に出かけられるよう支援している。コロナ禍になる前には、利用者と一緒に外出することができていたが、現在は外出を自粛となっている。事業所周辺を散歩したり、畑で収穫したさつまい芋を使用して、焼き芋大会を開催するなど、可能な範囲で職員は利用者が気晴らしできるよう支援している。また、事業所には、車いすを使用している利用者も多く、重度な利用者を中心に支援することが多い。
		b	地域の人やボランティア、認知症サポーター等の協力も得ながら、外出支援をすすめている。	△	他施設との交流として、グループホームいだいより外出先として受け入れの許可を頂いている。				
		c	重度の利用者も戸外で気持ち良く過ごせるよう取り組んでいる。	○	季節に応じて、日光浴や散歩、畑の芋ほりまで楽しまれた。				
		d	本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら、普段は行けないような場所でも出かけられるように支援している。	◎	食事や景色がそれぞれで楽しめるよう、1回の外出で目的地が2つ以上になるよう計画させていた。				
14	心身機能の維持、向上を図る取り組み	a	職員は認知症や行動・心理症状について正しく理解しており、一人ひとりの利用者の状態の変化や症状を引き起こす要因をひもとき、取り除くケアを行っている。	○	個別の周辺症状を理解してチーフ会、ミーティング等に話し合いの場を持っている。				100歳になる高齢の利用者も自力で食事を摂取したり、衣服の着脱など利用者のできることやできそうなところに着目したりするなど、職員は気長に見守りながら支援している。裁縫が得意だった利用者には雑巾を縫ってもらい、掃除で活用している。リビングには手作りカレンダーが掛けられており、利用者が日付の数字や曜日を探したり、それをきちんと入れたりするなど、それぞれの役割に分かれ、みんなで協力しながら毎日完成させている。また、事業所の1階にはリハビリ室があり、利用者は身体機能の維持のため、リハビリにも取り組んでいる。
		b	認知症の人の身体面の機能低下の特徴(筋力低下・平衡感覚の悪化・排泄機能の低下・体温調整機能の低下・嚥下機能の低下等)を理解し、日常生活を営む中で自然に維持・向上が図れるよう取り組んでいる。	○	毎日出来るだけ、本人のリハビリ計画を作成したもので、リハビリメニューを作成、支援、週1回の専門のリハビリ支援を実施。				
		c	利用者の「できること、できそうなこと」については、手や口を極力出さずに見守ったり一緒に行うようにしている。(場面づくり、環境づくり等)	○	食事等できることは参加してもらえらる様に側面的に支援している。		○	○	
15	役割、楽しみごと、気晴らしの支援	a	利用者一人ひとりの生活歴、習慣、希望、有する力等を踏まえて、何が本人の楽しみごとや役割、出番になるのかを把握している。	○	本人のできることを取り入れ役割、出番がある時は、協力を求めて支援している。				食器拭きや洗濯物たたみなど、自分の仕事のように楽しみに行う利用者もいる。金魚の世話も、利用者の役割の一つとなっている。高齢や重度化に伴い、現在話すことは少なくなったが、利用者の昔話に職員は耳を傾け、喜びを思い出せるよう配慮している。
		b	認知症や障害のレベルが進んでも、張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、日常的に、一人ひとりの楽しみごとや役割、出番をつくる取り組みを行っている。	○	ひとり一人に合った役割を考え、楽しんでもらえるよう取り組んでいる。		○	○	
		c	地域の中で役割や出番、楽しみ、張り合いが持てるよう支援している。	△	秋祭りには参加しているも、その他の地域行事にはこちらから出かけることはできていないので今後の課題				

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
16	身だしなみやおしゃれの支援	a	身だしなみを本人の個性、自己表現の一つととらえ、その人らしい身だしなみやおしゃれについて把握している。	○	その人らしいおしゃれができるように支援している。カットも定期的に行っている。				職員は声かけをして、自分でできる利用者には着替えや身だしなみを整えてもらっている。衣服の乱れなどが気づかない利用者には、職員がさり気なくフォローするなど、利用者の身だしなみにも配慮している。男性利用者の髭剃りも剃り残しには職員が注意を払い、介助してきれいに行っている。重度な状態であっても利用者の好みを大切に、職員は利用者の自分らしさが保てるよう支援している。
		b	利用者一人ひとりの個性、希望、生活歴等に応じて、髪形や服装、持ち物など本人の好みに整えられるように支援している。	○	外出するときは、服装などに気を付けなるべく配慮している。				
		c	自己決定がしにくい利用者には、職員と一緒に考えたりアドバイスする等本人の気持ちにそって支援している。	○	本人への少しの気遣いなど観察し、気づいて代弁出来るように支援している。				
		d	外出や年中行事等、生活の彩りにあわせてその人らしい服装を楽しめるよう支援している。	△	月単位の行事計画を作成し、毎月ミーティングで予定発表し参加を促している。				
		e	整容の乱れ、汚れ等に対し、プライドを大切にさりげなくカバーしている。(髭、着衣、履き物、食べこぼし、口の周囲等)	○	整容に関しては 皆で注意し汚れた場合はさりげなく動き 交換している	○	◎	○	
		f	理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている。	○	理容・美容は本人の希望にあわせ、施設内で実施したり、家族と協力して、実施している。				
		g	重度な状態であっても、髪形や服装等本人らしさが保てる工夫や支援を行っている。	○	季節ごとに服の依頼をしている。本人の好きな服などを依頼している。				
		17	食事を楽しむことのできる支援	a	職員は、食事の一連のプロセスの意味や大切さを理解している。	○	食事の配慮、彩などを考えて配膳している。温かいものは温かい物を提供している。		
b	買い物や献立づくり、食材選び、調理、後片付け等、利用者とともにやっている。	○	配膳や片付けなどは利用者と一緒にしている。			○			
c	利用者とともに買い物、調理、盛り付け、後片付けをする等を行うことで、利用者の力の発揮、自信、達成感につなげている。	○	配膳や片付けなどは利用者と一緒にしている。買い物は行ける場合は一緒に行っている						
d	利用者一人ひとりの好きなものや苦手なもの、アレルギーの有無などについて把握している。	○	本人のアレルギーなど、好きなもの、苦手なものを入所時に家族や本人との話で把握している。						
e	献立づくりの際には、利用者の好みや苦手なもの、アレルギー等を踏まえつつ、季節感を感じさせる旬の食材や、利用者にとって昔ながらの味のものを取り入れている。	○	アレルギーの配慮は、考慮しつつ、季節の食材など季節を感じるものを取り入れ栄養士が献立を作成している。			○			
f	利用者一人ひとりの咀嚼・嚥下等の身体機能や便秘・下痢等の健康状態にあわせて調理方法としつつ、おいしそうな盛り付けの工夫をしている。(安易にミキサー食や刻み食で対応しない、いろどりや器の工夫等)	○	利用者の状態に応じて食事形態について考え盛り付け配膳している。						
g	茶碗や湯飲み、箸等を使い慣れたもの、使いやすいものを使用している。	○	本人専用の茶碗、湯飲み、箸などを使い慣れたものを使っている。						
h	職員も利用者と同じ食卓を囲んで食事を一緒に食べながら一人ひとりの様子を見守り、食事のペースや食べ方の混乱、食べこぼしなどに対するサポートをさりげなく行っている。	○	本人が、食べこぼしなどに対して、サポート出来る様と同じテーブルに職員も共に食事をしている。						
i	重度な状態であっても、調理の音やにおい、会話などを通して利用者が食事が待ち遠しくおいしく味わえるよう、雰囲気づくりや調理に配慮している。	○	昼食前には利用者が全員リビングに居るため 配膳しながら五感を刺激できるようにしている。		○	○			
j	利用者一人ひとりの状態や習慣に応じて食べれる量や栄養バランス、カロリー、水分摂取量が1日を通じて確保できるようにしている。	○	栄養のバランスは栄養士のカロリー計算によってメニューを決定している。水分も摂取出来るように時間も決めている。						
k	食事が少なかったり、水分摂取量の少ない利用者には、食事の形態や飲み物の工夫、回数やタイミング等工夫し、低栄養や脱水にならないよう取り組んでいる。	○	水分摂取表を作成し、1日の目安が分かるように記録し、水分不足、脱水にならない様に配慮している。						
l	職員で献立のバランス、調理方法などについて定期的に話し合い、偏りがないように配慮している。場合によっては、栄養士のアドバイスを受けている。	○	栄養士が、利用者に対して栄養のバランスを考え、メニューを決め、アドバイスできる体制になっている。			○			
m	食中毒などの予防のために調理用具や食材等の衛生管理を日常的に行い、安全で新鮮な食材の使用と管理に努めている。	○	全員で勉強会も行い 食中毒をださないように徹底している。						

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
18	口腔内の清潔保持	a	職員は、口腔ケアが誤嚥性肺炎の防止につながることを知っており、口腔ケアの必要性、重要性を理解している。	○	誤嚥性肺炎の病気に対しての知識を日常を通して勉強している。残さ物の細菌により、右の肺に流れるなど観察している。	/	/	/	毎食後、利用者に歯みがき等をしてもらい、介助の必要な利用者には支援を行うなど、職員は利用者の口腔内を確認し、状態を把握している。毎月、歯科医による口腔ケア研修で、職員は支援方法を学ぶほか、指導を受けている。利用者の状況に合わせて、うがいのほか、職員はガーゼや歯ブラシなどを活用して介助し、口腔内の清潔保持に努めている。
		b	利用者一人ひとりの口の中の健康状況(虫歯の有無、義歯の状態、舌の状態等)について把握している。	○	本人の訴えはもとより、口腔ケア実施により口腔内の状態を観察し支援している。	/	/	○	
		c	歯科医や歯科衛生士等から、口腔ケアの正しい方法について学び、日常の支援に活かしている。	○	口腔ケア等の研修を促し支援方法を勉強している体制を作っている。月1回口腔ケアの指導してもらっている	/	/	/	
		d	義歯の手入れを適切に行えるよう支援している。	○	適切に行えるように指導している。	/	/	/	
		e	利用者の力を引き出しながら、口の中の汚れや臭いが生じないよう、口腔の清潔を日常的に支援している。(歯磨き・入れ歯の手入れ・うがい等の支援、出血や炎症のチェック等)	○	歯磨き粉の使用、うがいの徹底し口腔内の汚れや臭いが生じない様に留意して、支援している。	/	/	○	
		f	虫歯、歯ぐきの腫れ、義歯の不具合等の状態をそのままにせず、歯科医に受診するなどの対応を行っている。	○	必要であれば、協力医療機関に往診依頼し実施している。	/	/	/	
19	排泄の自立支援	a	職員は、排泄の自立が生きる意欲や自信の回復、身体機能を高めることにつながることや、おむつ(紙パンツ・パッドを含む)の使用が利用者の心身に与えるダメージについて理解している。	○	利用者に対して、なるべく紙パンツは避け、本人の尿意等の意向を尊重し排泄を促している。	/	/	/	トイレでの排泄の基本を重視して支援している。排泄チェック表で一人ひとりの状況を把握し、職員は時間やタイミングを見て利用者に声をかけ、トイレ誘導をしている。「トイレで排泄したい」という要望を介護計画の目標に取り入れ、支援している利用者もいる。パッド類などの排泄用品に関しては、職員で検討して家族に相談しながら、利用者に合わせて適切な支援につながるよう努めている。
		b	職員は、便秘の原因や及ぼす影響について理解している。	○	利用者の服薬の副作用等の薬情一覧をファイルして効用について理解を深めている。原因についても食事・運動のバランスなども考えている、更には病気等についても周知している。	/	/	/	
		c	本人の排泄の習慣やパターンを把握している。(間隔、量、排尿・排便の兆候等)	◎	排泄記録等を記入し、一人ひとりの排泄状態を知ることができている。	/	/	/	
		d	本人がトイレで用を足すことを基本として、おむつ(紙パンツ・パッドを含む)使用の必要性や適切性について常に見直し、一人ひとりのその時々状態にあった支援を行っている。	○	なるべくトイレで用を足すことに重点をおいて、本人のサインを見逃さない様に留意し声掛けしている。	◎	/	○	
		e	排泄を困難にしている要因や誘因を探り、少しでも改善できる点はないか検討しながら改善に向けた取り組みを行っている。	○	トイレに座って用を足す手段的日常動作について、部分的に支援している。	/	/	/	
		f	排泄の失敗を防ぐため、個々のパターンや兆候に合わせて早めの声かけや誘導を行っている。	◎	利用者それぞれの行動パターンや排泄状態を把握することで職員は早めの声掛け・誘導ができている。	/	/	/	
		g	おむつ(紙パンツ・パッドを含む)を使用する場合は、職員が一方的に選択するのではなく、どのような時間帯にどのようなものを使用するか等について本人や家族と話し合い、本人の好みや自分で使えるものを選択できるよう支援している。	○	日中、夜間の排泄状態を把握したうえで家族様、本人と相談し選択して頂いている。	/	/	/	
		h	利用者一人ひとりの状態に合わせて下着やおむつ(紙パンツ・パッドを含む)を適時使い分けしている。	○	利用者の排泄・排尿の量を把握し、下着・パットの種類を検討している。	/	/	/	
		i	飲食物の工夫や運動への働きかけなど、個々の状態に応じて便秘予防や自然排便を促す取り組みを行っている。(薬に頼らない取り組み)	◎	水分補給の時間を作り、脱水、及び便秘予防に努めたメニューの工夫・更にはリハビリなどの運動効果を利用して、出来るだけ薬を使用しない様にしている。	/	/	/	
20	入浴を楽しむことができる支援	a	曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、利用者一人ひとりの希望や習慣にそって入浴できるよう支援している。(時間帯、長さ、回数、温度等)	◎	本人の意向を取り入れ、入浴の基本の曜日は設定しているが、1日の中で入浴・本人の気持ち、体調を考えて入浴を調整している。	◎	/	○	入浴できる曜日は設定しているが、利用者は週3回入浴することができる。利用者から毎日の入浴希望があれば、対応することも可能である。湯温や使い慣れた石けんなど、職員は利用者の習慣を尊重し、入浴が楽しめるよう支援している。各ユニットに個別浴槽があるほか、事業所の1階には機械浴槽もあり、利用者の状態に合わせて使い分け、利用者は安心して入浴することができている。
		b	一人ひとりが、くつろいだ気分が入浴できるよう支援している。	○	自分で入浴できる方は、なるべく本人におまかせし、時折浴場に声掛けし見守りしている。リラクゼーションできる様な環境作りをしている。	/	/	/	
		c	本人の力を活かしながら、安心して入浴できるよう支援している。	○	本人の出来る事、出来ない事を把握しながら常に声掛け等を行うことで安心して入浴出来る様努めている。	/	/	/	
		d	入浴を拒む人に対しては、その原因や理由を理解しており、無理強いせず気持ち良く入浴できるよう工夫している。	○	馴染みの深い職員に声掛けしてもらったり、散歩、リハビリの後に声掛けするなど工夫している。	/	/	/	
		e	入浴前には、その日の健康状態を確認し、入浴の可否を見極めるとともに、入浴後の状態も確認している。	◎	毎朝、バイタルチェックを実施して、健康管理を行い、入浴等の判断を各ナース、チーフ以上で判断している。	/	/	/	

項目 No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
21	安眠や休息の支援	a	利用者一人ひとりの睡眠パターンを把握している。	◎	夜間帯の情報を朝の申し送りにて把握、変化がある利用者、昼夜逆転のある方は、協力医療機関と連携している。	/	/	/	事業所では、利用者の一日の生活リズムを大切に、整形外科医である代表者が取り入れているリハビリや体操で体を動かしたり、昼寝できる時間を設けてメリハリのある生活を確保したりするなど、利用者が自然な眠りにつながるよう支援している。代表者は、眠剤などの薬はできるだけ使用したくないと考えており、服用している利用者には生活リズムを改善しながら、減薬できるよう努めている。
		b	夜眠れない利用者についてはその原因を探り、その人本来のリズムを取り戻せるよう1日の生活リズムを整える工夫や取り組みを行っている。	◎	夜間入眠できる様に、日中にリハビリ、散歩を実施、会話、レクリエーションを実施、メリハリをつけている。	/	/	/	
		c	睡眠導入剤や安定剤等の薬剤に安易に頼るのではなく、利用者の数日間の活動や日中の過ごし方、出来事、支援内容などを十分に検討し、医師とも相談しながら総合的な支援を行っている。	◎	夜間の状態を協力医療機関に報告し導入剤の内服、服薬の変更時、協力医療機関に報告・相談している。	/	/	/	
		d	休息や昼寝等、心身を休める場面が個別に取れるよう取り組んでいる。	◎	本人の意向により、メリハリをつけ昼寝の時間、居室での本人の時間も大切にして、自由な時間も取り入れている。	/	/	/	
22	電話や手紙の支援	a	家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	◎	携帯電話は基本家族の責任であること伝え、意向は取り入れている。	/	/	/	/
		b	本人が手紙が書けない、電話はかけられないと決めつけず、促したり、必要な手助けをする等の支援を行っている。	◎	本人に、年賀状、はがき書いたりするために購入したり、本人に寂しさをなくす様に促している。	/	/	/	
		c	気兼ねなく電話できるよう配慮している。	◎	本人及び、家族には、気兼ねなく電話出来、話しをしてもらう様に否はしない様に留意している。	/	/	/	
		d	届いた手紙や葉書をそのままにせず音信がとれるように工夫している。	◎	手紙などは、本人が読める方は、お渡しするも、本人と一緒に読む様に職員に声掛けしている。	/	/	/	
		e	本人が電話をかけることについて家族等に理解、協力をしてもらうとともに、家族等からも電話や手紙をくれるようお願いしている。	◎	家族の管理が出来る方のみ連絡を取れる様にしている。	/	/	/	
23	お金の所持や使うことの支援	a	職員は本人がお金を所持すること、使うことの意味や大きさを理解している。	○	認知があるため妄想に発展する利用者様には、なるべく職員管理にしている。落ち着かない利用者には声掛けしている。	/	/	/	/
		b	必要物品や好みの買い物に出かけ、お金の所持や使う機会を日常的につくっている。	◎	職員と一緒に買い物に行くなど本人の必要な用品について金額が高い物以外は共に買い物支援を実施している。	/	/	/	
		c	利用者が気兼ねなく安心して買い物ができるよう、日頃から買い物先の理解や協力を得る働きかけを行っている。	○	買いたいものがある場合は一緒に行き可能な限り支援している。ほぼ家族が買って来る事が多い。	/	/	/	
		d	「希望がないから」「混乱するから」「失くすから」などと一方的に決めてしまうのではなく、家族と相談しながら一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	○	家族と相談しながら支援しているがほとんどの利用者が自分で持っている方はいない。	/	/	/	
		e	お金の所持方法や使い方について、本人や家族と話し合っている。	○	家族と相談しながら支援している。	/	/	/	
		f	利用者が金銭の管理ができない場合には、その管理方法や家族への報告の方法などルールを明確にしておき、本人・家族等の同意を得ている。(預り金規程、出納帳の確認等)。	◎	金銭管理規定に基づき管理している。月1回領収書と明細を家族に渡し、サインをもらっている。	/	/	/	
24	多様なニーズに応える取り組み		本人や家族の状況、その時々々のニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	○	本人との話しや、訴え、意向によって職員間で話し合い利用者の意向、家族の意向を取り入れている。	○	/	○	利用者から、「家族を呼んでほしい」「家に帰りたい」などの要望が出された場合には、家族に協力を得ながら実現できるように努めている。専門医の同行受診や洋服の購入など、職員は家族からの要望にも、柔軟に対応している。

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと	
(3)生活環境づくり										
25	気軽に入れる 玄関まわり等の配慮		利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、気軽に出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている。	◎	玄関はいつも開放しており地域の方や家族が気軽に来もらえるようにしている。	◎	◎	◎	事業所前は広い駐車場があり、玄関先は手すりのついたスロープが設置されている。季節の花の鉢植えや観葉植物を置き、玄関は解放され、気軽に来訪してもらえるような雰囲気づくりをしている。	
26	居心地の良い 共用空間づくり	a	共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、家庭的な雰囲気を有しており、調度や設備、物品や装飾も家庭的で、住まいとしての心地良さがある。(天井や壁に子供向けの飾りつけをしていたり、必要なものしか置いていない殺風景な共用空間等、家庭的な雰囲気をそぐような設えになっていないか等。)	○	利用者と共に作成した、作品や、空間を工夫して、ユニットのカラーを出して飾りつけを実施している。	○	○	○	共有スペースの窓際にソファを置き、利用者は自然光を浴びながら、外の景色を眺めて過ごすことができる。車いすや歩行器が通りやすいよう、テーブルの配置に工夫しているほか、カウンターキッチンからはリビングで過ごす利用者の様子を見渡すことができる。事業所内には加湿器を置き、換気にも配慮している。雑誌や金魚鉢、利用者と一緒に作成した作品を掲示するなど、各ユニットの特徴を出しながら、居心地の良い空間づくりがされている。また、事業所の1階には、「リハビリ室」があり、利用者はリハビリに取り組みほか、カラオケなどを楽しむことができている。	
		b	利用者にとって不快な音や光、臭いがないように配慮し、掃除も行き届いている。	○	毎日の清掃により、衛生管理を徹底している。トイレ汚染等も速やかに掃除・消毒を利用者・家族が快適に過ごせるようにしている。					○
		c	心地よさや能動的な言動を引き出すために、五感に働きかける様々な刺激(生活感や季節感を感じるもの)を生活空間の中に採り入れ、居心地よく過ごせるよう工夫している。	○	料理を各ユニットで調理し、臭いの五感に働きかけ、今日の料理の紹介、味付けなど話したりする。					○
		d	気の合う利用者同士で思い思いに過ごせたり、人の気配を感じながらも独りになれる居場所の工夫をしている。	◎	各ユニットで外出したり、利用者同士での関係を深めるために共にリハビリしたり、話したり、笑ったりして頂いている。					
		e	トイレや浴室の内部が共用空間から直接見えないう工夫している。	○	ドアやカーテンを開める様に徹底している。					
27	居心地良く過ごせる 居室の配慮		本人や家族等と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	○	家族や本人の希望があれば使い慣れたものを持ってきてもらっている。	○		○	居室の入口には、利用者の干支や名前が貼られ、飾りが掛けられている利用者もいる。居室には、ベッドや洗面台、エアコン、タンスなどが備え付けられているほか、寝具も事業所で用意した物を使用することもできる。テレビやラジオを置いているほか、利用者は洗顔後に化粧水をつけたり、カレンダーに予定を書き込んだり、毎日細かく日誌をつけるなど、使い慣れた物を持ち込みながら、自分らしい居室を再現できている。	
28	一人ひとりの力が 活かせる環境づくり	a	建物内部は利用者一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように配慮や工夫をしている。	○	移動経路には、物を置かない様に工夫している。手すりの設置など移動がスムーズにできるように配慮している。			○	トイレを分かりやすく表示するとともに、「使用中」を示す札も用意されている。体操時に利用者等がぶつからないようテーブルの配置を工夫しているほか、動線に配慮して事業所内は整理整頓されている。冬場には、利用者の足が冷えるため、足置き台の作成を予定している。	
		b	不安や混乱、失敗を招くような環境や物品について検討し、利用者の認識間違いや判断ミスを最小にする工夫をしている。	○	居室・トイレなど迷わない様にわかりやすく名前をかけたたりして間違いを最小にしている。					
		c	利用者の活動意欲を触発する馴染みの物品が、いつでも手に取れるように生活空間の中にさりげなく置かれている。(ぼうき、裁縫道具、大工道具、園芸用品、趣味の品、新聞・雑誌、ポット、急須・湯飲み・お茶の道具等)	◎	利用者の居室に本人の馴染み物品を置くように配慮している。危険な物などは家族と相談しながら支援している。					
29	鍵をかけない ケアの取り組み	a	代表者及び全ての職員が、居室や日中にユニット(棟)の出入り口、玄関に鍵をかけることの弊害を理解している。(鍵をかけられ出られない状態で暮らしていることの異常性、利用者にもたらす心理的不安や閉塞感・あきらめ・気力の喪失、家族や地域の人にもたらす印象のデメリット等)	○	日中は玄関・門もオープンにしている。いつでも気軽に来もらえるようにしている。	◎	◎	◎	職員は鍵をかけることの弊害を理解しており、日中には玄関は施錠していない。2階の階段の入口には、利用者の転落防止などの安全面に配慮し、柵が取り付けられているが鍵はついていない。利用者は、自由に庭や畑に出ることができている。	
		b	鍵をかけない自由な暮らしについて家族の理解を図っている。安全を優先するために施錠を望む家族に対しては、自由の大切さと安全確保について話合っている。	○	現在鍵錠を望む家族はいない					
		c	利用者の自由な暮らしを支え、利用者や家族等に心理的圧迫をもたらさないよう、日中は玄関に鍵をかけなくてもすむよう工夫している(外出の察知、外出傾向の把握、近所の理解・協力の促進等)。	○	日中は玄関・門もオープンにしている。外に行きたい方に対しては職員と一緒に歩くなど工夫をしている。					

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
(4) 健康を維持するための支援									
30	日々の健康状態や病状の把握	a	職員は、利用者一人ひとりの病歴や現病、留意事項等について把握している。	◎	入所時にサマリー作成、アセスメントシート作成し職員に徹底している。				
		b	職員は、利用者一人ひとりの身体状態の変化や異常のサインを早期に発見できるように注意しており、その変化やサインを記録に残している。	○	毎日のバイタル測定や身体状況の変化がある時は申し送りや記録で残し、異常時は速やかに対応するようにしている。				
		c	気になることがあれば看護職やかかりつけ医等についても気軽に相談できる関係を築き、重度化の防止や適切な入院につなげる等の努力をしている。	△	気になることは看護師や協力医療機関の医師と連携を取り、重度化を防ぐようにしている。				
31	かかりつけ医等の受診支援	a	利用者一人ひとりのこれまでの受療状況を把握し、本人・家族が希望する医療機関や医師に受診できるよう支援している。	◎	家族の希望にてそのままかかりつけ医を受診している方もおられる。		◎		
		b	本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	◎	医療機関と連携を取り、定期検診や相談、受診などを行い、必要があれば専門医に紹介をお願いしている。希望のかかりつけ医がいる場合は、現状がわかるように情報を提供し、受診できるように支援している。				
		c	通院の仕方や受診結果の報告、結果に関する情報の伝達や共有のあり方等について、必要に応じて本人や家族等の合意を得られる話し合いを行っている。	○	医師と連携をとりながら、受診結果の報告、必要に応じ家族に相談しながら行っている。				
32	入退院時の医療機関との連携、協働	a	入院の際、特にストレスや負担を軽減できる内容を含む本人に関する情報提供を行っている。	○	入院された利用者において、定期的に面会し、医療機関と連携をとっている。				
		b	安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。	○	医療機関と連携を取り、早期退院ができるように情報交換し、支援できている。				
		c	利用者の入院時、または入院した場合に備えて日頃から病院関係者との関係づくりを行っている。	○	入院時は医療機関との連携を密にし情報交換し、良い関係ができるようにしている。				
33	看護職との連携、協働	a	介護職は、日常の関わりの中で得た情報や気づきを職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談している。看護職の配置や訪問看護ステーション等との契約がない場合は、かかりつけ医や協力医療機関等に相談している。	◎	利用者に状態の変化が見られた時は協力医療機関に報告し相談をしている。				
		b	看護職もしくは訪問看護師、協力医療機関等に、24時間いつでも気軽に相談できる体制がある。	◎	緊急時等もすぐに対応できるような体制ができている。職員に看護師もいるため 早期の対応ができている。				
		c	利用者の日頃の健康管理や状態変化に応じた支援が適切にできるような体制を整えている。また、それにより早期発見・治療につなげている。	◎	日々のバイタルチェックや週1回の体重測定など健康管理をしながら日頃の状態の把握に努めることで異常の早期発見につなげている。勉強会で緊急時の対応なども定期的に行っている。				
34	服薬支援	a	職員は、利用者が使用する薬の目的や副作用、用法や用量について理解している。	△	服薬ファイルを作成し、二重チェック・飲み忘れ、誤薬を防ぐように心がけている。職員一人一人が理解できるようにしている。多国籍の職員が多いため 今後どのようにしたら全員が把握できるか検討が必要				
		b	利用者一人ひとりが医師の指示どおりに服薬できるよう支援し、飲み忘れや誤薬を防ぐ取り組みを行っている。	○	配薬・確認は別々の職員がすることで誤薬の防止につなげている。				
		c	服薬は本人の心身の安定につながっているのか、また、副作用(周辺症状の誘発、表情や活動の抑制、食欲の低下、便秘や下痢等)がないかの確認を日常的に行っている。	○	薬の効能・副作用は医療機関との連携により 職員間で状態の把握をし 異常を早期に発見している。				
		d	漫然と服薬支援を行うのではなく、本人の状態の経過や変化などを記録し、家族や医師、看護職等に情報提供している。	○	状態の変化時、協力医療機関の医師と連携をし経過等を報告し、情報共有できている。				

項目 No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
35	重度化や終末期への支援	a	重度化した場合や終末期のあり方について、入居時、または状態変化の段階ごとに本人・家族等と話し合いを行い、その意向を確認しながら方針を共有している。	◎	重度化した指針を入所時に説明、同意を得てサインを頂いている。段階によって医師との相談・同意を得て、実施している。	/	/	/	事業所では、「利用者に対する健康管理について」「看取りに関する指針」を定め、入居時に職員は利用者や家族に説明し、同意を得ている。事業所では、利用者や家族の要望に応じて、看取り支援を行っている。母体が医療法人であるため、事業所での看取りにも積極的である。事業所には、看護師も常駐しており、利用者や家族には安心感がある。利用者の重度化が進む中において、事業所での看取りの希望は多く、関係者と方針を共有しながら、管理者は可能な範囲で看取り対応をしていきたいと考えている。
		b	重度化、終末期のあり方について、本人・家族等だけでなく、職員、かかりつけ医・協力医療機関等関係者で話し合い、方針を共有している。	◎	重度化・終末期のあり方について家族・協力医療機関の医師と連携を取り方針を共有している。	○		○	
		c	管理者は、終末期の対応について、その時々の職員の思いや力量を把握し、現状ではどこまでの支援ができるかの見極めを行っている。	△	終末期の対応について職員の勉強会を実施し、不安軽減やスキル向上に努めている。状態に応じて話し合いながら支援している。	/	/	/	
		d	本人や家族等に事業所の「できること・できないこと」や対応方針について十分な説明を行い、理解を得ている。	○	出来る事・出来ない事はしっかりと説明し、家族に理解を頂いている。	/	/	/	
		e	重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、家族やかかりつけ医など医療関係者と連携を図りながらチームで支援していく体制を整えている。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。	◎	主治医や職員・看護師・家族・本人を含め、連携を取り体制を整えている。	/	/	/	
		f	家族等への心理的支援を行っている。(心情の理解、家族間の事情の考慮、精神面での支え等)	○	家族への説明を十分に行い、理解をしてもらっている。遠方の家族さんにも不安にならないように適宜連携をとれるように支援している。	/	/	/	
36	感染症予防と対応	a	職員は、感染症(ノロウイルス、インフルエンザ、白癩、疥癬、肝炎、MRSA等)や具体的な予防策、早期発見、早期対応策等について定期的に学んでいる。	◎	感染症について定期的に勉強会をして予防・対策をしている。	/	/	/	
		b	感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、万が一、感染症が発生した場合に速やかに手順にそった対応ができるよう日頃から訓練を行うなどして体制を整えている。	◎	マニュアルを作成しており定期的な勉強会をしている。新人職員には都度説明して全員が対応できるようにしている。	/	/	/	
		c	保健所や行政、医療機関、関連雑誌、インターネット等を通じて感染症に対する予防や対策、地域の感染症発生状況等の最新情報を入手し、取り入れている。	◎	運営推進会議等にて地域の発生状況なども説明して頂いている。医療機関等からも情報をいただいている。	/	/	/	
		d	地域の感染症発生状況の情報収集に努め、感染症の流行に随時対応している。	◎	運営推進会議等にて地域の発生状況なども説明して頂いている。	/	/	/	
		e	職員は手洗いやうがいなど徹底して行っており、利用者や来訪者等についても清潔が保持できるよう支援している。	◎	利用者はもちろん 職員も手洗いやうがいの徹底をしている。来訪者にも玄関に手指の消毒をお願いし、対応している。	/	/	/	

項目 No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
II. 家族との支え合い									
37	本人とともに支え合う 家族との関係づくりと支援	a	職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽をともにし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。	○	毎月お便りを送ったり、遠方の方にはお手紙を添えて近況報告をしている。面会に来られた時には状態の説明をしている。	/	/	/	年2回、餅つきや芋炊きの行事には、家族も一緒に参加している。いちご狩りなどの外出行事にも、一緒参加してもらい出かけることもある。現在はコロナ禍のため、家族が参加した行事は中止となっている。遠方の家族には、職員からの電話でのやり取りのほか、事業所便りを送付し、利用者の様子を伝えている。利用者の要望で、自ら手紙を書き、請求書等の送付時に同封することもしており、家族から喜ばれている。新型コロナウイルス感染症対策のため、事業所では面会制限も設けていることもあり、パソコンなどを活用したりリモートでの面会を行う利用者もいる。面会や運営推進会議の時を活用し、職員は家族から気がかりなことや要望を聞くよう努めており、直接、管理者に電話相談している家族もいる。事業所の事柄については、運営推進会議での報告するほか、事業所便りに記載して家族等にも周知している。また、前回の調査から、事業所便りに新人職員の紹介の掲載するよう改善されている。
		b	家族が気軽に訪れ、居心地よく過ごせるような雰囲気づくりや対応を行っている。(来やすい雰囲気、関係再構築の支援、湯茶の自由利用、居室への宿泊のしやすさ等)	○	いつでも気軽に来てもらえるように玄関も開放している。ゆっくり過ごしてもらるように声掛けしている。	/	/	/	
		c	家族がホームでの活動に参加できるように、場面や機会を作っている。(食事づくり、散歩、外出、行事等)	△	仕事をしている家族が多くなり現状は難しい。今後どのようにしたらよいか検討が必要	◎	/	○	
		d	来訪する機会が少ない家族や疎遠になってしまっている家族も含め、家族の来訪時や定期的な報告などにより、利用者の暮らしぶりや日常の様子を具体的に伝えている。(「たより」の発行・送付、メール、行事等の録画、写真の送付等)	○	毎月お便りを送ったり、遠方の方にはお手紙を添えたり定期的な報告をしている。	/	○	/	
		e	事業所側の一方的な情報提供ではなく、家族が知りたいことや不安に感じていること等の具体的な内容を把握して報告を行っている。	○	家族の不安や意向は都度聞き報告をするようにしている。	/	/	/	
		f	これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係を築いていけるように支援している。(認知症への理解、本人への理解、適切な接し方・対応等についての説明や働きかけ、関係の再構築への支援等)	○	今後起こり得る認知症の悪化や状態を説明しながら適切に関わり続けてもらえるよう理解してもらっている。	/	/	/	
		g	事業所の運営上の事柄や出来事について都度報告し、理解や協力を得るようにしている。(行事、設備改修、機器の導入、職員の異動・退職等)	○	人事との連携を図り、職員の確保人材の紹介など取り入れている。	/	○	○	
		h	家族同士の交流が図られるように、様々な機会を提供している。(家族会、行事、旅行等への働きかけ)	△	家族会はあるが仕事をしている方が多いので現状は難しい	/	/	/	
		i	利用者一人ひとり起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている。	○	今後起こり得るリスクについて面会時やケアプラン等で説明をしている。	/	/	/	
		j	家族が、気がかりなことや、意見、希望を職員に気軽に伝えたり相談したりできるように、来訪時の声かけや定期的な連絡等を積極的にやっている。	○	家族の面会時には出来るだけ連絡・報告をするようにしている。相談がある場合にも気軽に対応できる体制にしている。	/	/	○	
38	契約に関する説明と納得	a	契約の締結、解約、内容の変更等の際は、具体的な説明を行い、理解、納得を得ている。	◎	契約時に十分説明をして理解・納得を得ると共に何かあればいつでも相談できる様に心がけている。	/	/	/	
		b	退居については、契約に基づくとともにその決定過程を明確にし、利用者や家族等に具体的な説明を行った上で、納得のいく退居先に移れるように支援している。退居事例がない場合は、その体制がある。	○	退去の希望がある場合には十分な説明をし、希望先にスムーズに移れるように支援している。	/	/	/	
		c	契約時及び料金改定時には、料金の内訳を文書で示し、料金の設定理由を具体的に説明し、同意を得ている。(食費、光熱水費、その他の実費、敷金設定の場合の償却、返済方法等)	○	料金改定時には説明し、同意を得て対応している。	/	/	/	

項目 No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
Ⅲ. 地域との支え合い									
39	地域とのつきあいやネットワークづくり ※文言の説明 地域：事業所が所在する市町の日常生活圏域、自治会エリア	a	地域の人に対して、事業所の設立段階から機会をつくり、事業所の目的や役割などを説明し、理解を図っている。	○	運営推進会議や行事に参加してもらったりして事業所を知ってもらい理解を図っている。	/	○	/	町内会には入会していないが、回覧板を回してもらい地域の情報を得ることもある。回覧板は、閲覧後に利用者と一緒に次の世帯へ届けている。事業所として、近隣の公園の清掃活動に積極的に参加したり、保育園との交流をしたりしている。地域のお祭りでは、職員が神輿の担いだり、パザールの出店したりするなどの活躍もしている。コロナ禍の以前には、事業所周辺の散歩時に地域住民に挨拶をすることはあったが、住宅街ということもあり、日中は仕事に出かけ不在の家も多い。また、近隣に住む外国人が、クリスマスにはサンタクロースに扮してやって来るなど、日頃から地域との交流を大切にしている。
		b	事業所は、孤立することなく、利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、地域の人たちに対して日頃から関係を深める働きかけを行っている。(日常的なあいさつ、町内会・自治会への参加、地域の活動や行事への参加等)	○	地域行事に参加したりして関係を築いている。	/	○	○	
		c	利用者を見守ったり、支援してくれる地域の人たちが増えている。	○	運営推進会議等で少しずつ顔なじみの関係が増えている	/	/	/	
		d	地域の人気が気軽に立ち寄り遊びに来たりしている。	△	用事のある時は来てもらえるがまだまだ気軽に寄ってもらえることは少ない。	/	/	/	
		e	隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらうなど、日常的なおつきあいをしている。	△	散歩時等は挨拶したりするがまだまだ日常的な付き合いが出来ていないのが現状	/	/	/	
		f	近隣の住民やボランティア等が、利用者の生活の拡がりや充実を図ることを支援してくれるよう働きかけを行っている。(日常的な活動の支援、遠出、行事等の支援)	○	地域行事に参加することで少しずつ広がりが増えている	/	/	/	
		g	利用者一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	△	施設内での資源(マンパワー)だけでなく他の資源の活用も検討し努力している。	/	/	/	
		h	地域の人たちや周辺地域の諸施設からも協力を得ることができるよう、日頃から理解を拡げる働きかけや関係を深める取り組みを行っている(公民館、商店・スーパー・コンビニ、飲食店、理美容店、福祉施設、交番、消防、文化・教育施設等)。	○	地域行事や運営推進会議等で関係を築いている。	/	/	/	
40	運営推進会議を活かした取組み	a	運営推進会議には、毎回利用者や家族、地域の人等の参加がある。	○	地域の方や利用者・家族に参加してもらい行っている。	○	/	○	運営推進会議には、利用者や家族、民生委員、町内会長、地域住民、近隣の介護サービス事業所、市担当者などの参加を得て開催している。会議では、参加者から意見や要望が出され、事業所の考え方をしっかり返答している。会議で外部評価の自己評価の取組みなどが報告できていないため、今後の課題として取り上げるなど、報告することを期待したい。今年の4月以降の会議は、コロナ禍のため書面での開催となっている。
		b	運営推進会議では、利用者やサービスの実績、評価への取り組み状況(自己評価・外部評価の内容、目標達成計画の内容と取り組み状況等)について報告している。	△	外部評価の結果が届いたときには説明をしていくようにする。	/	/	×	
		c	運営推進会議では、事業所からの一方的な報告に終わらず、会議で出された意見や提案等を日々の取り組みやサービス向上に活かし、その状況や結果等について報告している。	○	地域の方や参加者からの助言はしっかりと聞き今後につなげていけるようにしている。	/	◎	○	
		d	テーマに合わせて参加メンバーを増やしたり、メンバーが出席しやすい日程や時間帯について配慮・工夫をしている。	◎	地域の方の意見を聞き 午前中にしている。今後テーマに合わせてメンバーの参加も検討したい	/	/	○	
		e	運営推進会議の議事録を公表している。	○	誰でも見やすい所に置いている。	/	/	/	

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
IV.より良い支援を行うための運営体制									
41	理念の共有と実践	a	地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、代表者、管理者、職員は、その理念について共通認識を持ち、日々の実践が理念に基づいたものになるよう日常的に取り組んでいる。	△	事業所の理念は出来ているが、理念についての共通認識は持っていない状態。一部の職員のみ認識している状況であるため今後の課題となる。	/	/	/	
		b	利用者、家族、地域の人たちにも、理念をわかりやすく伝えている。	○	各ユニットの事務所前で掲示しており、面会時や入居時に伝えられるようにしている。	○	×	/	
42	職員を育てる取り組み ※文言の説明 代表者:基本的には運営している法人の代表者であり、理事長や代表取締役が該当するが、法人の規模によって、理事長や代表取締役をその法人の地域密着型サービス部門の代表者として扱うのは合理的ではないと判断される場合、当該部門の責任者などを代表者として差し支えない。したがって、指定申請書に記載する代表者と異なることはありうる。	a	代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、計画的に法人内外の研修を受けられるよう取り組んでいる。	◎	個々に適した勉強会への参加や講習会への呼びかけを行っている。研修報告は全員がよめるようにしている。	/	/	/	医師である代表者は、月2回事業所に往診に訪れ、職員と顔を合わせる機会がある。忘年会や旅行、バーベキュー、女子会を協力してくれるなど、職員は、法人・事業所として福利厚生が充実していると感じている。代表者は、職員のストレス軽減に努め、働きやすい環境づくりをしている。
		b	管理者は、OJT(職場での実務を通して行う教育・訓練・学習)を計画的に行い、職員が働きながらスキルアップできるよう取り組んでいる。	△	OJTを計画的に実施できる様に検討している。	/	/	/	
		c	代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	◎	能力向上を目指し研修を受けたり、資格が取れるように便宜を図っている。常勤・パートの人材確保により、勤務状態を確保している。福利厚生も充実しており、職員がやりがいをもって働いている。	/	/	/	
		d	代表者は管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互研修などの活動を通して職員の意識を向上させていく取り組みをしている。(事業者団体や都道府県単位、市町単位の連絡会などへの加入・参加)	○	同業者との意見交換を図っている。以前から所属ボランティアグループの同士との交流ある。	/	/	/	
		e	代表者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。	○	管理者のストレス軽減のために常に相談体制であり、職員の「ためには、社内旅行など実施し働きやすく気遣っている。	/	○	○	
43	虐待防止の徹底	a	代表者及び全ての職員は、高齢者虐待防止法について学び、虐待や不適切なケアに当たるのは具体的にどのような行為なのかを理解している。	○	高齢者虐待防止のマニュアルがあると共に、具体的な虐待の種類を勉強している。	/	/	/	事業所内で勉強会を実施するほか、外部研修に参加するなど、虐待防止や不適切な対応をしないよう、職員の意識向上に努めている。世間で高齢者等の虐待の報道があった場合には、代表者から役員の徴集があり、内容を周知するとともに、虐待防止の徹底について話し合いをしている。職員は、他の職員等の不適切な行為を発見した場合の対応方法や手順についても理解している。
		b	管理者は、職員とともに日々のケアについて振り返ったり話し合ったりする機会や場をつくっている。	○	チーフ会、ミーティングを実施している。各話し合う利用者を挙げている。	/	/	/	
		c	代表者及び全ての職員は、虐待や不適切なケアが見逃ごされることがないように注意を払い、これらの行為を発見した場合の対応方法や手順について知っている。	○	常に声掛けなどミーティング統一し、常に声掛けし話している。	/	/	/	
		d	代表者、管理者は職員の疲労やストレスが利用者へのケアに影響していないか日常的に注意を払い、点検している。	○	対応困難事例等は、常に話しを検討し方針方向性を決めていくようにしている。	/	/	/	
44	身体拘束をしないケアの取り組み	a	代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」や「緊急やむを得ない場合」とは何かについて正しく理解している。	△	理解している職員は一部の職員のみ状態。身体拘束対策検討会議を定期的に開催している。	/	/	/	
		b	どのようなことが身体拘束に当たるのか、利用者や現場の状況に照らし合わせて点検し、話し合う機会をつくっている。	○	身体拘束対策検討会議を開催しており、勉強会で周知している。	/	/	/	
		c	家族等から拘束や施設への要望があっても、その弊害について説明し、事業所が身体拘束を行わないケアの取り組みや工夫の具体的な内容を示し、話し合いを重ねながら理解を図っている。	△	現段階では、家族からの施設への要望はないが、2人だけ身体拘束の説明と同意は得ている。	/	/	/	

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
45	権利擁護に関する制度の活用	a	管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学び、それぞれの制度の違いや利点などを理解している。	◎	社会福祉士として成年後見人制度の研修を受け、愛媛県社会福祉士会ばあとなあ所屬し受任している。	/	/	/	
		b	利用者や家族の現状を踏まえて、それぞれの制度の違いや利点なども含め、パンフレット等で情報提供したり、相談にのる等の支援を行っている。	◎	成年後見人研修により、身上監護と財産管理を基本として、制度を勉強している。	/	/	/	
		c	支援が必要な利用者が制度を利用できるよう、地域包括支援センターや専門機関(社会福祉協議会、後見センター、司法書士等)との連携体制を築いている。	○	福祉利用援助サービスについての内容について勉強している。	/	/	/	
46	急変や事故発生時の備え・事故防止の取り組み	a	怪我、骨折、発作、のど詰まり、意識不明等利用者の急変や事故発生時に備えて対応マニュアルを作成し、周知している。	○	事故対応マニュアルがあり、過失がある場合は、損害保険対応可能である。	/	/	/	
		b	全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	○	定期的に応急手当等、事業所の職員が集まって研修をしている。	/	/	/	
		c	事故が発生した場合の事故報告書はもとより、事故の一手手前の事例についてもヒヤリハットにまとめ、職員間で検討するなど再発防止に努めている。	△	事故対策委員会を立ち上げている。ヒヤリハットを検討する体制を整えミーティングに挙げている。	/	/	/	
		d	利用者一人ひとりの状態から考えられるリスクや危険について検討し、事故防止に取り組んでいる。	○	利用者リスクを話し合うチーム会を開催し検討している。	/	/	/	
47	苦情への迅速な対応と改善の取り組み	a	苦情対応のマニュアルを作成し、職員はそれを理解し、適宜対応方法について検討している。	○	苦情対応マニュアルがあり、苦情報告等の書類作成している。	/	/	/	
		b	利用者や家族、地域等から苦情が寄せられた場合には、速やかに手順に沿って対応している。また、必要と思われる場合には、市町にも相談・報告等している。	○	苦情が寄せられた時は、マニュアルに沿って対応している。苦情対応委員の立ち上げの検討をしている。	/	/	/	
		c	苦情に対しての対策案を検討して速やかに回答するとともに、サービス改善の経過や結果を伝え、納得を得ながら前向きな話し合いと関係づくりを行っている。	○	苦情の事実確認を行うと共に話し合う機会を持つ様に努力している。	/	/	/	
48	運営に関する意見の反映	a	利用者が意見や要望、苦情を伝えられる機会をつくっている。(法人・事業所の相談窓口、運営推進会議、個別に訊く機会等)	○	入所時にも家族に対し苦情窓口を説明し、利用者にも報告している。	/	/	○	日常生活の中で、職員は利用者意見に伝えてもらえるよう、会話の機会を多く持っている。家族からは、面会や運営推進会議、電話連絡時を活用して意見を聞くよう努めている。管理者は現場に出ており、職員の気持ちがよく理解できている。管理者は、職員から現場やミーティング時に意見を聞き、利用者本位のサービスが提供できるよう検討している。
		b	家族等が意見や要望、苦情を伝えられる機会をつくっている。(法人・事業所の相談窓口、運営推進会議、家族会、個別に訊く機会等)	○	法人全体で苦情マニュアルを説明し、利用者にも報告している。	◎	/	○	
		c	契約当初だけではなく、利用者・家族等が苦情や相談ができる公的な窓口の情報提供を適宜行っている。	○	入所時に必ず苦情マニュアルがある事説明し、話しやすい雰囲気で見ている。	/	/	/	
		d	代表者は、自ら現場に足を運ぶなどして職員の意見や要望・提案等を直接聞く機会をつくっている。	◎	月に1回は法人に往診に来て下さり全体を見て下さる。	/	/	/	
		e	管理者は、職員一人ひとりの意見や提案等を聴く機会を持ち、ともに利用者本位の支援をしていくための運営について検討している。	○	ミーティングなどで、何かないか話したり、常に声掛けして話を傾聴している。	/	/	○	

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
49	サービス評価の取り組み	a	代表者、管理者、職員は、サービス評価の意義や目的を理解し、年1回以上全員で自己評価に取り組んでいる。	◎	外部評価を実施し、ミーティングで話し合い、伝達方法で報告している。				外部評価のサービス評価結果について、運営推進会議の中で報告しているが、外部からの事業所のモニタリングまでには至っていない。自己評価については、事業所の取り組みの振り返りにも活用できることから、可能な限り多くの職員で取り組むことを望みたい。また、今後は目標達成計画を踏まえ、目標の取組み状況を運営推進会議の中で報告するなど、会議の参加者や家族にも理解を得られるような取組みを期待したい。
		b	評価を通して事業所の現状や課題を明らかにするとともに、意識統一や学習の機会として活かしている。	◎	評価について1つ1つ出来る事を職員皆で協力し実施している。				
		c	評価(自己・外部・家族・地域)の結果を踏まえて実現可能な目標達成計画を作成し、その達成に向けて事業所全体で取り組んでいる。	○	1つ1つ目標達成計画を、ミーティングで話し合い出来る事を実施している。				
		d	評価結果と目標達成計画を市町、地域包括支援センター、運営推進会議メンバー、家族等に報告し、今後の取り組みのモニターをしてもらっている。	○	評価結果を運営推進会議で家族さんに見て頂いている。	○	○	△	
		e	事業所内や運営推進会議等にて、目標達成計画に掲げた取り組みの成果を確認している。	○	目標達成計画後に会議等で確認を実施している。				
50	災害への備え	a	様々な災害の発生を想定した具体的な対応マニュアルを作成し、周知している。(火災、地震、津波、風水害、原子力災害等)	○	施設内の防火管理者により、各マニュアルを作成している。				様々な災害を想定した避難訓練を実施している。運営推進会議の開催に合わせて避難訓練を実施する工夫をしており、家族や近隣住民、町内会長、民生委員などにも、訓練への参加協力が得られている。また、事業所では災害時の対応マニュアルを作成している。
		b	作成したマニュアルに基づき、利用者が、安全かつ確実に避難できるよう、さまざまな時間帯を想定した訓練を計画して行っている。	○	避難訓練は日中・夜間想定を交互に行っている。				
		d	消火設備や避難経路、保管している非常用食料・備品・物品類の点検等を定期的に行っている。	○	4か月に1回の総点検によって確認作業を実施している。スプリンクラーのタンク内清掃は施設職員が行っている。				
		e	地域住民や消防署、近隣の他事業所等と日頃から連携を図り、合同の訓練や話し合う機会をつくるなど協力・支援体制を確保している。	◎	運営推進会議にも避難訓練を取り入れ、近隣の方々や家族、市役所の方にも消防署立会いのもと、消火訓練に参加して頂いている。	○	○	○	
		f	災害時を想定した地域のネットワークづくりに参加したり、共同訓練を行うなど、地域の災害対策に取り組んでいる。(県・市町、自治会、消防、警察、医療機関、福祉施設、他事業所等)	◎	地域の震災想定避難訓練に利用者を含め参加させて頂いた。馬木では近隣の聾学校を避難拠点としたネットワークが出来ている。				
51	地域のケア拠点としての機能	a	事業所は、日々積み上げている認知症ケアの実践力を活かして地域に向けて情報発信したり、啓発活動等に取り組んでいる。(広報活動、介護教室等の開催、認知症サポーター養成研修や地域の研修・集まり等での講師や実践報告等)	△	地域に向けて情報発信できる機会が2ヶ月に1度の運営推進会議のみの為、機会を増やす取り組みが今後の課題となる。				事業所として特に相談窓口は設けていないが、近隣の認知症の方の家族に相談場所を紹介したり、地域包括支援センターへ相談をつなげたりしている。母体法人の医院にも事業所のパンフレットを配布し、相談支援につながるよう努めている。また、事業所では、地域行事やボランティア活動に参加したり、外国人技能実習生を受け入れたりするなど、地域貢献や人材育成にも協力している。
		b	地域の高齢者や認知症の人、その家族等への相談支援を行っている。	◎	地域の方への相談はなかなか出来ないが、必要な場合は対応はできる体制は作っている。		△	○	
		c	地域の人たちが集う場所として事業所を解放、活用している。(サロン・カフェ・イベント等交流の場、趣味活動の場、地域の集まりの場等)	○	月1回たご焼き屋さん来訪で近所の方々の憩いの場となっている。週1回パンの販売も来て頂いており、近隣の方へ呼びかけている。				
		d	介護人材やボランティアの養成など地域の人材育成や研修事業等の実習の受け入れに協力している。	◎	月に1度、たいさん歯科による口腔ケア講習を開催している。救命講習も施設内で行い、別事業所の職員の実習の受け入れも行っている。				
		e	市町や地域包括支援センター、他の事業所、医療・福祉・教育等各関係機関との連携を密にし、地域活動を協働しながら行っている。(地域イベント、地域啓発、ボランティア活動等)	△	定期的にセミナーの案内を頂いているが、参加率が低い為、課題となる。			○	